

Tohoku University Fact Book 2014

東北大学概要 2014



東北大学

CONTENTS

〈はじめに〉

歴史的背景・東北大学学章・ロゴマーク・スクールカラー	01
学生歌・校友歌・使命・目指す大学の姿	02
総長挨拶	03
歴代総長	04
沿革図	05
ノーベル賞・文化勲章等受賞者	07
学内表彰	11

〈組 織〉

運営組織	13
機構図	14
役員・主な役職者	15
総長選考会議	19
役員会	19
経営協議会	19
教育研究評議会	20
役員・職員数	21
学部	22
大学院	23
附置研究所・研究施設・組織・機構等	25
高等研究機構	
原子分子材料科学高等研究機構	
知の創出センター	
情報シナジー機構	
東北メディカル・メガバンク機構	
イノベーション戦略推進本部	
総合技術部	
マイクロシステム融合研究開発センター	
省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター	
電気通信研究機構	
材料科学共同研究センター	
国際集積エレクトロニクス研究開発センター	
リーディングプログラム推進機構	
産学連携先端材料研究開発センター	
レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター	
附属図書館	27
病院	28

〈学 生〉

学生数	29
入学状況	30
学部卒業生数・学位授与者数	32
卒業後の状況	33
産業別就職者数	35
校友会	36

〈財 務〉

平成25年度収入・支出予算	37
研究費等受入状況	37
土地・建物	39

〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉

災害復興新生研究機構	41
世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)	42
卓越した大学院拠点形成支援補助金	42
革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)	43
研究大学強化促進事業	44
大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業	45
教育	46
寄附講座・寄附研究部門	47
共同研究講座・共同研究部門	47
産学連携	48
社会との連携協力	49
東北大学校友会	51
東北大学基金	52

〈国際交流〉

学術交流協定締結等	53
研究者受入等状況	59
海外拠点	60
外国人留学生数	61
国際交流戦略の基本指針	65
国際的な大学連合への加盟	66

〈キャンパス〉

施設所在地一覧	67
建物配置図	69

歴史的背景

Historical Background

東北大学は、1907年(明治40年)に東北帝国大学として創立し、当初から、専門学校、高等師範学校の卒業生にも門戸を開き、1913年(大正2年)には、当時の政府からの圧力にも屈せず、日本の大学として初めて、3名の女子の入学を許可し、「門戸開放」が本学の不動の理念であることを世に示した。

また、創立に当たって、世界の学界でトレーニングを積んだ若き俊秀が教授として集まったこともあって、研究者が独創的な研究成果を次々と生み出しながら、それを学生に対する教育にも生かすという「研究第一主義」の精神が確立された。さらに、いち早く大学発のベンチャー企業を設立して地域産業の育成を図ったり、日常生活に最も密着した法律である家族法の研究の日本の中心になるなど、世界最先端の研究成果を社会や人々の日常生活に役立てる「実学尊重」の伝統も育んできた。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では本学も多大な被害を受けたが、全学を挙げて教育・研究機能の回復に努めるとともに、創立以来の伝統と精神を礎に東北の復興、日本の新生に向けて取り組んでいる。

東北大学学章・

ロゴマーク・スクールカラー

Tohoku University's Official Symbol,
Logo and School Colors

東北大学では、開学以来初めてとなる公式ロゴマークを平成17年3月に制定しました。デザインは「Creativity」「Global」「Tradition」をキーワードに、仙台を象徴する植物、「萩」をモチーフとし、世界に大きく広がっていく動きを表現している。公式カラーは、「紫」と「黒」の二色を採用しており、「紫」は知性と創造力を表現し、「黒」は勤勉と実践力を表現している。また、七色のサブカラーを定め、多種多様な用途に使えるようにしている。



また東北大学は、長年にわたり正式に制定された学章やロゴマークを持っていなかったことから、本学が創立百周年を迎えたのを機にこれらを平成19年6月に制定した。学章は東北大学ロゴマークとし、スクールカラーは東北大学ロゴマークの公式カラーである「紫」とした。

学生歌・校友歌

Tohoku University's Student's Song and Alumni's Song

半世紀以上に渡って親しまれてきた「青葉もゆるこのみちのく」を、平成19年の創立百周年を機に正式に学生歌として制定した。また新たに、平成25年には「緑の丘」を同窓生、在校生、教職員、そして東北大学を支えるすべての関係者のための歌である校友歌とし、今後、この二曲を大切に歌い継いでいくこととした。

東北大学の使命 2005年12月27日

Mission Statement

東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造する。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献する。

東北大学が目指す大学の姿 2005年12月27日

Towards Tohoku University 2016

東北大学は、その使命を果すため、今後10年間で、次のような大学になることを目指す。

〈世界最高水準の総合研究拠点の確立〉

- 自然科学、人文科学、社会科学にわたる、幅広い分野において、世界をリードする研究成果を恒常的に創造する。
- 知識の加速度的集積と知識基盤型社会の要請に応えるために、たえず最適の研究組織の編成を図る。
- 国内外の主要研究機関との研究ネットワーク連携を整備すると共に、世界的総合研究拠点としての声望・評価を確立する。

〈社会の発展と新たな知の創造を担う指導的人材の養成〉

- 教員は、最先端の研究に従事しながら、その成果を教育に反映させる。
- すべての授業を「世界最高水準の教育拠点」にふさわしい内容と方法で提供する。
- 新たな知の創造に必要な基礎知識と社会の指導者としての責任意識を涵養する教育を実施する。
- 高度の国際性、専門知識、応用能力を備えた高度専門職業人を養成する教育プログラムと組織を整備・発展させる。

〈世界と地域への貢献〉

- 研究成果を社会に普及させ、指導的人材を社会に送り出すことによって、人類社会及び地域社会の発展に寄与する。
- 資質と意欲があれば、誰もが、国籍・人種・性別・年齢・宗教・社会階層等に関わりなく、平等に、学生・職員として受け入れられる機会を与える。
- 「実学尊重」の伝統を踏まえて、産学連携を推進し、サイエンスパークを整備する。
- 市民を対象にした教育や、専門知識を活用する相談サービス等の提供を、質・量ともに飛躍的に充実させる。
- キャンパスを市民との共生の場として開放すると共に、大学所蔵の図書・学術資料・施設等の知的資源・財産の社会的有効活用を図る。

〈世界最高水準の研究・教育拠点にふさわしい文化・環境・経営体制の整備〉

- 世界最高水準の研究・教育を活性化するような学内の文化を保持・発展させる。
- キャンパスの景観の美的統一と自然環境との調和を図り、知的創造活動にふさわしい雰囲気醸出する。
- 世界最高水準の研究・教育活動を柔軟且つ機動的に展開するのに必要な施設、人的・物的・財政的基盤及び経営体制を整える。

はじめに

東北大学は、1907年(明治40年)の建学以来、一世紀以上の歴史を有する総合大学として、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げて優れた人材を輩出し、数多くの研究成果を世に送り出してきました。

現在、私達は東日本大震災での被災経験をはじめ、産業収益力の低下や少子高齢化、グローバル化に伴う国際競争の激化、地球規模の環境問題など、多くの課題に直面しています。このようなグローバルでかつ混沌とした状況の中、大学の知に、東北大学に何が求められているのでしょうか。私は「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・新生の先導」をキーワードと考え、総長就任時の目標として掲げました。



『ワールドクラスへの飛躍』

『ワールドクラスへの飛躍』とは、学術基盤を豊かにし、教育研究レベルの一層の向上を図ることにより、グローバル社会を牽引する卓越した教育・研究を行う、世界から尊敬される大学になることを意味します。今年は懸案であった教育・研究面での改革を実行する年となります。教育面では、今後ますます進行する国際化を見据え、世界を舞台に活躍し社会にイノベーションをもたらす人材を育成するため、基盤となる教養教育の充実を図ります。研究面では高等研究機構を設置するとともに、知のフォーラム事業を促進します。本学の強い分野は更に強くして世界の最先端の成果を上げられるようにすると同時に、弱い分野はその弱点を明らかにして、強くなるために大胆に変化させられるような仕組みを作っていきます。また、世界の一流研究者を招聘し本学に滞在していただき、最先端の研究者との有意義なディスカッションの場を学内外へ提供します。異なる分野の研究者が自由に討議することにより、本学発の先駆的研究領域の創生を目指すとともに、将来のグローバルリーダーを養成します。

『復興・新生の先導』

『復興・新生の先導』の役割を果たすべく、災害復興新生研究機構のもと8つのプロジェクトや100を超えるアクションプランを引き続き推進します。東日本大震災から3年余が過ぎた今、目に見える形での成果を出し、社会へ還元していかなばなりません。来年3月には、国連主催の「第3回国連防災世界会議」が仙台で開催されます。東日本大震災の被災地である仙台でこの会議が開催されることは、被災地の復興や防災を世界に発信することにより国際貢献を行う極めて重要な機会になると受け止め、東北大学も災害科学国際研究所を中心に多くの研究者が参画いたします。

これからの東北大学 ～『東北大学グローバルビジョン』

この2つの目標を達成する具体的な道筋を明らかにするために、本年5月に『東北大学グローバルビジョン』を公表しました。これは、全学的観点から策定し、昨年公表した「里見ビジョン」、そして、それに連動する「部局ビジョン」の二部構成になっています。本学を構成する高度で多様性に富む諸組織の力を結集し、大学全体として将来へ向けた取り組むべき課題を社会に提示することで、大学改革の主体的実行及び大学の機能強化を一層推進していきます。

東北大学は、時代を先取りして未来を創造し、歴史に自らを位置付けることができる存在であると信じます。東北大学が果たすべき使命、取り組むべき活動を皆様にご理解いただきながら平和で公正な人類社会の発展に貢献していく所存です。

2014年6月

東北大学総長 里 見 進

歴代総長

歴代総長

代 数	氏 名	在任期間
初 代	澤 柳 政太郎	明治44(1911)年 3月24日～ 大正 2(1913)年 5月 8日
第 2 代	北 條 時 敬	大正 2(1913)年 5月 9日～ 大正 6(1917)年 8月24日
(事務取扱)	小 川 正 孝	大正 6(1917)年 8月25日～ 大正 6(1917)年10月14日
第 3 代	福 原 鏝二郎	大正 6(1917)年10月15日～ 大正 8(1919)年 6月20日
第 4 代	小 川 正 孝	大正 8(1919)年 6月21日～ 昭和 3(1928)年 6月14日
第 5 代	井 上 仁 吉	昭和 3(1928)年 6月15日～ 昭和 6(1931)年 6月14日
第 6 代	本 多 光太郎	昭和 6(1931)年 6月15日～ 昭和15(1940)年 5月30日
第 7 代	熊 谷 岱 蔵	昭和15(1940)年 5月31日～ 昭和21(1946)年 2月11日
第 8 代	佐 武 安太郎	昭和21(1946)年 2月12日～ 昭和24(1949)年 3月31日
第 9 代	高 橋 里 美	昭和24(1949)年 4月 1日～ 昭和32(1957)年 6月30日
第10代	黒 川 利 雄	昭和32(1957)年 7月 1日～ 昭和38(1963)年 6月30日
第11代	石 津 照 璽	昭和38(1963)年 7月 1日～ 昭和40(1965)年10月 4日
(事務取扱)	元 村 勲	昭和40(1965)年10月 5日～ 昭和40(1965)年11月19日

代 数	氏 名	在任期間
第12代	本 川 弘 一	昭和40(1965)年11月20日～ 昭和46(1971)年 2月 2日
(事務取扱)	水 野 弥 彦	昭和46(1971)年 2月 3日～ 昭和46(1971)年 4月30日
第13代	加 藤 陸奥雄	昭和46(1971)年 5月 1日～ 昭和52(1977)年 4月30日
第14代	前 田 四 郎	昭和52(1977)年 5月 1日～ 昭和58(1983)年 4月30日
第15代	石 田 名香雄	昭和58(1983)年 5月 1日～ 平成 元(1989)年 4月30日
第16代	大 谷 茂 盛	平成 元(1989)年 5月 1日～ 平成 2(1990)年 9月30日
(事務取扱)	吉 永 馨	平成 2(1990)年10月 1日～ 平成 2(1990)年11月 5日
第17代	西 澤 潤 一	平成 2(1990)年11月 6日～ 平成 8(1996)年11月 5日
第18代	阿 部 博 之	平成 8(1996)年11月 6日～ 平成14(2002)年11月 5日
第19代	吉 本 高 志	平成14(2002)年11月 6日～ 平成18(2006)年11月 5日
第20代	井 上 明 久	平成18(2006)年11月 6日～ 平成24(2012)年 3月31日
第21代	里 見 進	平成24(2012)年 4月 1日～



初代 澤柳政太郎



第2代 北條時敬



第3代 福原鏝二郎



第4代 小川正孝



第5代 井上仁吉



第6代 本多光太郎



第7代 熊谷岱蔵



第8代 佐武安太郎



第9代 高橋里美



第10代 黒川利雄



第11代 石津照璽



第12代 本川弘一



第13代 加藤陸奥雄



第14代 前田四郎



第15代 石田名香雄



第16代 大谷茂盛



第17代 西澤潤一



第18代 阿部博之



第19代 吉本高志



第20代 井上明久

沿革図

明治9(1876)年8月
札幌農学校

明治40(1907)年 創立
農科大学
明治40(1907)年9月
東北帝国大学

大正7(1918)年4月
分離独立・北海道帝国大学
大正8(1919)年4月
大学令
東北大学

昭和22(1947)年10月
新制大学
昭和24(1949)年5月

明治44(1911)年1月
理科大学

大正8(1919)年4月
理学部

明治20(1887)年8月
第二高等中学校医学部

明治34(1901)年4月
仙台医学専門学校

明治45(1912)年4月
医学専門部

大正4(1915)年7月
医科大学
大正7(1918)年4月
廃止

大正8(1919)年4月
医学部

昭和14(1939)年5月
臨時附属医学専門部

昭和19(1944)年3月
附属医学専門部

明治39(1906)年4月
仙台高等工業学校

明治45(1912)年4月
工学専門部

大正8(1919)年5月
工学部

大正10(1921)年4月
分離独立・仙台高等工業学校

昭和19(1944)年4月
仙台工業専門学校



正門(昭和初期)



史料館(旧図書館・昭和初期)

昭和22(1947)年4月
農学部

大正11(1922)年8月
法文学部

昭和24(1949)年4月
3学部に分立

明治20(1887)年4月
第二高等中学校

明治27(1894)年6月
第二高等学校大学予科

大正8(1919)年4月
第二高等学校

昭和24(1949)年5月
教育学部

昭和24(1949)年5月
包括
昭和25(1950)年3月
廃止

昭和24(1949)年6月
分校第一教養部

昭和24(1949)年6月
分校第二教養部

昭和24(1949)年6月
分校第三教養部

明治19(1886)年4月
宮城県尋常師範学校

明治31(1898)年4月
宮城県師範学校

大正2(1913)年4月
宮城県女子師範学校

大正15(1926)年4月
宮城県女子専門学校

昭和18(1943)年4月
宮城師範学校

昭和24(1949)年5月
併合

昭和24(1949)年5月
包括

昭和24(1949)年6月
分校教育教養部

昭和32(1957)年4月
北分校に改称

昭和20(1945)年4月
宮城青年師範学校

昭和24(1949)年6月
包括



片平キャンパス 正門

大正8(1919)年5月
附属鉄鋼研究所

大正11(1922)年8月
金属材料研究所

昭和16(1941)年12月
抗酸菌病研究所

昭和18(1943)年10月
高速力学研究所

昭和10(1935)年9月
附属電気通信研究所

昭和19(1944)年1月
電気通信研究所

昭和14(1939)年8月
農学研究所

昭和16(1941)年3月
選鉱製錬研究所

昭和18(1943)年1月
科学計測研究所

昭和18(1943)年10月
航空医学研究所

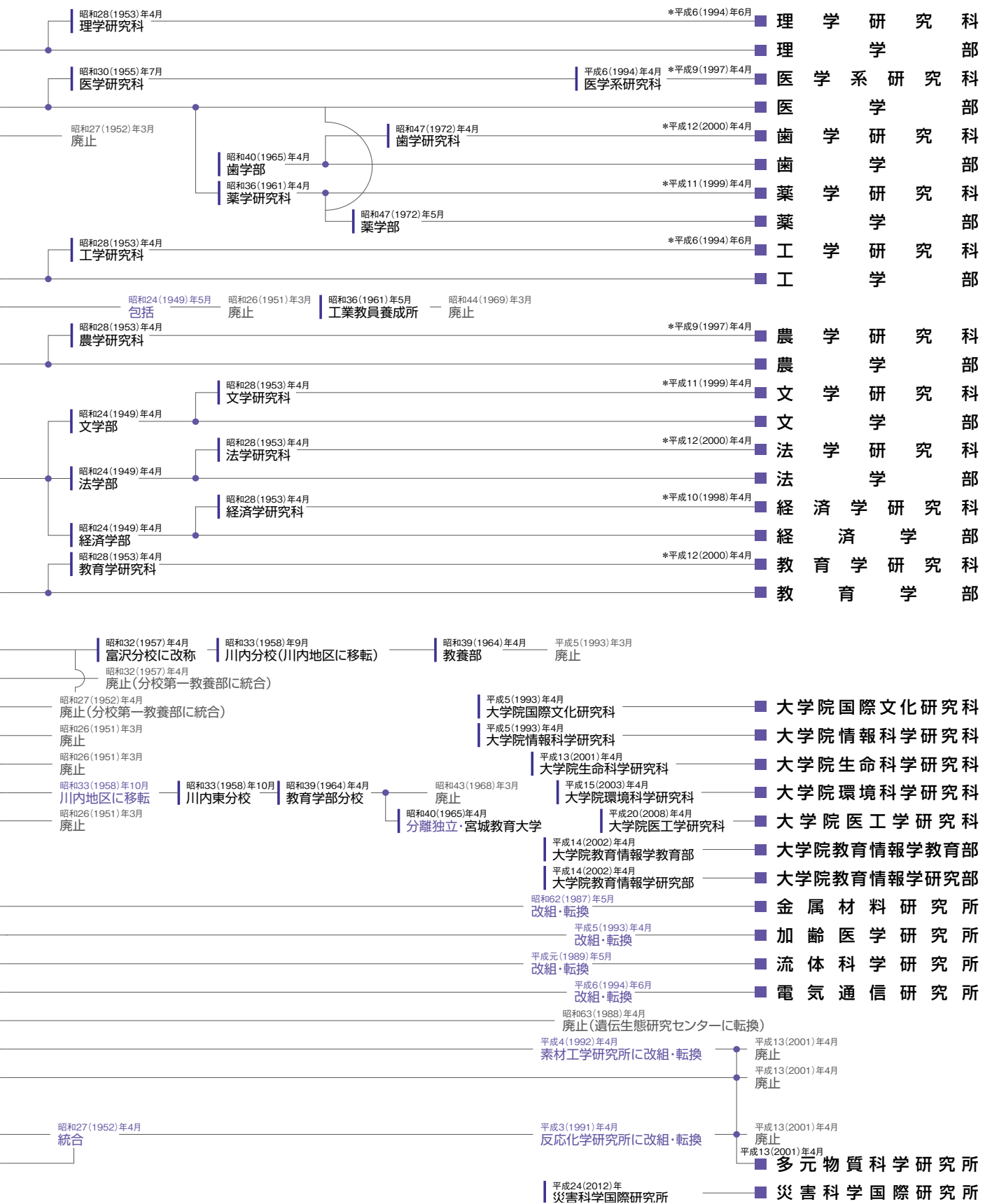
昭和19(1944)年1月
非水溶液化学研究所

昭和20(1945)年1月
硝子研究所(ガラス研究所)

(平成26年4月現在)

はじめに

昭和28(1953)年4月 新制大学院 昭和32(1957)年 創立50周年 昭和57(1982)年 創立75周年 昭和62(1987)年 創立80周年 平成16(2004)年4月 国立大学法人 平成19(2007)年 創立100周年 ■ 東 北 大 学



* 大学院重点化時期

ノーベル賞・文化勲章等 受賞者

(平成26年5月現在)

ノーベル賞受賞者

受賞年	氏 名	部局(誉博…名誉博士)	受 賞 理 由
1987年	ハンス・ハインリッヒ・ローラー	金属材料研究所(客)、誉博	走査型トンネル電子顕微鏡の開発
1999年	アハメッド・ズウェイル	ユニバーシティプロフェッサー、誉博	化学反応の超短時間解析技術の開発
2002年	田 中 耕 一	工 学 部 、 誉 博	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
2007年	ピーター・グリュンベルグ	ユニバーシティプロフェッサー、金属材料研究所(客)、誉博	巨大磁気抵抗効果(GMR)の発見
2011年	ダニエル・シェヒトマン	ユニバーシティプロフェッサー	準結晶の発見

文化勲章受章者、文化功労者

文化勲章受章者 33名・文化功労者 52名

文化勲章受章	文化功労者	氏 名	部 局	主 な 業 績
昭和12年	昭和26年	本 多 光太郎	金属材料研究所	鉄に関する金属物理学研究、特にKS鋼・新KS鋼の発明
昭和19年	昭和26年	岡 部 金治郎	工 学 部	分割陽極マグネトロン発見等の極超短波に関する研究
昭和21年		宮 部 金 吾	農 科 大 学	植物病理学の基礎構築と北方における植物の新種発見
昭和24年	昭和26年	真 島 利 行	理 学 部	漆等の天然物有機化学の研究
昭和24年	昭和26年	岡 田 武 松	理 学 部(併)	気象学の先駆的研究と気象予報体制の整備
昭和25年	昭和26年	田 辺 元	理 学 部	絶対弁証法による田辺哲学体系を確立
昭和25年	昭和26年	土 井 晩 翠	法 文 学 部	雄渾な漢文調に思想を含めた詩風を確立
昭和27年	昭和27年	熊 谷 岱 蔵	医 学 部	膵ホルモンのインシュリン発見と結核医学の研究
昭和28年	昭和27年	矢 部 長 克	理 学 部	糸魚川・静岡地質構造線提唱等の地質学・古生物学研究
昭和28年	昭和27年	宇 井 伯 寿	法 文 学 部	近代的インド哲学研究の基礎を構築
昭和29年	昭和29年	萩 原 雄 祐	理 学 部	天体力学の研究および天文台の整備充実
昭和30年	昭和30年	増 本 量	金属材料研究所	不銹変鋼をはじめとする特殊合金に関する研究
昭和31年	昭和31年	村 上 武次郎	金属材料研究所	特殊鋼の物理冶金学的研究、村上試薬の発明
昭和31年	昭和31年	八 木 秀 次	工 学 部	八木アンテナ発明等の電気工学研究
昭和32年	昭和28年	山 田 孝 雄	法 文 学 部	日本語文法の理論的体系化
昭和33年	昭和33年	野 副 鉄 男	理 学 部	ヒノキチオールおよび関連有機化合物の研究
昭和34年	昭和34年	吉 田 富 三	医 学 部	がんの発生・成長過程の研究、吉田肉腫瘍の発見
昭和39年	昭和39年	茅 誠 司	金属材料研究所	強磁性結晶体の磁気研究および戦後学術研究体制刷新の推進
昭和40年	昭和40年	赤 堀 四 郎	理 学 部	アミノ酸等に関する生物有機化学研究
昭和43年	昭和43年	黒 川 利 雄	医 学 部	がんの研究とがん集団検診の創始者
昭和46年	昭和46年	安 井 琢 磨	経 済 学 部	我が国の近代経済学発展に貢献
昭和48年	昭和37年	石 原 謙	法 文 学 部	キリスト教史の研究
昭和50年	昭和50年	広 中 平 祐	理 学 部(併)	代数幾何学の研究、特に代数多様体の特異点解消
昭和59年	昭和54年	高 橋 信 次	医 学 部	X線CTの基礎となる回転横断撮影法の開発等の放射線医学研究
昭和62年	昭和54年	桑 原 武 夫	法 文 学 部	人文科学百般にわたりスケール大きく行動した学者・文化人
平成元年	昭和58年	西 澤 潤 一	電気通信研究所	トランジスタ、半導体、ダイオードおよび光通信三大要素に関する研究
平成14年	平成14年	田 中 耕 一	工 学 部、誉 博	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
平成19年	平成11年	中 西 香 爾	理 学 部	機能性天然物有機化合物の構造および生体内機能発現に関する研究
平成20年	平成14年	ドナルド・キーン	文学部(客)、誉博	日本文学・文化の研究および海外への紹介・解説
平成21年	昭和61年	日 沼 頼 夫	歯 学 部	成人T細胞白血病のウィルス病因に関する研究
平成21年	平成15年	飯 島 澄 男	科学計測研究所	高分解能電子顕微鏡の開発とカーボンナノチューブの発見
平成24年	平成19年	小 田 滋	法 学 部	国際法学の研究、国際司法裁判所裁判官として国際貢献に尽力
平成25年	昭和62年	岩 崎 俊 一	電気通信研究所	高密度磁気記録等の電子工学研究
—	昭和29年	松 村 松 年	農 科 大 学	昆虫学全般に関する研究
—	昭和33年	高 橋 里 美	法 文 学 部	哲学、特に包弁証法等を通して独自の思想体系を展開
—	昭和34年	伊 藤 誠 哉	農 科 大 学	我が国の作物病害と菌類に関する植物病理学研究
—	昭和35年	武 内 義 雄	法 文 学 部	中国哲学、特に老子に関する研究
—	昭和38年	原 龍三郎	非水溶液化学研究所	液体アンモニア・青化物および非水溶液化学の応用に関する応用化学研究
—	昭和40年	真 島 正 市	理 科 大 学	計測工学、特に高速衝撃破壊に関する研究
—	昭和45年	渡 辺 寧	工 学 部	二重帰還増幅器・仙台放電管等の電磁機器発明・電子工学の先駆的研究
—	昭和51年	坂 村 徹	農 科 大 学	小麦の染色体に関する植物細胞学やカビ類の植物生理学に関する研究
—	昭和51年	沼 知 福三郎	高速力学研究所	機械工学、特に翼型のキャビテーション性能に関する研究
—	昭和53年	武 井 武	理 学 部	酸化金属磁性材料に関する研究、特にOP磁石の発明
—	昭和60年	金 倉 圓 照	文 学 部	インド哲学、特にインド中世精神史
—	平成4年	今 井 勇之進	金属材料研究所	鉄鋼の熱処理加工に関する金属学研究
—	平成4年	島 田 謹 二	法 文 学 部	日本における外国文学の比較文学研究
—	平成12年	横 堀 武 夫	工 学 部	金属材料の強度に関する研究
—	平成12年	増 本 健	金属材料研究所	アモルファス金属に関する基礎的および応用的研究
—	平成15年	岩 田 靖 夫	文 学 部	哲学、ギリシア倫理想、特にプラトン、ソクラテス研究
—	平成18年	伊 藤 英 覺	高速力学研究所	曲がり管・回転管の流動における管摩擦抵抗法則の確立
—	平成19年	櫻 井 英 樹	理 学 部	有機ケイ素化学を学問体系として確立
—	平成23年	遠 藤 章	農 学 部	高コレステロール血症の治療薬スタチンを開発
—	平成25年	舩 岡 富士雄	電気通信研究所	フラッシュメモリの発明

(平成26年5月現在)

日本学士院賞受賞者

学士院賞受賞	氏 名	部 局	受 賞 理 由
第 4 回 大正 3 年	日下部 四郎太	理 科 大 学	岩石の力学的研究
第 6 回 大正 5 年	本 多 光太郎	理 科 大 学	鉄に関する研究
第 7 回 大正 6 年	真 島 利 行	理 科 大 学	漆の主成分に関する研究
○ 第 8 回 大正 7 年	柴 田 桂 太	農 科 大 学	植物界に於けるフラヴォン体の研究
○ 第 9 回 大正 8 年	石 原 純	理 学 部	相対性原理、万有引力論及び量子論の研究
第 9 回 大正 8 年	市 川 厚 一	農 科 大 学	癌腫の人工的発生研究(共同研究)
○ 第 11 回 大正 10 年	布 施 現之助	医 学 部	脳の解剖的研究
第 11 回 大正 10 年	松 本 彦七郎	理 学 部	蛇尾綱(クモヒトデ)の研究
第 15 回 大正 14 年	畑 井 新喜司	理 学 部	白鼠に関する研究
△ 第 15 回 大正 14 年	曾 禰 武	金 属 材 料 研 究 所	気体の磁気係数の測定
△ 第 17 回 昭和 2 年	村 上 武次郎	金 属 材 料 研 究 所	特殊鋼の物理冶金学的研究
○ 第 18 回 昭和 3 年	掛 谷 宗 一	理 学 部	連立積分方程式及び之に関連せる函数論的研究
第 21 回 昭和 6 年	宇 井 伯 寿	法 文 学 部	印度哲学研究(全六巻)
第 21 回 昭和 6 年	増 本 量	金 属 材 料 研 究 所	強磁性元素及び其の合金の物理冶金学的研究
△ 第 22 回 昭和 7 年	宇 田 新太郎	工 学 部	超短波長電波の研究
△ 第 23 回 昭和 8 年	野 村 博	理 学 部	生薑の辛味成分の研究
第 24 回 昭和 9 年	田 所 芳 秋	理 学 部	耐火物に関する研究
第 25 回 昭和 10 年	海 野 三 朗	理 学 部	鉄炭素系合金の比熱及び其の諸相の変化に伴う熱量に関する研究
○ 第 26 回 昭和 11 年	吉 田 富 三	医 学 部	o-Amidoazotoluol の経口的投与による肝臓癌成生の実験的共同研究
△ 第 26 回 昭和 11 年	星 野 敏 雄	理 学 部	インドールの誘導体の合成的研究
第 30 回 昭和 15 年	菊 田 多利男	臨 時 理 化 学 研 究 所	鍍金の研究
○ 第 31 回 昭和 16 年	岡 部 金治郎	工 学 部	磁電管に関する研究
第 31 回 昭和 16 年	尾 形 輝太郎	理 学 部	感光色素合成に関する研究
第 32 回 昭和 17 年	茅 誠 司	金 属 材 料 研 究 所	強磁性結晶体の磁気的研究
第 33 回 昭和 18 年	木 原 玉 汝	医 学 部	樟脳の強心作用の本態に関する研究(共同研究)
第 34 回 昭和 19 年	小 竹 無二雄	理 学 部	毒物の化学的研究
第 34 回 昭和 19 年	寺 尾 博	農 学 研 究 所	水稻冷害の生理学的研究
○ 第 36 回 昭和 21 年	増 本 量	金 属 材 料 研 究 所	異常特性を有する鉄合金の研究
第 37 回 昭和 22 年	真 島 正 市	理 科 大 学	高速衝撃破壊とこれに関連せる二三の現象
第 40 回 昭和 25 年	沼 知 福三郎	工 学 部	翼型のキャビテーション性能に関する研究
第 41 回 昭和 26 年	小 川 鼎 三	医 学 部	錐体外路系に関する研究(共同研究)
第 42 回 昭和 27 年	鮫 島 實三郎	理 学 部	膠質学に関する研究
第 43 回 昭和 28 年	金 倉 圓 照	文 学 部	印度中世精神史
第 43 回 昭和 28 年	野 副 鐵 男	理 学 部	ヒノキチオール及びその関連化合物に関する研究
第 43 回 昭和 28 年	成 瀬 政 男	工 学 部	歯車に関する研究(共同研究)
○ 第 43 回 昭和 28 年	吉 田 富 三	医 学 部	吉田肉腫の病理学的研究
第 44 回 昭和 29 年	本 川 弘 一	医 学 部	脳電図の研究
第 45 回 昭和 30 年	金 倉 圓 照	文 学 部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第 45 回 昭和 30 年	山 田 龍 城	文 学 部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第 45 回 昭和 30 年	羽田野 伯 猷	文 学 部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第 45 回 昭和 30 年	多 田 等 観	文 学 部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第 45 回 昭和 30 年	赤 堀 四 郎	理 学 部	蛋白質を構成するアミノ酸の結合状態に関する研究
第 46 回 昭和 31 年	堀 一 郎	文 学 部	我が国民間信仰史の研究
第 47 回 昭和 32 年	折 茂 豊	法 学 部	国際私法の統一性
○ 第 47 回 昭和 32 年	中 村 元	文 学 部	初期のヴェーダーンタ哲学
第 49 回 昭和 34 年	高 田 修	文 学 部	居庸関(共同研究)
○ 第 50 回 昭和 35 年	高 田 修	文 学 部	醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)
○ 第 50 回 昭和 35 年	宮 次 男	文 学 部	醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)
第 50 回 昭和 35 年	神 田 英 蔵	理 学 部	低温度における凝縮気体の性質及び極低温における磁性の研究
第 51 回 昭和 36 年	佐 藤 知 雄	工 学 部	鉄鋼中の炭化物に関する研究
第 51 回 昭和 36 年	磯 永 吉	農 科 大 学	亜熱帯における稲の育種に関する研究
第 53 回 昭和 38 年	関 口 春次郎	金 属 材 料 研 究 所	鋼の溶接棒ならびに炭酸ガス酸素アーク溶接法に関する研究
第 57 回 昭和 42 年	今 井 勇之進	金 属 材 料 研 究 所	鉄鋼の熱処理加工に関する基礎研究
第 58 回 昭和 43 年	加 藤 愛 雄	理 学 部	地磁気の変化磁場の測定とその微細変動の原因に関する研究
第 58 回 昭和 43 年	神 立 誠	農 学 研 究 所	反芻胃内消化に対する纖毛虫類の機能に関する生化学的研究
第 59 回 昭和 44 年	宮 田 光 雄	法 学 部	西ドイツの精神構造

*9ページにつづく

ノーベル賞・文化勲章等 受賞者

日本学士院賞受賞者

学士院賞受賞	氏 名	部 局	受 賞 理 由
第 59 回 昭和44年	水 島 宇三郎	農 学 部	ジュウジバナ科アブラナ類の核遺伝学的研究
第 60 回 昭和45年	山 本 義 一	理 学 部	大気放射の研究
第 60 回 昭和45年	広 中 平 祐	理 学 部(併)	代数的多様体の研究
第 61 回 昭和46年	横 堀 武 夫	工 学 部	金属材料の強度に関する研究(共同研究)
第 62 回 昭和47年	岡 本 耕 造	医 学 部	糖尿病と高血圧症の基礎的研究
第 63 回 昭和48年	西 山 善 次	金 属 材 料 研 究 所	合金のマルテンサイト変態に関する研究
第 64 回 昭和49年	西 澤 潤 一	電 気 通 信 研 究 所	半導体及びトランジスタに関する研究
第 65 回 昭和50年	北 住 敏 夫	文 学 部	写生説の研究、写生派歌人の研究、写生俳句及び写生文の研究
第 65 回 昭和50年	樋 口 陽 一	法 学 部	近代立憲主義と現代国家
第 65 回 昭和50年	伊 藤 英 覺	高 速 力 学 研 究 所	管内流れ特に曲がり管内の流れに関する流体力学的研究
第 65 回 昭和50年	久保田 尚 志	理 学 部	植物の苦味物質に関する研究
※ 第 67 回 昭和52年	高 橋 信 次	医 学 部	X線による生体病理解剖の研究
第 67 回 昭和52年	島 田 謹 二	法 文 学 部	日本における外国文学—比較文学研究—
第 67 回 昭和52年	赤祖父 俊 一	理 学 部	磁気圏擾乱の研究
第 69 回 昭和54年	佐 藤 武 敏	法 文 学 部	中国古代絹織物史研究
第 70 回 昭和55年	亀 谷 哲 治	薬 学 部	「レトロマススペクトル法」による天然物の全合成
第 71 回 昭和56年	木 下 彰	経 済 学 部	名子遺制の構造とその崩壊—農村における封建的労働の構造分析—
※ 第 72 回 昭和57年	角 谷 静 夫	理 学 部	函数解析の研究
第 73 回 昭和58年	増 本 健	金 属 材 料 研 究 所	アモルファス金属テープの創製とその基礎的および応用的研究
第 77 回 昭和62年	石 田 名 香 雄	医 学 部	センダイウィルスの発見及びその構造と機能に関する研究
第 77 回 昭和62年	岩 崎 俊 一	電 気 通 信 研 究 所	高密度磁気記録の研究
第 77 回 昭和62年	坪 井 善 勝	工 学 部	曲面構造の研究と大空間建築構造への適用
◎ 第 78 回 昭和63年	沼 田 眞	農 学 研 究 所(併)	植物群落の構造と動態に関する研究とその応用
※ 第 79 回 平成元年	日 沼 頼 夫	歯 学 部	成人T細胞白血病のウイルス病因に関する研究
※ 第 80 回 平成2年	中 西 香 爾	理 学 部	機能性天然有機化合物の構造および生体内機能発現に関する研究
第 80 回 平成2年	辻 廣	工 学 部(併)	火災の構造および基礎的特性の研究
第 82 回 平成4年	鈴 木 秀 次	金 属 材 料 研 究 所	固体ヘリウムの塑性変形及び機械的性質の転位論的研究
第 83 回 平成5年	山 本 肇	歯 学 部	レーザー照射による齲蝕予防その他歯科応用に関する研究
第 83 回 平成5年	多 田 啓 也	医 学 部	高グリシン血症に関する研究(共同研究)
第 83 回 平成5年	菊 地 吾 郎	医 学 部	高グリシン血症に関する研究(共同研究)
※ 第 84 回 平成6年	櫻 井 英 樹	理 学 部	有機ケイ素化学に関する研究(共同研究)
第 84 回 平成6年	丸 山 雅 成	文 学 部	日本近世交通史の研究
第 88 回 平成10年	杉 原 高 嶺	法 学 部	国際司法裁判制度
※ 第 92 回 平成14年	飯 島 澄 男	科 学 計 測 研 究 所	高分解能電子顕微鏡の開発とカーボンナノチューブの発見
◎ 第 92 回 平成14年	栗 原 康	理 学 部	生態系解析手法の研究とその環境保全への応用
第 92 回 平成14年	井 上 明 久	金 属 材 料 研 究 所	過冷却金属液体の安定化とバルク金属ガラスの開拓
第 92 回 平成14年	日 向 康 吉	農 学 部	アブラナ科植物の自家不和合性にかかわる自己識別機構の研究(共同研究)
第 93 回 平成15年	岡 本 宏	医 学 系 研 究 科	実験糖尿病の発症とその防止に関する研究
第 93 回 平成15年	遠 藤 實	医 学 部	筋細胞におけるカルシウム・イオン動員機構に関する研究
※ 第 94 回 平成16年	安 元 健	農 学 部	海洋生物毒の化学とそれらの毒物の海洋生態系における動態解析
第 95 回 平成17年	大 野 英 男	電 気 通 信 研 究 所	半導体ナノ構造による電子の量子制御と強磁性の研究(共同研究)
第 96 回 平成18年	鈴 木 厚 人	理 学 研 究 科	反ニュートリノ科学の研究
第 97 回 平成19年	加 藤 康 司	工 学 研 究 科	トライボロジーに関する研究(共同研究)
第 97 回 平成19年	平 朝 彦	理 学 部	プレート沈み込み帯の付加作用による日本列島形成過程の研究
※ 第 99 回 平成21年	村 上 哲 見	文 学 部	宋詞に関する研究
第 99 回 平成21年	川 人 貞 史	法 学 研 究 科	「選挙制度と政党システム」および「日本の国会制度と政党政治」
第 100 回 平成22年	大 類 洋	生 命 科 学 研 究 科	新規生物機能性分子の創製とその応用に関する研究(共同研究)
◎ 第 100 回 平成22年	西 平 守 孝	生 命 科 学 研 究 科	沖縄を中心とした我が国のサンゴ礁の形成と保全の研究
第 103 回 平成25年	中 沢 正 隆	電 気 通 信 研 究 所	エルビウム光ファイバ増幅器の実現とそれを用いた光通信の高度化に関する貢献
第 103 回 平成25年	佐 藤 英 明	農 学 研 究 科	哺乳動物における卵子形成の制御機構に関する研究
第 104 回 平成26年	山 本 雅 之	医 学 系 研 究 科	生体の環境ストレス応答の分子機構の解明
第 104 回 平成26年	首 藤 伸 夫	工 学 部	津波防災の総合的研究

○は恩賜賞のみ受賞

※は恩賜賞及び学士院賞両方を受賞

◎日本学士院賞エジンバラ公賞のみ受賞者

△日本学士院大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞のみ受賞者

日本学士院会員

選定年月日	氏 名	部 局
大正 11年 12月 26日	本 多 光太郎	金 属 材 料 研 究 所
大正 14年 6月 27日	藤 原 松三郎	理 学 部
大正 14年 6月 27日	矢 部 長 克	理 学 部
大正 15年 5月 5日	真 島 利 行	理 学 部
昭和 7年 3月 2日	神 津 俣 祐	理 学 部
昭和 9年 7月 31日	掛 谷 宗 一	理 学 部
昭和 12年 3月 23日	加 藤 武 夫	理 学 部
昭和 12年 5月 8日	大 類 伸	法 文 学 部
昭和 12年 12月 1日	片 山 正 夫	理 学 部
昭和 14年 5月 27日	柴 田 桂 太	農 科 大 学
昭和 17年 5月 30日	武 内 義 雄	法 文 学 部
昭和 18年 12月 11日	熊 谷 岱 蔵	医 学 部
昭和 19年 7月 10日	萩 原 雄 祐	理 学 部
昭和 20年 12月 12日	宇 井 伯 寿	法 文 学 部
昭和 21年 2月 8日	布 施 現之助	医 学 部
昭和 22年 2月 5日	田 辺 元	理 学 部
昭和 22年 6月 25日	阿 部 次 郎	法 文 学 部
昭和 22年 6月 25日	窪 田 忠 彦	理 学 部
昭和 22年 7月 19日	河 村 又 介	法 文 学 部
昭和 22年 10月 1日	雨 宮 育 作	農 学 研 究 所
昭和 24年 10月 5日	土 居 光 知	法 文 学 部
昭和 25年 10月 6日	伊 藤 誠 哉	農 科 大 学
昭和 25年 10月 6日	小町谷 操 三	法 学 部
昭和 25年 10月 6日	佐 武 安太郎	医 学 部
昭和 25年 10月 6日	高 橋 里 美	法 文 学 部
昭和 25年 10月 6日	真 島 正 市	理 科 大 学
昭和 25年 10月 6日	松 村 松 年	農 科 大 学
昭和 25年 10月 6日	村 上 武次郎	金 属 材 料 研 究 所
昭和 26年 10月 17日	小 宮 豊 隆	法 文 学 部
昭和 26年 10月 17日	八 木 秀 次	工 学 部
昭和 28年 10月 22日	青 木 正 児	法 文 学 部
昭和 28年 10月 22日	石 原 謙	法 文 学 部
昭和 28年 10月 22日	長谷部 言 人	医 学 部
昭和 32年 3月 12日	田 中 義 磨	農 科 大 学
昭和 32年 3月 12日	原 龍三郎	非水溶液化学研究所
昭和 33年 3月 12日	鮫 島 実三郎	理 学 部
昭和 35年 4月 12日	加 藤 豊治郎	医 学 部
昭和 35年 4月 12日	勝 本 正 晃	法 学 部
昭和 35年 4月 12日	増 本 量	金 属 材 料 研 究 所
昭和 36年 12月 12日	茅 誠 司	金 属 材 料 研 究 所
昭和 38年 2月 12日	金 倉 圓 照	文 学 部
昭和 39年 2月 12日	赤 堀 四 郎	理 学 部
昭和 39年 2月 12日	坂 村 徹	農 科 大 学
昭和 39年 2月 12日	田 岡 良 一	法 文 学 部
昭和 39年 2月 12日	中 川 善之助	法 学 部

選定年月日	氏 名	部 局
昭和 40年 1月 12日	岡 崎 義 恵	文 学 部
昭和 40年 1月 12日	黒 川 利 雄	医 学 部
昭和 40年 1月 12日	吉 田 富 三	医 学 部
昭和 40年 11月 12日	沼 知 福三郎	高 速 力 学 研 究 所
昭和 41年 11月 12日	小 川 鼎 三	医 学 部
昭和 41年 11月 12日	堀 経 夫	法 文 学 部
昭和 42年 11月 13日	木 村 亀 二	法 学 部
昭和 42年 11月 13日	清 宮 四 郎	法 学 部
昭和 43年 11月 12日	三 宅 剛 一	文 学 部
昭和 43年 11月 12日	本 川 弘 一	医 学 部
昭和 45年 11月 12日	半 沢 洵	農 科 大 学
昭和 49年 12月 12日	小 竹 無二雄	理 学 部
昭和 49年 12月 12日	山 本 義 一	理 学 部
昭和 51年 11月 12日	広 中 平 祐	理 学 部 (併)
昭和 51年 11月 12日	新 明 正 道	文 学 部
昭和 51年 11月 12日	杉 捷 夫	法 文 学 部
昭和 51年 11月 12日	高 柳 真 三	法 学 部
昭和 52年 11月 12日	岡 本 耕 造	医 学 部
昭和 52年 11月 12日	永 井 健 三	工 学 部
昭和 52年 11月 12日	野 副 鐵 男	理 学 部
昭和 52年 11月 12日	柳 瀬 良 幹	法 学 部
昭和 54年 11月 12日	今 井 勇之進	金 属 材 料 研 究 所
昭和 54年 11月 12日	烏 山 四 男	工 学 部
昭和 56年 12月 12日	高 橋 信 次	医 学 部
昭和 58年 12月 12日	矢 島 羊 吉	文 学 部
昭和 60年 11月 12日	加 藤 愛 雄	理 学 部
昭和 61年 12月 12日	熊 谷 尚 夫	経 済 学 部
平成 元年 12月 12日	小 川 環 樹	法 文 学 部
平成 4年 12月 14日	辻 廣	工 学 部 (併)
平成 6年 12月 12日	伊 藤 英 覺	高 速 力 学 研 究 所
平成 6年 12月 12日	小 田 滋	法 学 部
平成 7年 12月 12日	西 澤 潤 一	電 気 通 信 研 究 所
平成 8年 12月 12日	横 堀 武 夫	工 学 部
平成 9年 12月 12日	樋 渡 宏 一	理 学 部
平成 10年 12月 14日	鈴 木 禄 彌	法 学 部
平成 12年 12月 12日	樋 口 陽 一	法 学 部
平成 13年 12月 12日	源 了 圓	文 学 部
平成 14年 12月 12日	金 谷 治	文 学 部
平成 15年 12月 12日	岩 崎 俊 一	電 気 通 信 研 究 所
平成 18年 12月 12日	田 中 耕 一	工 学 部、 營 博
平成 18年 12月 12日	井 上 明 久	金 属 材 料 研 究 所
平成 22年 12月 13日	小 山 貞 夫	法 学 部
平成 22年 12月 13日	飯 島 澄 男	科 学 計 測 研 究 所
平成 25年 12月 12日	藤 田 宙 靖	法 学 研 究 科

東北大学藤野先生記念奨励賞受賞者

東北大学に在籍する中国からの優秀な大学院留学生であって、今後飛躍的な活躍が期待される留学生を表彰するものです。

授賞年度	氏 名	部 局	授賞年度	氏 名	部 局	授賞年度	氏 名	部 局
平成25年	彭 寧	理学研究科	平成22年	胡 春 鋭	医学系研究科	平成19年	陳 鋭	歯学研究科
	孫 舒	医学系研究科		張 志 宇	工学研究科		岳 新 艶	工学研究科
	許 斌	工学研究科		王 秀 芳	文学研究科		袁 媛	農学研究科
平成24年	浦 正 寧	経済学研究科	平成21年	珠 欄 其 格	医学系研究科	平成18年	覃 慧 玲	理学研究科
	桂 沛 君	医学系研究科		馬 麟	工学研究科		杜 瑋	医学系研究科
	陳 凱 幼	工学研究科		車 佳	国際文化研究科		韓 峰	薬学研究科
	劉 家 佳	情報科学研究科	平成20年	王 紅 霞	生命科学研究科	平成17年	常 春 清	工学研究科
平成23年	果 崇 申	環境科学研究科		張 薔 薔	経済学研究科		侯 旭 濱	生命科学研究科
	朱 華	理学研究科		吳 哈 申	理学研究科		薩 白 娜	文学研究科
	浩 日 勒	医学系研究科		王 保 珍	薬学研究科	平成17年	金 光 宇	経済学研究科
平成22年	趙 曉 麗	工学研究科	平成19年	張 宇	工学研究科		代 紅 梅	医学系研究科
	溫 磊	生命科学研究科		王 弘	情報科学研究科		俞 志 前	歯学研究科
	王 龍	経済学研究科		王 冷 然	法学研究科	平成17年	呂 晨	工学研究科
平成22年	陳 桂 興	理学研究科		劉 晨 光	理学研究科			

沢柳賞受賞者

「沢柳賞（東北大学男女共同参画奨励賞）」は、東北大学における男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関連する研究や活動を行った人及び団体を表彰するものです。

平成24年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門	受 賞 課 題 名
ア ロ ナ	経済学研究科/「留学生研究者の出産・育児を支援する地域・大学協働プロジェクトチーム」代表	活 動 部 門	共生社会におけるネットワーク形成型の外国人留学生 出産・育児支援

平成23年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門	受 賞 課 題 名
朝 倉 京 子	医学系研究科教授	研 究 部 門	日本の農村地域における男性看護師の生存方略(Survival strategies of male nurses in rural areas of Japan)

平成22年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門	受 賞 課 題 名
茂 木 洋 平	法学研究科博士課程後期	研 究 部 門	Affirmative Actionの正当化理由～過去向きのAffirmative Actionと将来志向のAffirmative Action～
阿 部 比佐久	理学研究科再雇用職員	プロジェクト部門 (特別賞)	地域の子育て情報交換の場と父親の育児参加を促す企画としての科学普及活動
久 利 美 和	理学研究科助教		
村 上 祐 子	理学研究科准教授		

平成21年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門
下 夷 美 幸	文学研究科准教授	研 究 部 門
青 葉 理 学 振 興 会		活 動 部 門
女 性 と 労 働 研 究 会		プロジェクト部門
山 崎 都 病 院 医 員		活動部門(特別賞)

平成20年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門
東 北 大 学 川 内 け や き 保 育 園 保 護 者 会		活 動 部 門
トゥルムフ オントヤ	環境科学研究科博士課程学生	プロジェクト部門(特別賞)

平成19年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門
齊 藤 綾 美	教育学研究科特別研究員	研 究 部 門
阿 部 未 央	法学研究科博士課程学生	研究部門(特別賞)
工学研究科 機械・知能系男女共同参画推進委員会 WGおよび女子学生交流会学生スタッフ		活 動 部 門
尾 崎 博 美	教育学研究科博士課程学生	プロジェクト部門
八 木 美 保 子	教育学研究科博士課程学生	
水 原 克 敏	教育学研究科教授	
生 田 久 美 子	教育学研究科教授	
ヤマモト ルシア エミコ	文学研究科専門研究員	プロジェクト部門(特別賞)

平成18年度

氏 名	職 名 等	受 賞 部 門
吉 田 浩	経済学研究科助教	研 究 部 門
遠 山 智 子	理学研究科教育研究支援者	活 動 部 門
鈴 木 美 智 子	理学研究科教育研究支援者	
玉 江 京 子	理学研究科助手	活 動 部 門
海 老 原 孝 枝	病院「子育てに関する女性医師の会」代表	
橋 本 鋺 市	教育学研究科助教	プロジェクト部門

本多光太郎記念賞受賞者

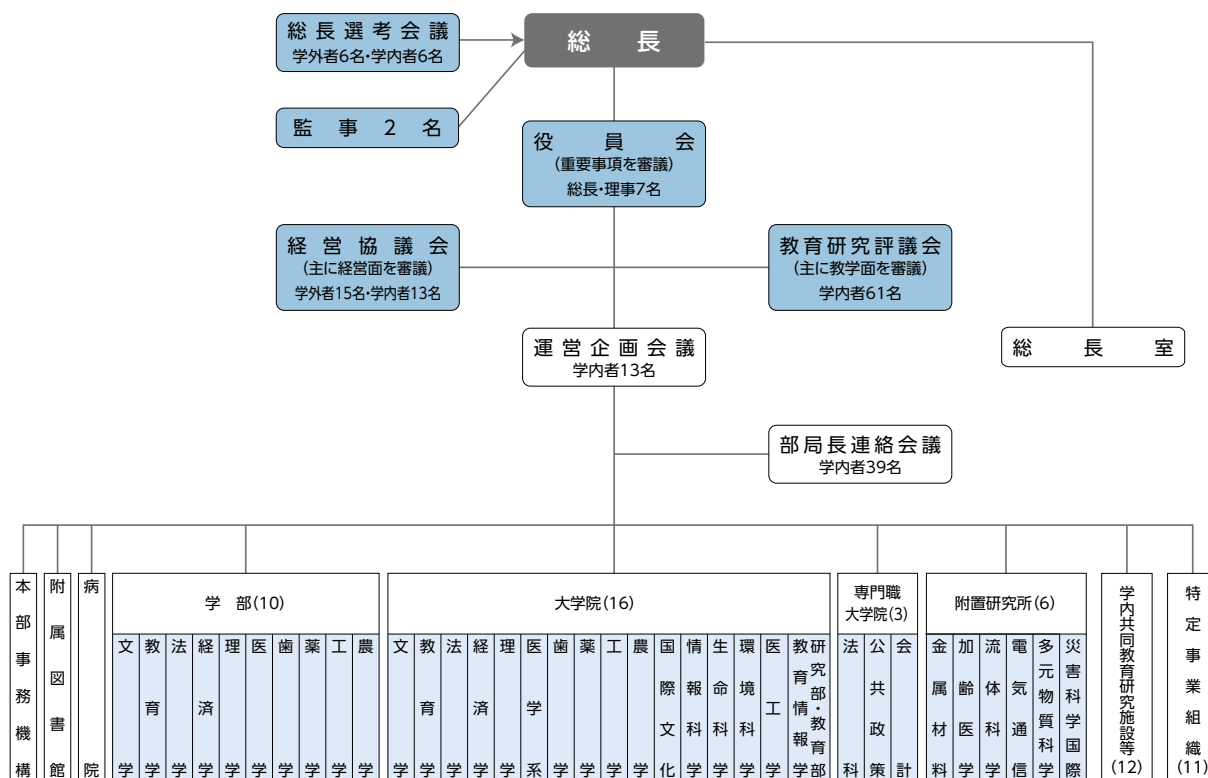
国際学術交流を通じ、東北大学の教育研究の発展に功績のあった外国の個人又は団体を随時表彰するものです。

授賞年度	氏 名	国 籍	所 属 等
平成18年	パトリック・ブジャン	フランス	国立中央理工学校リヨン校学長
	ル ノ ー 財 団		
	アルベール・フレヴォ	フランス	国際教育学研究センター所長
	ア ラ ン ・ ス ト ー ク	フランス	国立応用科学院リヨン校学長
	レ オ ・ ヴ ァ ン サ ン	フランス	国立中央理工学校国際交流部長
平成16年	ア ラ ン ・ レ ザ ・ ヤ バ リ	フランス	グルノーブル国立総合技術研究所教授
	ジ ョ ン ・ ス ト ラ リ ー	イギリス	クランフィールド大学名誉教授
	リ ン ゼ イ ・ グ リ ア ー	イギリス	ケンブリッジ大学教授
	ロバート・ジェンクス卿	イギリス	元国際司法裁判所長官

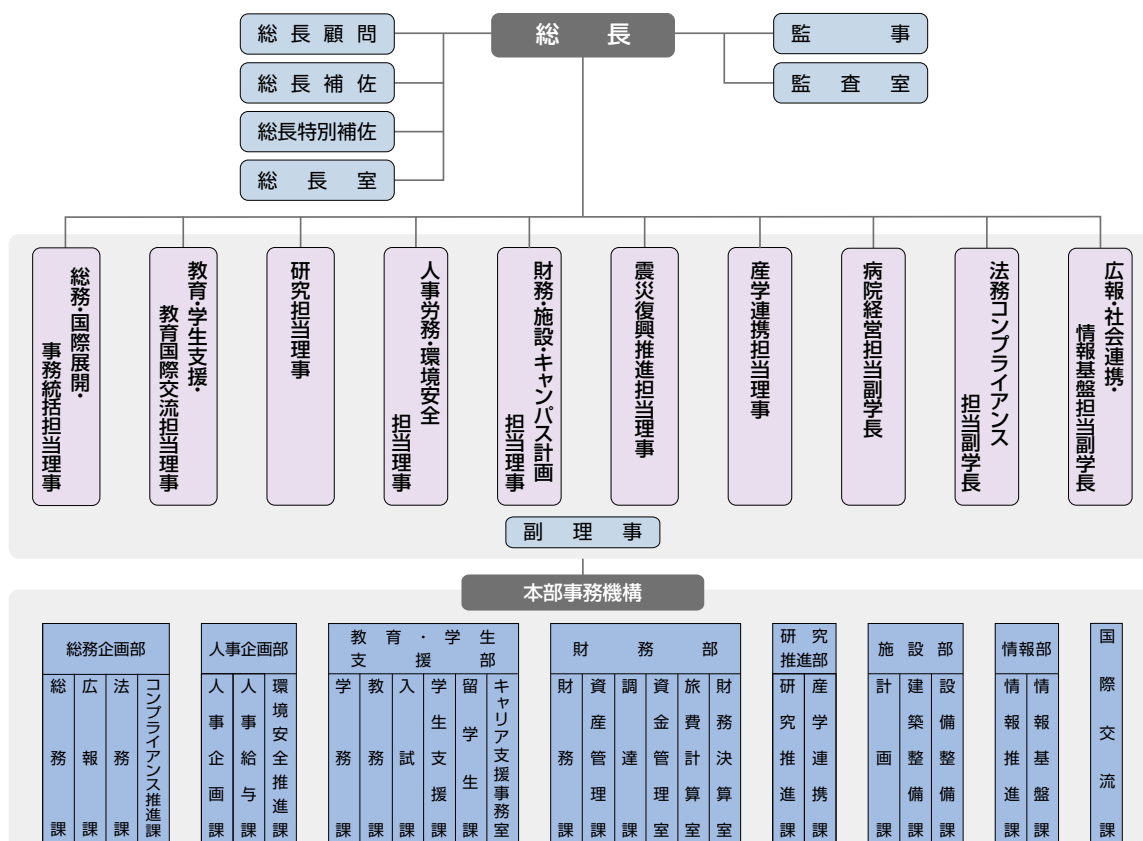


本多記念館

運 営 組 織



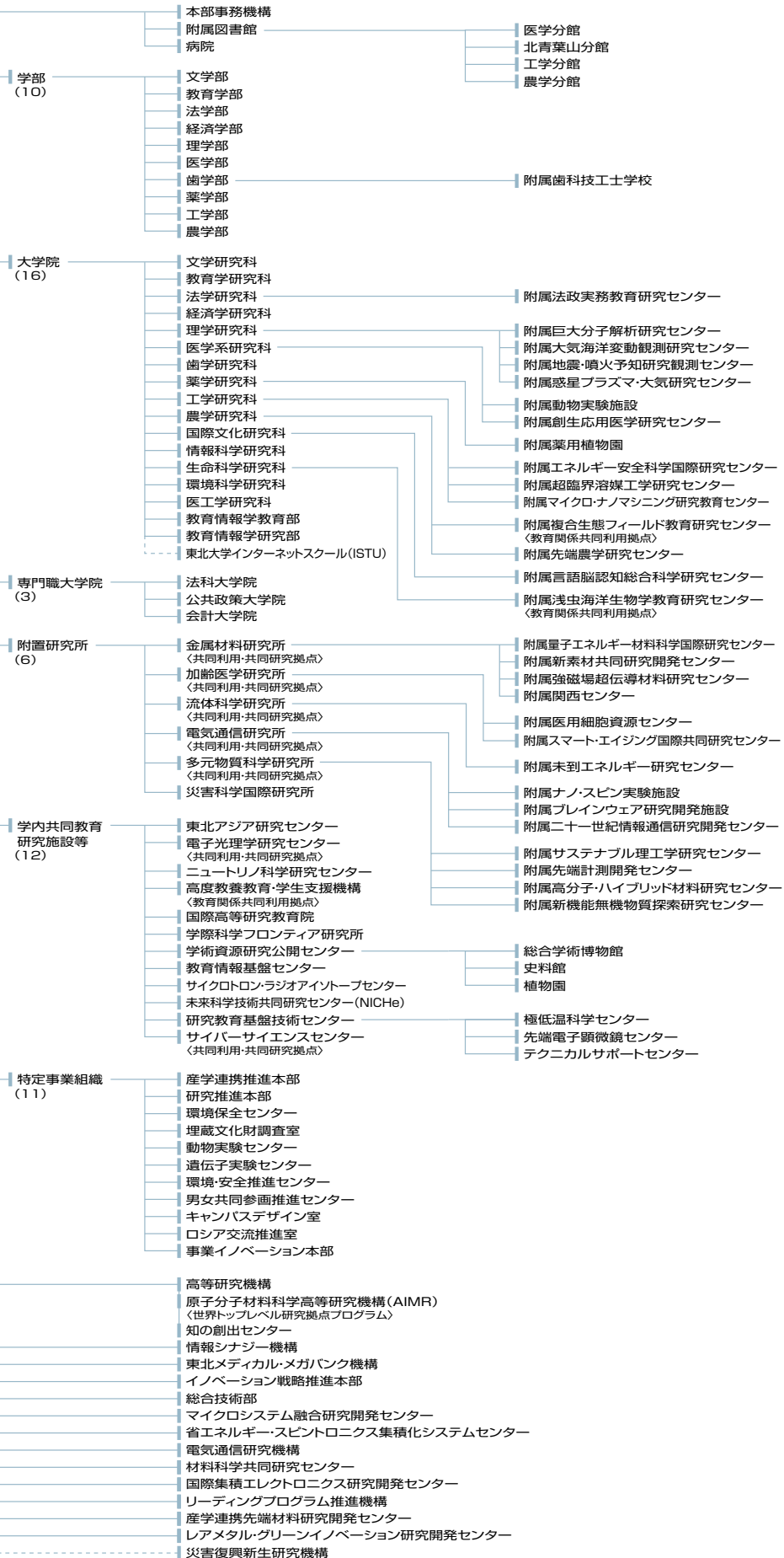
理事・副学長・副理事・本部事務機構



機構図

(平成26年7月1日現在)

国立大学法人東北大学
東北大学



役員・主な役職者

総 長	里 見 進
理 事(総務・国際展開・事務統括担当)	植 木 俊 哉
理 事(教育・学生支援・教育国際交流担当)	花 輪 公 雄
理 事(研究担当)	伊 藤 貞 嘉
理 事(人事労務・環境安全担当)	明 野 吉 成
理 事(財務・施設・キャンパス計画担当)	佃 良 彦
理 事(震災復興推進担当)	原 信 義
理 事(産学連携担当)	進 藤 秀 夫
監 事	小 林 邦 英
監 事(非常勤)	藤 田 宙 靖
副学長(病院経営担当)	下瀬川 徹
副学長(法務コンプライアンス担当)	兵 頭 英 治
副学長(広報・社会連携・情報基盤担当)	青 木 孝 文
総長補佐	金 井 浩
総長補佐	河 村 純 一
総長顧問	天 野 平 八郎
総長顧問	大 山 健太郎
総長顧問	勝 股 康 行
総長顧問	高 崎 康 裕
総長顧問	日 野 正 晴
総長顧問	マーティ・キーナート
総長顧問	リチャード・ダッシャー
総長特別補佐(男女共同参画担当)	大 隅 典 子
総長特別補佐(業務改革担当)	藤 本 雅 彦
総長特別補佐(災害対策担当)	佐 藤 健

総長特別補佐(教養教育担当)	安 藤 晃
総長特別補佐(学生支援担当)	東 谷 篤 志
総長特別補佐(国際交流担当)	山 口 昌 弘
総長特別補佐(入試担当)	牧 野 周
総長特別補佐(学生支援担当)	小田中 直 樹
総長特別補佐(研究担当)	末 永 智 一
総長特別補佐(研究担当)	滝 澤 博 胤
総長特別補佐(研究担当)	土 岐 大 介
総長特別補佐(キャンパス計画担当)	杉 山 丞
総長特別補佐(震災復興推進担当)	今 村 文 彦
総長特別補佐(震災復興推進担当)	五十嵐 和 彦
総長特別補佐(震災復興推進担当)	中 井 裕
総長特別補佐(広報担当)	曾 根 秀 昭
総長特別補佐(社会連携担当)	吉 澤 誠
総長特別補佐(校友会担当)	圓 山 重 直
総長特別補佐(情報基盤担当)	鈴 木 陽 一
副理事(国際交流担当)	山 口 昌 弘
副理事(利益相反マネジメント(臨床研究)担当)	谷 内 一 彦
副理事(学生支援担当)	東 谷 篤 志
副理事(入試担当)	牧 野 周
副理事(研究担当)	宮 田 敏 男
副理事(研究担当)	小 谷 元 子
副理事(施設担当)	藤 井 隆
副理事(校友会担当)	圓 山 重 直

■ 本部			
【総長室】		【財務部】	
総長室長	植 木 俊 哉	財務部長	伊 豆 仁 志
総長室副室長	兵 頭 英 治	財務課長	吉 居 真 吾
総長室副室長	青 木 孝 文	資産管理課長	近 藤 隆
総長室主任経営企画スタッフ	新 井 知 彦	調達課長	曾 根 芳 則
総長室主任経営企画スタッフ	今 野 一 幸	【研究推進部】	
【総務企画部】		研究推進部長	村 岡 利 光
総務企画部長	齋 藤 仁	研究推進課長	佐 藤 敬 浩
総務課長	金 澤 哲 哉	産学連携課長	根 本 義 久
広報課長	谷 口 善 孝	【施設部】	
法務課長	船 田 正 幸	施設部長	藤 井 隆
コンプライアンス推進課長	齋 藤 仁	計画課長	木 村 吉 宏
【人事企画部】		建築整備課長	高 橋 勝 治
人事企画部長	松 田 栄 二	設備整備課長	小 幡 欽 也
人事企画課長	佐 藤 龍 彦	【情報部】	
人事給与課長	山 田 純 司	情報部長	大 川 俊 治
環境安全推進課長	柴 田 一	情報推進課長	大 川 俊 治
【教育・学生支援部】		情報基盤課長	千 葉 実
教育・学生支援部長	佐 藤 義 幸	【国際交流課】	
学務課長	我 妻 靖	国際交流課長	今 野 一 幸
教務課長	志 賀 紀 行	【監査室】	
入試課長	白 崎 隆 典	監査室長	金 子 雅 人
学生支援課長	高 橋 忠 志		
留学生課長	我 妻 建 史		

(平成26年8月11日現在)

組織

■ 大学院研究科・学部等及び附属施設			
【文学部・文学研究科】		薬学部副学部長・薬学研究科副研究科長	
文学部部長・文学研究科長	佐藤 弘 夫	薬学部副学部長・薬学研究科副研究科長	根 東 義 則
文学部副学部長・文学研究科副研究科長	鈴木 岩 弓	薬用植物園長	平 澤 典 保
文学部副学部長・文学研究科副研究科長	柳 原 敏 昭	事務長	大 島 吉 輝
事務長	佐藤 吉 和	【工学部・工学研究科】	高 橋 嘉 典
【教育学部・教育学研究科】		工学部部長・工学研究科長	金 井 浩
教育学部部長・教育学研究科長	本 郷 一 夫	工学研究科副研究科長	植 松 康
教育学部副学部長・教育学研究科副研究科長	上 埜 高 志	工学研究科副研究科長	湯 上 浩 雄
事務長	鳥 澤 誠	工学研究科副研究科長	滝 澤 博 胤
【法学部・法学研究科】		エネルギー安全科学国際研究センター長	三 浦 英 生
法学部部長・法学研究科長	渡 辺 達 徳	超臨界溶媒工学研究センター長	猪 股 宏 治
法学部副学部長・法学研究科副研究科長	佐々木 弘 通	マイクロ・ナノマシニング研究教育センター長	田 中 秀 治
法学部副学部長・法学研究科副研究科長	犬 塚 元	マイクロ・ナノマシニング研究教育センター副センター長	金 森 義 明
法科大学院長	成 瀬 幸 典	事務部長	田 屋 修 一
公共政策大学院長	戸 澤 英 典	総務課長	荒 孝 二
法政実務教育研究センター長	水 野 紀 子	教務課長	板 垣 毅
事務長	藤 王 勉	経理課長	阿 部 芳 浩
【経済学部・経済学研究科】		【農学部・農学研究科】	
経済学部部長・経済学研究科長	秋 田 次 郎	農学研究科長・農学部長	駒 井 三千夫
経済学部副学部長・経済学研究科副研究科長	柘 植 徳 雄	農学研究科副研究科長	南 條 正 巳
経済学部副学部長・経済学研究科副研究科長	金 崎 芳 輔	農学研究科副研究科長	豊 水 正 昭
会計大学院長	青 木 雅 明	複合生態フィールド教育研究センター長	中 井 裕
事務長	朝 倉 知 明	複合生態フィールド教育研究センター副センター長	齋 藤 雅 典
【理学部・理学研究科】		複合生態フィールド教育研究センター副センター長	池 田 実
理学部部長・理学研究科長	早 坂 忠 裕	先端農学研究センター長	南 條 正 巳
理学研究科副研究科長	長 濱 裕 幸	事務長	志 田 昌 幸
理学研究科副研究科長	日 笠 健 一	【国際文化研究科】	
理学研究科副研究科長	美 齊 津 文 典	国際文化研究科長	黒 田 卓
巨大分子解析研究センター長	寺 田 眞 浩	国際文化研究科副研究科長	藤 田 緑
大気海洋変動観測研究センター長	青 木 周 浩	言語脳認知総合科学研究センター長	吉 本 啓
地震・噴火予知研究観測センター長	松 澤 暢	事務長	玉 水 敏 明
惑星プラズマ・大気研究センター長	小 原 隆 博	【情報科学研究科】	
事務部長	石 田 秀 明	情報科学研究科長	徳 山 豪
総務課長	信 坂 健	情報科学研究科副研究科長	中 尾 光 之
経理課長	木 戸 龍 輔	情報科学研究科副研究科長	田 所 諭
【医学部・医学系研究科】		事務長	佐々木 清 浩
医学部部長・医学系研究科長	大 内 憲 明	【生命科学研究科】	
医学部副学部長・医学系研究科副研究科長	荒 井 陽 一	生命科学研究科長	高 橋 秀 幸
医学部副学部長・医学系研究科副研究科長	谷 内 一 彦	生命科学研究科副研究科長	中 静 透
医学部副学部長・医学系研究科副研究科長	石 橋 忠 司	浅虫海洋生物学教育研究センター長	熊 野 岳
動物実験施設長	清 水 律 子	事務長	佐 藤 俊 男
創生応用医学研究センター長	宮 田 敏 男	【環境科学研究科】	
事務長	齋 藤 嘉 信	環境科学研究科長	吉 岡 敏 明
【歯学部・歯学研究科】		環境科学研究科副研究科長	高 橋 弘
歯学部部長・歯学研究科長	佐々木 啓 一	【医工学研究科】	
歯学部副学部長・歯学研究科副研究科長	高 橋 信 博	医工学研究科長	出 江 紳 一
歯学部副学部長・歯学研究科副研究科長	小 坂 健 彦	医工学研究科副研究科長	永 富 良 一
歯科技工士学校長	菊 池 雅 彦	【教育情報学教育部】	
事務長	邊 見 裕	教育情報学教育部長	渡 部 信 一
【薬学部・薬学研究科】		【教育情報学研究部】	
薬学部部長・薬学研究科長	山 口 雅 彦	教育情報学研究部長	渡 部 信 一
■ 附置研究所及び附属施設			
【金属材料研究所】		強磁場超伝導材料研究センター長	渡 邊 和 雄
金属材料研究所長	高 梨 弘 毅	関西センター長	正 橋 直 哉
金属材料研究所副研究所長	今 野 豊 彦	事務部長	丸 山 正 彦
金属材料研究所副研究所長	佐々木 孝 彦	総務課長	石 井 俊 明
量子エネルギー材料科学国際研究センター長	四 電 樹 男	経理課長	齋 藤 雅 樹
新素材共同研究開発センター長	牧 野 彰 宏		

役員・主な役職者

■ 附置研究所及び附属施設			
【加齢医学研究所】		21世紀情報通信研究開発センター長	村岡 裕 明
加齢医学研究所長	川 島 隆 太	事務長	伊 藤 保 春
加齢医学研究所副研究所長	本 橋 ほづみ	【多元物質科学研究所】	
医用細胞資源センター長	松 居 靖 久	多元物質科学研究所長	河 村 純 一
スマート・エイジング国際共同研究センター長	川 島 隆 太	多元物質科学研究所副研究所長	及 川 英 俊
事務長	及 川 良 房	多元物質科学研究所副研究所長	垣 花 眞 人
【流体科学研究所】		サステナブル理工学研究センター長	本 間 格
流体科学研究所長	大 林 茂	先端計測開発センター長	進 藤 大 輔
流体科学研究所副研究所長	高 木 敏 行	高分子・ハイブリッド材料研究センター長	京 谷 隆
未到エネルギー研究センター長	寒 川 誠 二	新機能無機物質探索研究センター長	佐 藤 次 雄
事務長	佐々木 義 則	事務部長	畠 山 一 典
【電気通信研究所】		総務課長	小 澤 浩
電気通信研究所長	大 野 英 男	経理課長	小 松 誠
電気通信研究所副研究所長	塩 入 諭	【災害科学国際研究所】	
電気通信研究所副研究所長	大 堀 淳	災害科学国際研究所長	今 村 文 彦
ナノ・スピン実験施設長	庭 野 道 夫	災害科学国際研究所副研究所長	奥 村 誠
ブレインウェア研究開発施設長	羽 生 貴 弘	事務長	阿 部 昭
■ 附属図書館及び分館			
図書館長	植 木 俊 哉	医学分館長	丸 山 芳 夫
図書館副館長	西 尾 剛	事務長	菅 原 昇 一
事務部長	米 澤 誠	北青葉山分館長	河 野 裕 彦
総務課長	小 川 聡	工学分館長	進 藤 裕 英
情報管理課長	室 橋 眞	農学分館長	藤 井 智 幸
情報サービス課長	村 上 康 子		
■ 病院			
病院長	下瀬川 徹	副病院長	高 橋 哲
総括副病院長	笹 野 高 嗣	事務部長	小 山 大 輔
副病院長	海 野 倫 明	総務課長	志 茂 弘 明
副病院長	張 替 秀 郎	経営管理課長	宇和野 周 一
副病院長	青 木 正 志	経理課長	高 橋 孝 一
副病院長	五十嵐 薫	医事課長	須 田 仁
■ 学内共同教育研究施設等			
東北アジア研究センター長	岡 洋 樹	史料館長	八 鍬 友 広
東北アジア研究センター副センター長	千 葉 聡	植物園長	中 静 透
東北アジア研究センター副センター長	高 倉 浩 樹	教育情報基盤センター長	静 谷 啓 樹
電子光物理学研究センター長	清 水 肇	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター長	谷 内 一 彦
ニュートリノ科学研究センター長	井 上 邦 雄	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター副センター長	酒 見 泰 寛
高度教養教育・学生支援機構長	花 輪 公 雄	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター副センター長	田 代 学
高度教養教育・学生支援機構副機構長	羽 田 貴 史	未来科学技術共同研究センター長	金 井 浩
高度教養教育・学生支援機構副機構長	安 藤 晃	未来科学技術共同研究センター副センター長	長谷川 史 彦
高等教育開発部門長	関 内 隆 勉	未来科学技術共同研究センター副センター長	村 上 智 信
教育内容開発部門長	関 根 勉	未来科学技術共同研究センター副センター長	鈴 木 高 宏
学生支援開発部門長	木 内 喜 孝	研究教育基盤技術センター長	伊 藤 貞 嘉
教養教育院長	花 輪 公 雄	極低温科学センター長	佐々木 孝 彦
国際高等研究教育院長	山 谷 知 行	先端電子顕微鏡センター長	今 野 豊 彦
学際科学フロンティア研究所長	佐 藤 正 明	テクニカルサポートセンター長	伊 藤 貞 嘉
学術資源研究公開センター長	西 弘 嗣	サイバーサイエンスセンター長	小 林 広 明
総合学術博物館長	井 龍 康 文	サイバーサイエンスセンター副センター長	曾 根 秀 昭
■ 特定事業組織			
産学連携推進本部長	進 藤 秀 夫	国際交流会館長	花 輪 公 雄
産学連携推進本部副本部長	松 井 康	国際交流会館副館長	粕 壁 善 隆
研究推進本部長	伊 藤 貞 嘉	埋蔵文化財調査室長	阿子島 香
研究推進本部副本部長	宮 田 敏 男	動物実験センター長	山 本 雅 之
研究推進本部副本部長	小 谷 元 子	遺伝子実験センター長	本 橋 ほづみ
環境保全センター長	猪 股 宏	環境・安全推進センター長	明 野 吉 成

(平成26年8月11日現在)

男女共同参画推進センター長	植 木 俊 哉
男女共同参画推進センター副センター長	大 隅 典 子
男女共同参画推進センター副センター長	米 永 一 郎
男女共同参画推進センター副センター長	田 中 真 美
キャンパスデザイン室長	佃 良 彦

キャンパスデザイン室副室長	杉 山 丞
キャンパスデザイン室副室長	藤 井 隆
ロシア交流推進室長	植 木 俊 哉
ロシア交流推進室副室長	工 藤 純 一
事業イノベーション本部長	元 山 義 章

■ 原子分子材料科学高等研究機構

原子分子材料科学高等研究機構長	小 谷 元 子
事務部門長	塚 田 捷

副事務部門長	池 田 進
副事務部門長	佐 藤 伸 一

■ 情報シナジー機構

情報シナジー機構長	鈴 木 陽 一
情報シナジー機構副機構長	小 林 広 明

情報シナジー機構副機構長	曾 根 秀 昭
情報シナジー機構副機構長	早 川 美 徳

■ 東北メディカル・メガバンク機構

東北メディカル・メガバンク機構長	山 本 雅 之
東北メディカル・メガバンク機構副機構長	八重樫 伸 生

東北メディカル・メガバンク機構副機構長	呉 繁 夫
事務総括	高 橋 秀 市

■ イノベーション戦略推進本部

イノベーション戦略推進本部長	進 藤 秀 夫
----------------	---------

■ 総合技術部

総合技術部長	明 野 吉 成
--------	---------

総合技術部副部長	柴 崎 義 信
----------	---------

■ マイクロシステム融合研究開発センター

マイクロシステム融合研究開発センター長	江 刺 正 喜
---------------------	---------

マイクロシステム融合研究開発センター副センター長	小 野 崇 人
--------------------------	---------

■ 省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター

省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター長	大 野 英 男
-----------------------------	---------

省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター副センター長	遠 藤 哲 郎
----------------------------------	---------

■ 電気通信研究機構

電気通信研究機構長	中 沢 正 隆
電気通信研究機構副機構長	安 達 文 幸

電気通信研究機構副機構長	坂 中 靖 志
--------------	---------

■ 材料科学共同研究センター

材料科学共同研究センター長	伊 藤 貞 嘉
---------------	---------

■ 国際集積エレクトロニクス研究開発センター

国際集積エレクトロニクス研究開発センター長	遠 藤 哲 郎
国際集積エレクトロニクス研究開発センター副センター長	羽 生 貴 弘

国際集積エレクトロニクス研究開発センター副センター長	池 田 正 二
----------------------------	---------

■ リーディングプログラム推進機構

リーディングプログラム推進機構長	花 輪 公 雄
リーディングプログラム推進機構副機構長	升 谷 五 郎

リーディングプログラム推進機構副機構長	佐 藤 讓
---------------------	-------

■ 知の創出センター

知の創出センター長	伊 藤 貞 嘉
-----------	---------

知の創出センター副センター長	前 田 吉 昭
----------------	---------

■ 産学連携先端材料研究開発センター

産学連携先端材料研究開発センター長	河 村 純 一
-------------------	---------

■ レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター

レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター長	杉 本 諭
----------------------------	-------

総長選考会議

学外委員	
天 野 平八郎	一般社団法人宮城県自動車会議所会長
小 野 元 之	学校法人城西大学理事 大学院センター所長
	独立行政法人日本学術振興会顧問
黒 田 玲 子	学校法人東京理科大学総合研究機構教授
清 野 智	東日本旅客鉄道株式会社取締役会長
高 橋 宏 明	東北経済連合会会長
	東北電力株式会社取締役会長
遠 山 敦 子	公益財団法人トヨタ財団理事長
	公益財団法人パナソニック教育財団理事長
	元文部科学大臣

学内委員	
金 井 浩	総長補佐(工学研究科長)
渡 辺 達 徳	法学研究科長
早 坂 忠 裕	理学研究科長
大 内 憲 明	医学系研究科長
佐々木 啓 一	歯学研究科長
大 野 英 男	電気通信研究所長

役員会

里 見 進	総 長
植 木 俊 哉	理 事
花 輪 公 雄	理 事
伊 藤 貞 嘉	理 事

明 野 吉 成	理 事
佃 良 彦	理 事
原 信 義	理 事
進 藤 秀 夫	理 事

経営協議会

学外委員	
天 野 平八郎	一般社団法人宮城県自動車会議所会長
安 西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会理事長
	慶應義塾学事顧問
奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ取締役会長
小 野 元 之	学校法人城西大学理事 大学院センター所長
	独立行政法人日本学術振興会顧問
小野寺 正	KDDI株式会社代表取締役会長
黒 田 玲 子	学校法人東京理科大学総合研究機構教授
杉 田 亮 毅	株式会社日本経済新聞社参与
	公益社団法人日本経済研究センター代表理事・会長
鈴 木 茂 晴	株式会社大和証券グループ本社取締役会長
清 野 智	東日本旅客鉄道株式会社取締役会長
高 橋 宏 明	東北経済連合会会長
	東北電力株式会社取締役会長
遠 山 敦 子	公益財団法人トヨタ財団理事長
	公益財団法人パナソニック教育財団理事長
	元文部科学大臣
中 村 久 三	株式会社アルバック技術顧問
東 哲 郎	東京エレクトロン株式会社代表取締役会長兼社長
古 河 直 純	日本ゼオン株式会社代表取締役会長
丸 森 仲 吾	仙台商工会議所顧問
	七十七銀行相談役

学内委員	
里 見 進	総 長
植 木 俊 哉	理 事
花 輪 公 雄	理 事
伊 藤 貞 嘉	理 事
明 野 吉 成	理 事
佃 良 彦	理 事
原 信 義	理 事
進 藤 秀 夫	理 事
下瀬川 徹	副学長(病院長)
兵 頭 英 治	副学長
青 木 孝 文	副学長
金 井 浩	総長補佐(工学研究科長)
河 村 純 一	総長補佐(多元物質科学研究所長)

(平成26年4月1日現在)

教育研究評議会

里 見 進 総 長	小 池 洋 二 工学研究科教授
植 木 俊 哉 理 事	豊 水 正 昭 農学研究科教授
花 輪 公 雄 理 事(高度教養教育・学生支援機構長)	小 野 尚 之 国際文化研究科教授
伊 藤 貞 嘉 理 事	中 尾 光 之 情報科学研究科教授
明 野 吉 成 理 事	水 野 健 作 生命科学研究科教授
佃 良 彦 理 事	境 田 清 隆 環境科学研究科教授
原 信 義 理 事	西 條 芳 文 医工学研究科教授
進 藤 秀 夫 理 事	今 野 豊 彦 金属材料研究所教授
下 瀬 川 徹 副学長(病院長)	本 橋 ほづみ 加齢医学研究所教授
兵 頭 英 治 副学長	小 林 秀 昭 流体科学研究所教授
青 木 孝 文 副学長	鈴 木 陽 一 電気通信研究所教授
金 井 浩 総長補佐(工学研究科長)	及 川 英 俊 多元物質科学研究所教授
河 村 純 一 総長補佐(多元物質科学研究所長)	源 栄 正 人 災害科学国際研究所教授
佐 藤 弘 夫 文学研究科長	羽 田 貴 史 高度教養教育・学生支援機構教授
本 郷 一 夫 教育学研究科長	西 弘 嗣 教育基盤施設群教授
渡 辺 達 徳 法学研究科長	小 林 広 明 学術基盤施設群教授
秋 田 次 郎 経済学研究科長	
早 坂 忠 裕 理学研究科長	
大 内 憲 明 医学系研究科長	
佐々木 啓 一 歯学研究科長	
山 口 雅 彦 薬学研究科長	
駒 井 三 千 夫 農学研究科長	
黒 田 卓 国際文化研究科長	
徳 山 豪 情報科学研究科長	
高 橋 秀 幸 生命科学研究科長	
吉 岡 敏 明 環境科学研究科長	
出 江 紳 一 医工学研究科長	
高 梨 弘 毅 金属材料研究所長	
川 島 隆 太 加齢医学研究所長	
大 林 茂 流体科学研究所長	
大 野 英 男 電気通信研究所長	
今 村 文 彦 災害科学国際研究所長	
笹 野 高 嗣 病院総括副病院長	
渡 部 信 一 教育情報学研究部長	
岡 洋 樹 東北アジア研究センター長	
小 谷 元 子 原子分子材料科学高等研究機構長	
山 本 雅 之 東北メディカル・メガバンク機構長	
鈴 木 岩 弓 文学研究科教授	
柴 山 直 教育学研究科教授	
坂 本 忠 久 法学研究科教授	
金 崎 芳 輔 経済学研究科教授	
山 下 正 廣 理学研究科教授	
谷 内 一 彦 医学系研究科教授	
高 橋 信 博 歯学研究科教授	
根 東 義 則 薬学研究科教授	

役員・職員数

(平成26年5月1日現在)

職 種		総長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	助手	教員計	事務・技術職員等	計
部 局												
総 長		1										1
理 事			7									7
監 事				2(1)								2
本部事務機構	総長室										7	7
	総務企画部							1	1	2	43	45
	人事企画部										54	54
	教育・学生支援部										96	96
	財務部										79	79
	研究推進部										20	20
	施設部										50	50
	情報部										22	22
	国際交流課										12	12
	監査室										7	7
文学部・文学研究科					45	33		17	1	96	18	114
教育学部・教育学研究科					17	13		6		36	12	48
法学部・法学研究科					32	21	1	6	4	64	17	81
経済学部・経済学研究科					34	24	3		5	66	20	86
理学部・理学研究科					76	78	4	92	4	254	59	313
医学部・医学系研究科					88	71	34	119	25	337	41	378
歯学部・歯学研究科					22	14	10	55		101	15	116
薬学部・薬学研究科					20	13	4	27	5	69	16	85
工学部・工学研究科					116	104	2	128	7	357	116	473
農学部・農学研究科					42	42		36	4	124	25	149
国際文化研究科					26	12				38	11	49
情報科学研究科					33	31	1	20		85	12	97
生命科学研究科					26	16	2	30	1	75	14	89
環境科学研究科					19	20	1	16	5	61	7	68
医工学研究科					21	7		7		35	4	39
教育情報学研究所					4	2		3		9		9
金属材料研究所					28	36	2	60	7	133	44	177
加齢医学研究所					21	11	3	26		61	13	74
流体科学研究所					15	11	2	13		41	10	51
電気通信研究所					24	18		25		67	23	90
多元物質科学研究所					44	32	2	61		139	25	164
災害科学国際研究所					23	14	2	30	4	73	8	81
図書館	図書館										29	29
	医学分館										8	8
	北青葉山分館										4	4
	工学分館										8	8
	農学分館										4	4
病 院					5	18	60	233	50	366	1,710	2,076
東北アジア研究センター					11	6		7		24		24
電子光理学研究センター					3	4		5		12		12
ニュートリノ科学研究センター					1	4	1	7		13		13
高度教養教育・学生支援機構					23	19	14	17	6	79	11	90
国際高等研究教育院										0		0
学際科学フロンティア研究所					5	5		29		39	1	40
学術資源研究公開センター					3	4		6		13	1	14
教育情報基盤センター					2	3		2	1	8		8
サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター					4	2	1	6	3	16		16
未来科学技術共同研究センター					15	17	1	13	7	53	10	63
サイバーサイエンスセンター					4	4		2		10		10
産学連携推進本部											12	12
研究推進本部					1					1	5	6
環境保全センター					1			2	1	4	2	6
埋蔵文化財調査室										0	3	3
環境・安全推進センター					1	2	1	2	1	7		7
男女共同参画推進センター									1	1		1
キャンパスデザイン室										0	3	3
事業イノベーション本部										0	3	3
原子分子材料科学高等研究機構					15	15	2	41	33	106	15	121
情報シナジー機構										0	1	1
東北メディカル・メガバンク機構					12	7	10	41	5	75	18	93
イノベーション戦略推進本部										0	1	1
総合技術部										0	433	433
マイクロシステム融合研究開発センター						3		4	4	11	2	13
省エネルギー・省エレクトロニクス集積化システムセンター										0	1	1
電気通信研究機構										0	1	1
材料科学共同研究センター									1	1		1
国際集積エレクトロニクス研究開発センター					3	1		5		9	5	14
知の創出センター					1			2		3	2	5
産学連携先端材料研究開発センター										0	2	2
合 計		1	7	2(1)	886	737	163	1,202	186	3,174	3,195	6,379

※再雇用職員含む。 ※休職者含む。 ※()は非常勤で内数。

学部

文学部 1学科5学科目	学 科	学科目数	学科目
	人 文 社 会 学 科	5	日本文化、東洋文化、西洋文化、人間文化、社会文化
教育学部 1学科2学科目	学 科	学科目数	学科目
	教 育 科 学 科	2	教育学、教育心理学
法学部 1学科1学科目	学 科	学科目数	学科目
	法 学 科	1	法学・政治学
経済学部 2学科6学科目	学 科	学科目数	学科目
	経 済 学 科	3	基礎理論、応用経済、経済史
	経 営 学 科	3	経営学、会計学、統計・数理科学
理学部 7学科7学科目	学 科	学科目数	学科目
	数 学 科	1	数学
	物 理 学 科	1	物理学
	宇 宙 地 球 物 理 学 科	1	宇宙地球物理学
	化 学 科	1	化学
	地 図 環 境 科 学 科	1	地図環境科学
	地 球 惑 星 物 質 科 学 科	1	地球惑星物質科学
	生 物 学 科	1	生物学
医学部 2学科15学科目 7講座	学 科	学科目数	学科目
	医 学 科	15	人体発生・構造学、分子生物・生化学、生理学、薬理学、病理学、感染・免疫学、内科学、外科学、小児科学、精神医学、皮膚科学、泌尿・産婦人科学、感覚器病学、麻酔・救急医学、社会医学
	保 健 学 科	7 (講座)	基礎看護学、臨床看護学、地域保健看護学、放射線基礎技術学、放射線医療技術学、基礎検査学、臨床検査学
歯学部 1学科5学科目	学 科	学科目数	学科目
	歯 学 科	5	口腔基礎生物学、解剖生理歯科学、口腔機能再建学、口腔保健発育学、口腔病態基礎外科学
薬学部 2学科2学科目	学 科	学科目数	学科目
	薬 学 科	1	薬学
	創 薬 科 学 科	1	創薬科学
工学部 5学科48学科目	学 科	学科目数	学科目
	機 械 知 能 ・ 航 空 工 学 科	15	知的デザイン学、エネルギーシステム工学、材料メカニクス、ナノテクノロジー、シミュレーション科学、スペーステクノロジー、原子核システム安全工学、エネルギー物理学、粒子ビーム工学、バイオメカニクス、ロボティクス、太陽地球システム・エネルギー学、自然共生システム学、資源循環プロセス学、環境創成計画学
	情 報 知 能 シ ス テ ム 総 合 学 科	11	エネルギーデバイス工学、電気エネルギーシステム工学、通信システム工学、波動工学、電子物性工学、電子システム工学、計算機基礎工学、知能情報処理工学、システム情報工学、応用物性物理学、応用材料物理学
	化 学 ・ バ イ オ 工 学 科	9	環境資源化学、分子システム化学、有機材料合成化学、量子無機材料化学、プロセス要素工学、プロセスシステム工学、超臨界流体工学、生体分子化学、生体機能化学
	材 料 科 学 総 合 学 科	7	創形創質プロセス学、先端マテリアル物理化学、材料環境学、ナノ材料物性学、情報デバイス材料学、マイクロシステム学、生体材料システム学
	建 築 ・ 社 会 環 境 工 学 科	6	基盤構造材料学、社会基盤構造学、水環境学、地域システム学、建築計画学、建築構成学
農学部 2学科13学科目	学 科	学科目数	学科目
	生 物 生 産 科 学 科	8	植物生産科学、植物適応形質学、農業資源経済学、動物資源開発学、動物生命科学、動物資源機能学、水圏生物機能学、水圏動物生産科学
	応 用 生 物 化 学 科	5	分子生物学、生物化学、植物分子生理学、生命有機化学、食品機能科学

大学院

文学研究科 4専攻20講座

専攻
文 化 科 学
言 語 科 学
歴 史 科 学
人 間 科 学

講座数
5
3
6
5
1

講 座
日本文化学、中国文化学、インド文化学、西洋文化学、哲学
言語学、日本語学、日本語教育学
日本史学、東洋史学、ヨーロッパ史学、美術史学、○比較文化史学、※文化財科学
社会学、行動科学、心理学、人間文化科学、○科学技術社会論
◎実践宗教学

教育学研究科 2専攻6講座

専攻
総 合 教 育 科 学
教 育 設 計 評 価

講座数
5
1

講 座
人間形成論、教育政策科学、成人継続教育論、教授学習科学、人間発達臨床科学
教育設計評価

法学研究科 3専攻8講座

専攻
総 合 法 制 (法科大学院)
公共法政策 (公共政策大学院)
法政理論研究 (研究大学院)

講座数
3
2
3

講 座
現代市民法、現代企業法、比較法社会論
行政法政策、ガバナンス研究
トランスナショナル法、グローバル政治分析、グローバル法文化分析

経済学研究科 2専攻12講座

専攻
経 済 経 営 学
会計専門職 (会計大学院)

講座数
8
4

講 座
経済基盤、経営基盤、現代経済、システム科学、現代経営、医療福祉、地域政策、グローバルシステム
会計、経済と経営、ITと統計、法と倫理

理学研究科 6専攻47講座

専攻
数 学
物 理 学
天 文 学
地 球 物 理 学
化 学
地 学

講座数
5
16
2
7
10
7

講 座
代数学、幾何学、解析学、多様体論、応用数理
量子基礎物理学、素粒子・核物理学、電子物理学、量子物性物理学、固体統計物理学、相関物理学、
領域横断物理学、○原子核物理学、○高エネルギー物理学、○結晶物理学、○金属物理学、
○分光物理学、○核放射線物理学、※加速器科学、※強相関電子物理学、※量子計測
天文学、理論天体物理学
固体地球物理学、太陽惑星空間物理学、流体地球物理学、地球環境物理学、○地殻物理学、
○惑星圏物理学、※固体地球物理学
無機・分析化学、有機化学、物理化学、境界領域化学、先端理化学、○生体機能化学、
○化学反応解析、○固体化学、※分離化学、※重元素化学
地圏進化学、環境地学、地球惑星物質科学、環境動態論、比較固体惑星学、※地圏物質循環学、※地球内部反応

医学系研究科 3専攻48講座

専攻
医 科 学
障 害 科 学
保 健 学

講座数
40
2
6

講 座
細胞生物学、生体機能学、病理病態学、内科病態学、発生・発達医学、外科病態学、
神経・感覚器病態学、社会医学、○医用動物学、○加齢制御学、○腫瘍制御学、○加齢脳科学、
○サイクロトロン核医学、※分子・神経イメージング、※がん医学、※先進成育医学、
※がん生命科学、※地域精神医療、※先進循環器医学、※消化器地域医療医学、
※グローバル感染症学、※臨床呼吸器・感染症学、○上肢運動器学、○先端画像・ナノ医学、
○予防精神医学、○視覚先端医療学、○小児科医師育成、○創薬科学 (持田製薬)、
○中心血圧研究○統合腎不全医療、○宮城地域医療支援、○網膜疾患制御学、
○循環器 EBM 開発学、○循環器先端医療開発学○統合癌治療外科学、○血液分子治療学、
○多発性硬化症治療学、○大動脈疾患治療開発学、○乳癌画像診断学、○災害交通医療情報学
機能医科学、○先進感染症予防学
基礎・健康開発看護学、家族支援看護学、医用情報技術科学、生体応用技術科学、基礎検査医科学、
臨床検査医科学

歯学研究科 1専攻11講座

専攻
歯 科 学

講座数
11

講 座
口腔生物学、口腔機能形態学、口腔修復学、口腔保健開発学、口腔病態外科学、顎口腔創建学、
○口腔腫瘍病態学、※口腔免疫病態制御学、※長寿口腔科学、○生体適合性計測工学、
○次世代歯科材料工学

薬学研究科 3専攻10講座

専攻
分 子 薬 科 学
生 命 薬 科 学
医 療 薬 学

講座数
4
2
4

講 座
分子制御化学、分子解析学、○分子動態解析学、※分子イメージング薬学
生命解析学、生命情報薬学
医療薬学、○病態分子薬学、※医薬品評価学、○医薬開発構想

工学研究科 18専攻99講座

専攻
機械システムデザイン工学
ナ ノ メ カ ニ ク ス
航 空 宇 宙 工 学
量 子 エ ネ ル ギ ー 工 学
電 気 エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム
通 信 工 学
電 子 工 学

講座数
7
7
6
11
4
4
7

講 座
知能システム工学、先進機械システムデザイン工学、知的デザイン学、エネルギーシステム工学、
○破壊機構学、○知能流体システム学、○多元物質応用システム工学
ナノシステム工学、先進ナノメカニクス、材料メカニクス、ナノテクノロジー、○破壊予知学、
○ナノ流動学、○表面ナノ物理計測制御学
航空宇宙システム工学、先進航空宇宙工学、シミュレーション科学、スペーステクノロジー、
○航空宇宙流体工学、※将来宇宙輸送工学
先進原子核工学、原子核システム安全工学、エネルギー物理学、粒子ビーム工学、
○エネルギー材料工学、○エネルギー化学工学、○量子物性工学、○加速器放射線工学、
※分子イメージング工学、※核融合炉システム工学、※核融合炉材料工学
エネルギーデバイス工学、電気エネルギーシステム工学、○情報エネルギーシステム工学、
○先端電力工学 (東北電力)
知的通信ネットワーク工学、通信システム工学、波動工学、○伝送工学
超微細電子工学、電子制御工学、物性工学、電子システム工学、○電子デバイス工学、
○電子材料工学、○極限表面制御工学

工学研究科 18専攻99講座	専攻	講座数	講座
	応用物理学	5	応用界面物理学、応用物性物理学、応用材料物理学、○低温電子材料物性学、○電子・分光計測学
	応用化学	4	原子・分子制御工学、環境資源化学、分子システム化学、○反応設計学
	化学工学	4	プロセス解析工学、プロセス要素工学、プロセスシステム工学、○反応分離プロセス
	バイオ工学	4	応用生命化学、生体分子化学、生体機能化学、○生物有機化学
	金属フロンティア工学	6	金属プロセス工学、創形創質プロセス学、先端マテリアル物理学、○プロセス設計学、○プロセス制御学、◇先進鉄鋼材料組織制御学 (JFE スチール)
	知能デバイス材料学	6	材料電子化学、ナノ材料物性学、情報デバイス材料学、○ナノ構造物質工学、○物質機能創製学、○材料表面機能制御学
	材料システム工学	5	接合界面制御学、マイクロシステム学、生体材料システム学、○物質構造評価学、○材料機能制御プロセス学
農学研究科 3専攻19講座	専攻	講座数	講座
	資源生物学	8	植物生産科学、動物生産科学、水圏生物生産科学、資源環境経済学、○沿岸生物生産システム学、○栽培植物環境科学、※資源環境政策学、※縁辺深海生態系動態学
	応用生命科学	6	環境生命科学、植物機能科学、動物機能科学、分子細胞科学、○応用遺伝子工学、◎家畜福祉学、
	生物産業創成科学	5	微生物機能開発科学、食品機能健康科学、天然物生物機能科学、生物産業情報科学、※蛋白質機能開発
国際文化研究科 3専攻16講座	専攻	講座数	講座
	国際地域文化論	5	アジア文化論、ヨーロッパ文化論、アメリカ研究、イスラム圏研究、比較文化論
	国際文化交流論	7	言語コミュニケーション論、国際経済交流論、科学技術交流論、国際環境システム論、○言語文化交流論、○異文化間教育論、○国際資源政策論
	国際文化言語論	4	言語科学基礎論、多元文化論、言語応用論、言語教育体系論
情報科学研究科 4専攻33講座	専攻	講座数	講座
	情報基礎科学	9	情報基礎数理学、情報応用数理学、計算科学、ソフトウェア科学、○情報論理学、○コミュニケーション論、○超高速情報処理論、○情報セキュリティ論、○広域情報処理論
	システム情報科学	9	システム情報数理学、知能情報科学、生体システム情報学、知能ロボティクス学、○音情報科学、○高次視覚情報学、○情報コンテンツ学、○融合流体情報学、○ソフトウェア構成論
	人間社会情報科学	6	人間情報学、社会政治情報学、社会経済情報学、人間社会計画学、メディア情報学、○コミュニケーション心理学
	応用情報科学	9	応用情報技術論、応用生命情報学、○情報通信ソフトウェア学、○情報ネットワーク論、○流動システム情報学、○ブレインファンクション集積学、○健康情報学、○バイオメディカル情報解析学、※複雑系統計科学
生命科学研究科 3専攻12講座	専攻	講座数	講座
	分子生命科学	3	生命有機情報科学、遺伝子システム学、○生体機能分子科学
	生命機能科学	4	細胞機能構築制御学、脳機能解析構築学、○海洋生物学、○分化制御学
	生態システム生命科学	5	環境遺伝生態学、進化生態科学、○植物多様性生物学、○保全生物学、※ゲノム生態学
環境科学研究科 1専攻17講座	専攻	講座数	講座
	環境科学	17	都市環境・環境地理学、国際環境・地域環境学、太陽地球システム・エネルギー学、自然共生システム学、資源循環プロセス学、環境創成計画学、○地殻環境システム創成学、○東北アジア地域社会論、○東北アジア地域文化論、○環境材料物理化学、○環境システム材料学、※環境適材創製学、※地球環境変動学、※環境リスク評価学、※バイオエコマネジメント学、◎環境物質制御学 (DOWA ホールディングス)、◎廃棄物資源循環複合新領域研究 (仙台環境開発)
医工学研究科 1専攻11講座	専攻	講座数	講座
	医工学	11	計測・診断医工学、治療医工学、生体機械システム医工学、生体再生医工学、社会医工学、○生体流動システム医工学、○人工臓器医工学、○生体材料学、○生体システム制御医工学、○生体情報システム学、◎糖尿病制御医工学
教育情報学教育部 1専攻3講座	専攻	講座数	講座
	教育情報学	3	IT教育デザイン論、IT教育ネットワーク論、○IT教育システム論
教育情報学研究部 5部門	専攻	部門数	部門
		5	IT教育システム原論、IT教育認知科学、IT教育アーキテクチャー、IT教育応用実践論、△比較IT教育論
専門職大学院 3専攻9講座	専攻	講座数	講座
	法科大学院	3	現代市民法、現代企業法、比較法社会論
	公共政策大学院	2	行政法政策、ガバナンス研究
	会計大学院	4	会計、経済と経営、ITと統計、法と倫理

注) ○は協力講座を、※は連携講座を、◎は寄附講座を、◇は共同研究講座を、△は客員研究部門を表す。

附置研究所

金属材料研究所 (共同利用・共同研究拠点)	部門数 29	研究目的及びその研究部門 材料科学に関する学理及びその応用の研究 金属物性論、結晶物理学、磁気物理学、量子表面界面科学、低温物理学、低温電子物性学、量子ビーム金属物理学、△材質制御学、結晶欠陥物性学、金属組織制御学、計算材料学、材料照射工学、原子力材料物性学、原子力材料工学、電子材料物性学、△材料設計学、ランダム構造物質学、生体材料学、錯体物性化学、非平衡物質工学、磁性材料学、結晶材料化学、水素機能材料工学、複合機能材料学、加工プロセス工学、アクチノイド物質科学、不定比化合物材料学、分析科学、△材料プロセス評価学
加齢医学研究所 (共同利用・共同研究拠点)	部門数 8	研究目的及びその研究部門 加齢医学に関する学理及びその応用の研究 加齢制御、腫瘍制御、脳科学、◎抗感染症薬開発、◎認知機能発達(公文教育研究会)、◎加齢ゲノム制御プロテオーム(DNA修復)、◎高齢者薬物治療開発、◎ニューロ・イメージング研究寄附研究部門(住友電工)
流体科学研究所 (共同利用・共同研究拠点)	部門数 3	研究目的及びその研究部門 流動現象に関する学理及びその応用の研究 流動創成、複雑流動、ナノ流動
電気通信研究所 (共同利用・共同研究拠点)	部門数 4	研究目的及びその研究部門 高次情報通信に関する学理およびその応用の研究 情報デバイス、ブロードバンド工学、人間情報システム、システム・ソフトウェア
多元物質科学研究所 (共同利用・共同研究拠点)	部門数 5	研究目的及びその研究部門 多元的な物質に関する学理及びその応用の研究 有機・生命科学、無機材料、プロセスシステム工学、計測、◇ナノ流体エンジニアリング
災害科学国際研究所	部門数 7	研究目的及びその研究部門 災害科学に関する学理及びその応用の研究 災害リスク、人間・社会対応、地域・都市再生、災害理学、災害医学、情報管理・社会連携、◎地震津波リスク評価(東京海上日動)

注) ○は寄附研究部門を、◇は共同研究部門を、△は客員研究部門を表す。

■ 研究施設・組織・機構等

学内共同教育研究施設等

施設名	設置目的
東北アジア研究センター	東北アジア（東アジア及び北アジア並びに日本をいう。）地域に関する地域研究を学際的及び総合的に行う。
電子光物理学研究センター （共同利用・共同研究拠点）	電子加速器から得られる様々なエネルギーの電子・光子ビームを主要な手段として、原子核物理学、加速器科学、物質科学等の物質諸階層の基礎と応用の研究を推進し、並びに新たな電子光ビームの開発を通じて、未踏研究分野の開拓及び新研究領域の創造を目指すとともに、電子光科学諸分野における研究者、技術者等の養成を行う。
ニュートリノ科学研究センター	低エネルギー・ニュートリノの観測及び極低放射能環境における実験的研究を通じて、素粒子物理学、宇宙物理学及び地球物理学の発展に寄与する。
高度教養教育・学生支援機構 （教育関係共同利用拠点）	高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、本学の教育の質の向上に寄与する。
国際高等研究教育院	各研究科、各附置研究所及び学際科学フロンティア研究所との連携を通じて、異分野の融合領域における新たな研究分野の研究成果を基盤とした教育に関する研究開発、企画及び支援を行うことにより、新たな総合的知を創造し、かつ、国際的に通用する若手研究者の養成を推進する。
学際科学フロンティア研究所	異分野融合による学際的研究を開拓し、及び推進するとともに、各研究科、各附置研究所及び国際高等研究教育院との連携を通じて若手研究者の研究を支援することにより新たな知と価値を創出し、より豊かな人類社会の発展に貢献する。
学術資源研究公開センター	学術標本、歴史資料として重要な公文書その他の本学の歴史に関する資料、植物園の敷地内に生育する生物資源等、本学が所蔵する学術資料の収集、保管又は保全及び研究を行い、もって学内の教育研究に資するとともに、これらを広く一般に公開して社会教育の振興に寄与する。
教育情報基盤センター	本学における教育の情報化及び情報教育に関する研究開発及び支援を行うとともに、教育上の情報システムに関する管理運用を一元的に行い、もって本学における教育の高度化及び学生サービスの充実に資する。
サイクロトロン・ ラジオアイソトープセンター	サイクロトロン設備を多目的利用に供し、高レベル及び短寿命のラジオアイソトープの取扱設備を共用させるとともに、放射線の安全管理に係る全学的業務を行い、併せて加速器並びに測定器に係る原子核物理学、核薬学、サイクロトロン核医学及び放射線管理に関する研究開発を行う。
未来科学技術共同研究センター	社会の要請に応える新しい技術・製品の実用化並びに新しい産業の創出を社会へ提案することを目指し、産業界等との共同研究の推進を図り、先端的かつ独創的な開発研究を行う。
研究教育基盤技術センター	研究教育の推進に資する大型研究設備を設置し、及び管理運営することにより、本学の教員その他これに準ずる者等の共同利用に供し、並びに低温寒剤の安定供給及び低温技術の指導を行うとともに、本学における研究教育の高度化及び融合化並びに社会貢献の推進を図るため、本学の指定する研究設備及び機器を部局との連携により広く学内外への利用に供する。
サイバーサイエンスセンター （共同利用・共同研究拠点）	全国共同利用の学内共同教育研究施設等として、教育等に係る情報化を推進するための研究開発並びに情報基盤の整備及び運用を行い、本学の情報化の推進において中核的な役割を担う。

研究施設・組織・機構等

特定事業組織

組織名	設置目的
産学連携推進本部	広範な領域の学術研究の推進を図り、知の創造に資するとともに、学術研究の成果を本学の知的財産として組織的に管理し、及び活用し、並びに新たな事業の創出を支援することにより、産学官連携の推進及び社会の発展に寄与する。
研究推進本部	国立大学法人東北大学研究推進審議会と連携して、本学の研究推進に係る業務を行う。
環境保全センター	本学の教育研究活動に伴って生ずる有害物質を含む排水、廃油及び廃有機溶剤（放射性物質を含む廃棄物を除く。）を適正に処理し、及びその処理に関する技術開発等を行うとともに、化学原料化において2次公害となる物質の排出を抑制する技術を確立することにより、環境の保全に資する。
埋蔵文化財調査室	本学の施設設備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図る。
動物実験センター	環境・安全委員会動物実験専門委員会が行う動物実験計画の審査、動物実験に係る法令遵守及び安全管理に関する事項並びに動物実験実施者等に対する教育訓練等の実施に関し支援することにより、本学における動物実験の適法性を確保し、及び動物実験に係る安全管理を推進する。
遺伝子実験センター	環境・安全委員会遺伝子組換え実験安全専門委員会が行う遺伝子組換え実験計画の審査、遺伝子組換え実験に係る法令遵守及び安全管理に関する事項並びに遺伝子組換え実験従事者等に対する教育訓練等の実施に関し支援することにより、本学における遺伝子組換え実験の適法性を確保し、及び遺伝子組換え実験に係る安全管理を推進する。
環境・安全推進センター	本学の部局と連携協力して、環境マネジメント及び安全衛生管理活動に係る業務を行う。
男女共同参画推進センター	男女共同参画委員会の方針に基づき、女性研究者の育成支援等に係る施策を行うことにより、本学における男女共同参画を推進する。
キャンパスデザイン室	本学の伝統を継承し、及び長期的視点に立ったキャンパスのデザインに関する調査及び研究を行い、専門的な観点から国立大学法人東北大学キャンパス総合計画委員会を支援する。
ロシア交流推進室	関係部局等と連携し、本学とロシアの大学その他研究機関等との全学的な交流を推進するとともに、本学がロシアに置く海外大学共同利用事務所の運営等を通じて、研究・教育のグローバル・ネットワークの構築に資する。
事業イノベーション本部	事業化推進事業に係る企画及び立案並びに事業化推進事業型共同研究に係る公募、審査、計画書の作成、実施の支援、進捗管理、関係部局等との連絡調整等を行うことにより、事業化推進事業の推進を図り、もって研究成果の事業化及び実用化に資する。

組織名	設置目的
高等研究機構	世界最高水準の研究者が集結する優れた国際的研究環境及び研究支援体制を構築し、既存の学問領域を超えた新しい学術分野を創出する。
原子分子材料科学高等研究機構	革新的材料科学に関する国際的な研究拠点として、原子・分子レベルにおける学理の深化及び異文化融合を通じて新たな原子分子制御法の確立及びこれに基づく革新的な高度実用材料の創出を図り、もって我が国の産業経済の持続的発展並びに当該学術分野における先端性及び優位性の維持及び進展に資する。
知の創出センター	世界に開かれた知の国際共同体の形成を目的とした頭脳循環の場として、先駆的な研究領域を創出するための活動を推進することにより、学術研究の発展及び指導的人材の育成に寄与する。
情報シナジー機構	本学全体の情報基盤整備に係る企画立案、調整及び協議を行い、並びにその実施を担うとともに、情報システムに係る整備、運用、管理及び利用に関する調整を行い、並びに情報基盤に基づく各種のサービスを提供するとともに情報セキュリティ対策の推進に必要な措置を講ずることにより、本学の情報化の推進を図る。
東北メディカル・メガバンク機構	東日本大震災における被災地の長期健康調査のための大規模コホート調査による医療健康福祉情報とゲノム情報をつなぐ新たな複合バイオバンクの構築及び次世代生命医療情報システムの研究拠点形成を通じた人材養成の推進により、医療資源の有効的活用等による医療課題問題の改善及び先進的ゲノム医療の実現を図り、もって東北地方の復興に資する。
イノベーション戦略推進本部	本学と産業界等との産官学による連携を通じて、革新的なイノベーションの持続的な創出を戦略的に推進するための方策に関する企画・立案及び調査・研究を行うことにより、豊かな生活環境の中で少子高齢化においても活気ある持続可能な社会を実現する。
総合技術部	技術職員（専ら教育研究の支援に従事する者に限る。）の能力等の向上を図り、及び適正な配置を実現することにより、本学の教育研究に関する技術的支援を行い、もって本学における教育研究支援体制の一層の充実に資する。
マイクロシステム融合研究開発センター	集積化マイクロシステムの研究開発拠点として、企業等との連携によりマイクロシステム融合技術の開発を推進して半導体集積回路分野における我が国の国際的な競争力の強化に寄与するとともに、情報・通信、製造、医療等の多様な分野において当該技術の実用化を図る。
省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター	スピントロニクス素子と論理集積回路とを融合した革新的な省エネルギー論理集積回路を開発し、及びその技術に係る産学連携拠点の構築を図ることにより、次世代半導体分野における我が国の国際的な競争力の強化に寄与するとともに、低炭素・省エネルギー社会の実現に貢献する。
電気通信研究機構	本学の電気、通信、電子及び情報の各分野の研究者及び技術者の英知を結集し、災害に強い情報通信ネットワークの構築及び世界をリードする革新的研究開発を通じて、被災地である東北における情報通信・エレクトロニクス産業の興隆、さらに我が国における新しい情報通信・エレクトロニクス分野の新産業創出に寄与し、社会的課題にこたえる戦略的研究の推進、地域政策及び国家政策への貢献並びに産学連携研究の推進を行う。
材料科学共同研究センター	材料科学の研究開発拠点として、中国上海交通大学との連携により材料科学分野における共同研究を推進して、世界最高水準の研究開発の創出及び指導的人材の養成に資するとともに、学術及び産業技術の発展に寄与する。
国際集積エレクトロニクス研究開発センター	集積エレクトロニクス技術を研究開発し、及びその技術に係る国際的産学連携拠点の構築を図ることにより、次世代集積エレクトロニクス分野における我が国の国際的な競争力の強化に寄与するとともに、当該分野の技術の実用化及び新産業の創出を目的とする。
リーディングプログラム推進機構	関係部局と連携し、世界に通用する博士課程の学位プログラムの企画、実施及び支援を行うことにより大学院教育の充実に図り、もって大学院の学生に対しふかんと独創力を身に付けさせ、広く産学官にわたりグローバルに活躍する指導的人材の育成に資する。
産学連携先端材料研究開発センター	産学官による連携体制を構築し、未来の社会を支える新しい材料に係る加工、製造、処理、分析及び評価の各プロセスにおける技術の研究開発及び実用化を促進することにより、東北地域の産業復興及び我が国の材料分野における国際競争力の強化に寄与する。
レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター	産学官による共同研究とコンソーシアムの形成を通じ、レアメタルのサプライチェーンの構築ならびにグリーンイノベーションを推進して、レアメタルを効率的に利用する産業構造の構築及び省エネルギーによる低炭素社会の実現に資するとともに、これらの研究を通じて次代を担う研究者及び技術者の教育及び育成に貢献する。

所蔵冊数

(平成26年3月31日現在)

区 分	種 別	本 館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
蔵書冊数	図 書	和漢書	1,566,128	167,974	84,756	176,133	2,076,598
		洋 書	1,152,340	249,008	304,789	180,974	1,942,912
		計	2,718,468	416,982	389,545	357,107	4,019,510
	雑 誌	和雑誌	26,179	4,785	2,273	3,835	40,907
		洋雑誌	17,220	8,643	7,147	4,202	39,002
		計	43,399	13,428	9,420	8,037	79,909

利用状況

(平成25年度)

区 分	本 館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
入館者	479,296	198,187	64,815	127,875	49,133	919,306
学外閲覧者	1,686	1,034	3,238	131	748	6,837
貸出図書	287,946	21,659	19,168	48,399	8,510	385,682
レファレンスサービス	11,700	3,802	3,120	5,115	1,965	25,702
情報検索サービス	18,916	8,100	1,404	2,302	884	31,606
文献複写	10,667	13,161	3,273	8,471	1,250	36,882

蔵書の特徴

1. 国 宝	史 記 孝文本紀第十(平安時代) 類聚國史 巻第二十五(平安時代)
2. 貴 重 本	和漢書820点(うち狩野文庫574点) } 計930点 洋 書110点
3. 特殊文庫等	狩野文庫(前記の国宝2点を含む約108,000冊)、和算関係文庫、西藏大蔵經(デルゲ版)、漱石文庫、阿部(次郎)文庫、晩翠文庫、大類(伸)文庫、児島(喜久雄)文庫、石津(照璧)文庫、梅原(未治)文庫、矢島(玄亮)文庫、櫛田(民蔵)文庫、和田(佐一郎)文庫、須永(重光)文庫、木下(彰)文庫、高柳(真三)文庫、宮田(光雄)文庫、伊東(信雄)文庫、河野(与一)文庫、中野(正)文庫、中村(吉治)文庫、平山(諦)文庫、松本(金寿)文庫、柳瀬(良幹)文庫、金谷(治)文庫、ヴント文庫(Wilhelm Wundt)、ケーベル文庫(Raphael von Koeber)、シュタイン文庫(Friedrich Stein)、ゼッケル文庫(Emil Seckel)、チーテルマン文庫(Ernst Zitelmann)、ヴュルフェル文庫(Georg Würfel)、秋田家史料、晴山文書、齋藤養之助家史料



ラーニングコモンズ(主体的な学習を行うための共有・共同スペース)



解体新書

■ 病院

(平成26年4月1日現在)

部門	診療科	病床数
医科部門	内科	循環器内科、総合感染症科、腎・高血圧・内分泌科、血液・免疫科、糖尿病代謝科、消化器内科、老年科、漢方内科、心療内科、呼吸器内科、腫瘍内科
	外科	肝・胆・膵外科、胃腸外科、移植・再建・内視鏡外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、呼吸器外科、麻酔科、緩和医療科、救急科
	産婦人科・泌尿生殖器科	婦人科、産科、泌尿器科
	脳・神経・精神科	神経内科、脳神経外科、脳血管内治療科、精神科
	小児科	小児科、遺伝科、小児外科、小児腫瘍外科、小児腫瘍科
	感覚器・理学診療科	皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、肢体不自由リハビリテーション科、てんかん科、内部障害リハビリテーション科、高次脳機能障害科
	放射線科	放射線治療科、放射線診断科、加齢核医学科
歯科部門	口腔育成系診療科	予防歯科、小児歯科、矯正歯科、咬合機能成育室
	口腔維持系診療科	口腔診断科、歯科顎口腔外科、歯科麻酔疼痛管理科
	口腔修復系診療科	保存修復科、咬合修復科、歯内療法科
	口腔回復系診療科	咬合回復科、歯周病科、口腔機能回復科

患者数

(平成25年度)

部門／入院	延患者数	1日平均患者数
医科部門	378,794	1,038
歯科部門	10,886	30
部門／外来	延患者数	1日平均患者数
医科部門	579,980	2,377
歯科部門	152,108	623

先進医療

泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術

定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価

低出力体外衝撃波治療法

パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びペバシズマブ静脈内投与の併用療法（これらを三週間に一回投与するものに限る。）並びにペバシズマブ静脈内投与（三週間に一回投与するものに限る。）による維持療法

重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植

パクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る。）の併用療法

歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法

短腸症候群又は不可逆的な機能性小腸不全に対する脳死ドナーからの小腸移植

短腸症候群又は不可逆的な機能性小腸不全に対する生体ドナーからの小腸部分移植

有床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査

神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びペバシズマブ静脈内投与療法

術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法

急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定

インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法



学生総数

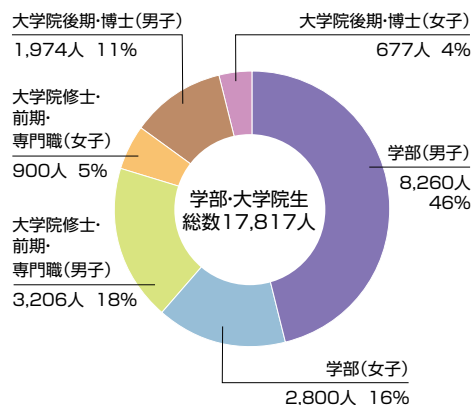
区分	学生定員	在籍者		内 留学生数			研究生 特別聴講学生 特別研究学生 科目等履修生 日本語研修コース
				国費	私費	計	
学部学生	9,994	11,060	(2,800)	24	150	174	339
大学院学生(修士・前期・専門職)	3,896	4,106	(900)	66	411	477	155
大学院学生(後期・博士)	2,656	2,651	(677)	152	382	534	
計	16,546	17,817	(4,377)	242	943	1,185	494
附属学校	40	35	(28)	—	—	—	—
研究所	—	—	—	—	—	—	20
その他	—	—	—	—	—	—	17
合計	16,586	17,852	(4,405)	242	943	1,185	531

()の数は女子で内数。私費留学生については、政府派遣留学生を含む

学 部

学部名	総定員	在 籍 者		
文 学 部	840	977	(529)	[20]
教 育 学 部	280	308	(158)	[2]
法 学 部	640	719	(189)	[2]
経 済 学 部	1,080	1,166	(217)	[10]
理 学 部	1,296	1,412	(220)	[31]
医 学 部	1,336	1,373	(527)	[5]
歯 学 部	322	330	(125)	[0]
薬 学 部	360	380	(103)	[3]
工 学 部	3,240	3,726	(444)	[86]
農 学 部	600	669	(288)	[15]
計	9,994	11,060	(2,800)	[174]

()の数は女子で内数、[]の数は留学生で内数



大学院

研究科等名	修士・前期・専門職				後期・博士			
	総定員	在 籍 者			総定員	在 籍 者		
文 学 研 究 科	178	173	(77)	[50]	135	169	(72)	[41]
教 育 学 研 究 科	86	76	(50)	[9]	54	80	(42)	[7]
法 学 研 究 科	290	179	(35)	[5]	60	46	(15)	[21]
経 済 学 研 究 科	180	159	(62)	[86]	60	63	(22)	[30]
理 学 研 究 科	524	586	(85)	[49]	390	297	(43)	[62]
医 学 系 研 究 科	184	167	(87)	[20]	583	688	(197)	[44]
歯 学 研 究 科	12	17	(12)	[0]	168	166	(51)	[15]
薬 学 研 究 科	108	120	(33)	[3]	66	80	(16)	[7]
工 学 研 究 科	1,272	1,479	(141)	[96]	522	528	(54)	[160]
農 学 研 究 科	218	267	(106)	[17]	111	116	(36)	[27]
国 際 文 化 研 究 科	96	85	(59)	[58]	114	64	(40)	[30]
情 報 科 学 研 究 科	280	291	(29)	[41]	126	108	(23)	[29]
生 命 科 学 研 究 科	212	201	(59)	[10]	141	83	(27)	[21]
環 境 科 学 研 究 科	170	199	(33)	[16]	81	90	(25)	[32]
医 工 学 研 究 科	62	83	(16)	[3]	30	50	(6)	[7]
教 育 情 報 学 教 育 部	24	24	(16)	[14]	15	23	(8)	[1]
計	3,896	4,106	(900)	[477]	2,656	2,651	(677)	[534]

()の数は女子で内数、[]の数は留学生で内数

附属学校

学校名	定 員	入学者	在籍者
歯学部附属歯科技工士学校	20×2学年	19 (15)	35 (28)

()の数は女子で内数

入学状況

(平成26年度)

学 部

学部名	入学定員	入学志願者	入学者
文 学 部	210	469 (234)	226 (119)
教 育 学 部	70	180 (94)	77 (40)
法 学 部	160	362 (106)	177 (48)
経 済 学 部	260	944 (143)	262 (51)
	20	64 (17)	22 (6)
理 学 部	324	1,587 (243)	346 (44)
医 学 部	医 学 科	135 493 (99)	135 (25)
	保健学科	144 362 (260)	145 (101)
歯 学 部	53	231 (84)	53 (19)
薬 学 部	80	293 (109)	86 (25)
工 学 部	810	2,313 (338)	896 (114)
農 学 部	150	445 (194)	155 (67)
計	2,396	7,679 (1,904)	2,558 (653)
	20	64 (17)	22 (6)

()の数は女子で内数。下欄の数は3年次編入学に係る数字で外数、()の数は女子で内数

大学院

研究科等名	修士・前期・後期・博士・専門職別	入学定員	入学志願者	入学者
文 学 研 究 科	前期	89	120 (56)	78 (38)
	後期	45	34 (11)	29 (9)
教 育 学 研 究 科	前期	43	68 (38)	31 (19)
	後期	18	18 (11)	9 (5)
法 学 研 究 科	前期	10	8 (1)	6 (1)
	後期	20	11 (5)	6 (3)
	専門職	80	201 (36)	69 (11)
経 済 学 研 究 科	前期	50	81 (27)	34 (14)
	後期	20	8 (2)	7 (2)
	専門職	40	47 (15)	23 (8)
理 学 研 究 科	前期	262	338 (54)	265 (42)
	後期	130	80 (14)	76 (14)
医 学 系 研 究 科	修士	40	36 (17)	28 (14)
	博士	130	138 (30)	131 (25)
	前期	52	41 (22)	35 (18)
	後期	21	23 (12)	19 (9)
歯 学 研 究 科	修士	6	7 (7)	7 (7)
	博士	42	35 (7)	32 (6)
薬 学 研 究 科	博士	4	6 (1)	6 (1)
	前期	54	76 (18)	63 (14)
	後期	18	20 (3)	20 (3)
工 学 研 究 科	前期	636	841 (76)	680 (61)
	後期	174	116 (13)	110 (12)
農 学 研 究 科	前期	109	167 (62)	119 (41)
	後期	37	23 (7)	23 (7)
国際文化研究科	前期	48	64 (45)	38 (27)
	後期	38	25 (17)	18 (10)
情報科学研究科	前期	140	185 (14)	142 (13)
	後期	42	25 (4)	22 (4)
生命科学研究科	前期	106	115 (32)	93 (24)
	後期	47	24 (5)	23 (5)
環境科学研究科	前期	85	125 (17)	99 (13)
	後期	27	14 (5)	12 (5)
医工学研究科	前期	31	43 (5)	38 (4)
	後期	10	7 (1)	7 (1)
教育情報学教育部	前期	12	11 (6)	11 (6)
	後期	5	5 (3)	4 (2)
計	修士	46	43 (24)	35 (21)
	博士	176	179 (38)	169 (32)
	前期	1,727	2,283 (473)	1,732 (335)
	後期	652	433 (113)	385 (91)
	専門職	120	248 (51)	92 (19)

()の数は女子で内数



平成26年度入学式 平成26年4月4日

出身都道府県別 学部入学志願者・入学者

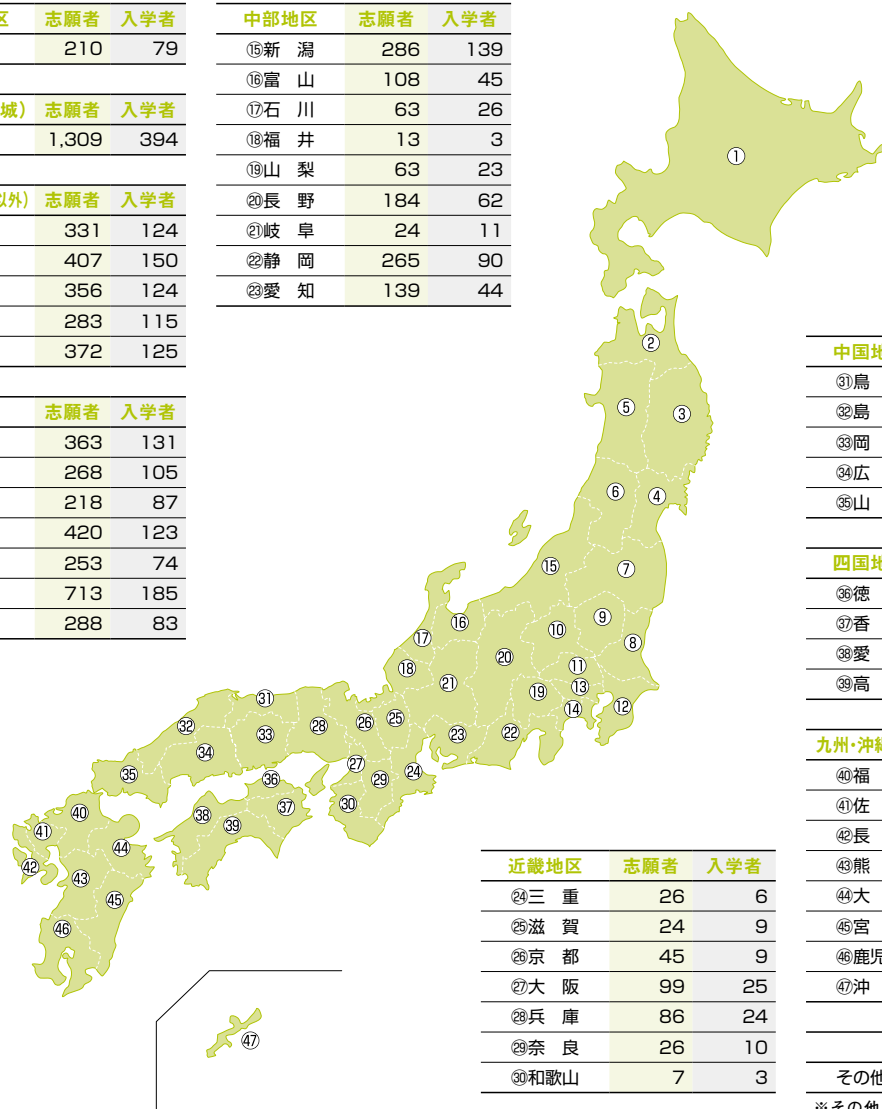
北海道地区	志願者	入学者
①北海道	210	79

東北地区(宮城)	志願者	入学者
④宮城	1,309	394

東北地区(宮城以外)	志願者	入学者
②青森	331	124
③岩手	407	150
⑤秋田	356	124
⑥山形	283	115
⑦福島	372	125

関東地区	志願者	入学者
⑧茨城	363	131
⑨栃木	268	105
⑩群馬	218	87
⑪埼玉	420	123
⑫千葉	253	74
⑬東京	713	185
⑭神奈川	288	83

中部地区	志願者	入学者
⑮新潟	286	139
⑯富山	108	45
⑰石川	63	26
⑱福井	13	3
⑲山梨	63	23
⑳長野	184	62
㉑岐阜	24	11
㉒静岡	265	90
㉓愛知	139	44



中国地区	志願者	入学者
㉔鳥取	5	1
㉕島根	11	4
㉖岡山	23	6
㉗広島	63	16
㉘山口	15	7

四国地区	志願者	入学者
㉙徳島	17	4
㉚香川	14	3
㉛愛媛	38	12
㉜高知	8	3

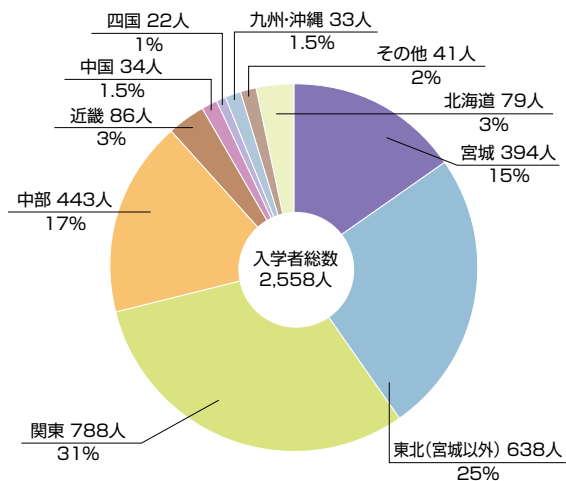
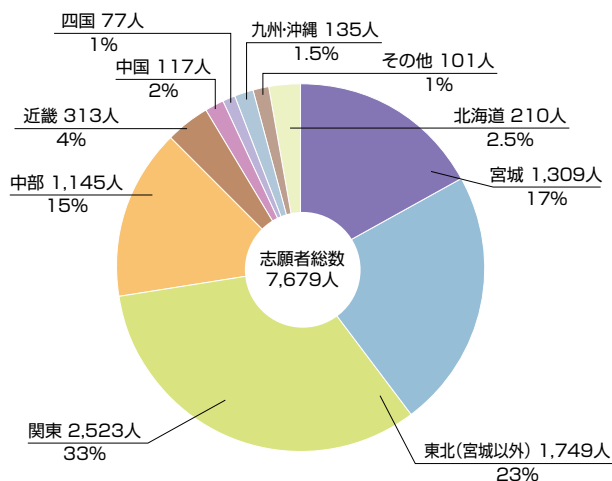
九州・沖縄地区	志願者	入学者
㉝福岡	43	11
㉞佐賀	6	3
㉟長崎	24	4
㊱熊本	20	3
㊲大分	3	1
㊳宮崎	9	4
㊴鹿児島	16	2
㊵沖縄	14	5

近畿地区	志願者	入学者
㊶三重	26	6
㊷滋賀	24	9
㊸京都	45	9
㊹大阪	99	25
㊺兵庫	86	24
㊻奈良	26	10
㊼和歌山	7	3

	志願者	入学者
その他	101	41

※その他は、高専等、高等学校卒業程度認定試験(旧大学入学資格検定)、帰国生徒、私費外国人留学生、国費外国人留学生等の数です。

平成26年度 学部入学志願者・入学者の出身地区別内訳



学部卒業生数・学位授与者数

学部卒業生数

(平成26年3月31日現在)

区分	旧制 (昭和24年4月 以前入学者)	新制 (昭和24年5月以降入学者)	
		平成25年度	累計
文学部	1,277	236	10,576
教育学部	—	70	6,660
法学部	3,844	161	12,196
経済学部	1,446	265	13,642
理学部	2,747	332	15,852
医学部	3,290	246	7,285
歯学部	—	49	2,449
薬学部	—	87	3,726
工学部	3,953	867	45,636
農学部	679	160	8,700
計	17,236	2,473	126,722

※農学部旧制には、林学士59名を含む

学位授与者数(修士)

(平成26年3月31日現在)

区分	平成25年度	累計
文学研究科	74	3,306
教育学研究科	25	1,145
法学研究科	6	577
経済学研究科	42	1,249
理学研究科	256	9,272
医学系研究科	72	790
歯学研究科	3	59
薬学研究科	61	2,221
工学研究科	710	22,482
農学研究科	152	3,785
国際文化研究科	29	752
情報科学研究科	137	2,664
生命科学研究科	75	1,174
環境科学研究科	106	966
医工学研究科	38	182
教育情報学教育部	12	123
計	1,798	50,747

学位授与者数(専門職)

(平成26年3月31日現在)

区分	平成25年度	累計
公共法政策修士(専門職)	24	200
法務博士(専門職)	50	719
会計修士(専門職)	38	294
計	112	1,213

学位授与者数(博士)

(平成26年3月31日現在)

区分	旧制 (昭和28年3月 以前入学者)	新制(課程) (昭和28年4月以降入学者)		新制(論博)	
		平成25年度	累計	平成25年度	累計
文学研究科	96	21	461	6	287
教育学研究科	—	6	155	0	126
法学研究科	38	4	114	0	53
経済学研究科	50	11	260	0	112
理学研究科	944	67	2,847	6	1,258
医学系研究科	3,715	166	3,470	10	3,481
歯学研究科	—	38	687	0	204
薬学研究科	—	26	531	6	570
工学研究科	554	141	4,990	0	2,229
農学研究科	152	25	1,091	12	791
国際文化研究科	—	11	163	0	10
情報科学研究科	—	20	608	1	65
生命科学研究科	—	22	280	3	25
環境科学研究科	—	23	253	0	17
医工学研究科	—	1	33	0	1
教育情報学教育部	—	5	30	0	2
計	5,549	587	15,973	44	9,231



平成26年3月学位記授与式 平成26年3月26日



卒業後の状況 進路状況調(平成25年度卒業修了)

(平成26年4月1日現在)

学 部

区 分	卒業者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
文 学 部	236 (119)	43 (15)	— —	158 (84)	31 (17)	127 (67)	35 (20)
教 育 学 部	70 (30)	15 (7)	— —	50 (21)	13 (7)	37 (14)	5 (2)
法 学 部	161 (42)	40 (8)	— —	100 (29)	16 (4)	84 (25)	21 (5)
経 済 学 部	265 (52)	19 (3)	— —	220 (44)	39 (9)	181 (35)	26 (5)
理 学 部	332 (52)	269 (44)	— —	42 (6)	7 (1)	35 (5)	21 (2)
医 学 部	6年	100 (16)	1 (1)	94 (15)	0 (0)	— —	5 (0)
	4年	146 (110)	22 (9)	— —	124 (101)	68 (55)	56 (46)
歯 学 部	49 (23)	0 (0)	43 (22)	0 (0)	— —	— —	6 (1)
薬 学 部	6年	21 (11)	3 (0)	— —	16 (10)	5 (2)	12 (8)
	4年	66 (14)	61 (13)	— —	3 (0)	0 (0)	3 (0)
工 学 部	867 (84)	781 (72)	— —	60 (10)	9 (1)	51 (9)	26 (2)
農 学 部	160 (57)	134 (47)	— —	20 (7)	3 (2)	17 (5)	6 (3)
計	2,473 (610)	1,388 (219)	137 (37)	793 (312)	191 (98)	603 (214)	155 (42)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、公務員試験等準備中、未就職者等

研究科：前期2年の課程

区 分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
文 学 研 究 科	74 (40)	24 (8)	— —	28 (19)	8 (5)	20 (14)	22 (13)
教育学研究科	25 (13)	4 (1)	— —	16 (8)	7 (3)	9 (5)	5 (4)
法学研究科	6 (3)	0 (0)	— —	3 (1)	1 (0)	2 (1)	3 (2)
経済学研究科	42 (18)	6 (1)	— —	21 (8)	4 (0)	17 (8)	15 (9)
理学研究科	256 (41)	77 (14)	— —	165 (25)	11 (0)	154 (25)	14 (2)
医学系研究科	38 (18)	12 (4)	— —	22 (12)	12 (8)	10 (4)	4 (2)
薬学研究科	61 (7)	19 (3)	— —	37 (3)	1 (1)	36 (2)	5 (1)
工学研究科	710 (79)	89 (12)	— —	598 (61)	26 (5)	572 (56)	23 (6)
農学研究科	152 (44)	20 (4)	— —	116 (33)	10 (5)	106 (28)	16 (7)
国際文化研究科	29 (22)	5 (3)	— —	8 (7)	1 (1)	7 (6)	16 (12)
情報科学研究科	137 (16)	14 (0)	— —	107 (12)	4 (1)	103 (11)	16 (4)
生命科学研究科	75 (13)	20 (3)	— —	49 (9)	3 (2)	46 (7)	6 (1)
環境科学研究科	106 (21)	12 (6)	— —	90 (15)	0 (0)	90 (15)	4 (0)
医工学研究科	38 (6)	5 (1)	— —	32 (4)	2 (0)	30 (4)	1 (1)
教育情報学教育部	12 (6)	2 (2)	— —	5 (0)	2 (0)	3 (0)	5 (4)
計	1,761 (347)	309 (62)	0 (0)	1,297 (217)	92 (31)	1,205 (186)	155 (68)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、公務員試験等準備中、未就職者等

研究科：後期3年の課程

区 分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他	うちポスドク
					県内	県外		
文学研究科	21 (8)	— —	— —	9 (4)	2 (1)	7 (3)	12 (4)	0 (0)
教育学研究科	6 (2)	— —	— —	5 (2)	2 (1)	3 (1)	1 (0)	1 (0)
法学研究科	4 (2)	1 (1)	— —	2 (1)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (1)
経済学研究科	11 (3)	— —	— —	3 (0)	0 (0)	3 (0)	8 (3)	2 (0)
理学研究科	67 (6)	— —	— —	31 (2)	4 (0)	27 (2)	36 (4)	17 (3)
医学系研究科	15 (6)	— —	— —	8 (2)	2 (1)	6 (1)	7 (4)	1 (0)
薬学研究科	26 (2)	— —	— —	23 (2)	0 (0)	23 (2)	3 (0)	4 (0)
工学研究科	141 (14)	— —	— —	91 (11)	14 (3)	77 (8)	50 (3)	18 (1)
農学研究科	25 (6)	1 (1)	— —	18 (4)	2 (1)	16 (3)	6 (1)	4 (2)
国際文化研究科	11 (8)	— —	— —	4 (2)	3 (2)	1 (0)	7 (6)	3 (2)
情報科学研究科	20 (2)	— —	— —	13 (1)	5 (0)	8 (1)	7 (1)	5 (2)
生命科学研究科	22 (4)	— —	— —	14 (3)	3 (1)	11 (2)	8 (1)	1 (0)
環境科学研究科	23 (7)	— —	— —	16 (4)	2 (0)	14 (4)	7 (3)	1 (1)
医工学研究科	1 (0)	— —	— —	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)
教育情報学教育部	5 (1)	— —	— —	4 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)
計	398 (71)	2 (2)	0 (0)	241 (38)	42 (10)	199 (28)	155 (31)	61 (13)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、公務員試験等準備中、未就職者等

研究科：修士課程

区 分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
医学系研究科	34 (15)	7 (3)	— —	11 (0)	3 (0)	8 (0)	16 (12)
歯学研究科	3 (1)	1 (0)	— —	2 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)
計	37 (16)	8 (3)	0 (0)	13 (1)	4 (1)	9 (0)	16 (12)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、公務員試験等準備中、未就職者等

研究科：博士課程

区 分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他	うちポスドク
					県内	県外		
医学系研究科	151 (36)	1 (0)	— —	99 (12)	56 (7)	43 (5)	51 (24)	6 (2)
歯学研究科	38 (14)	— —	— —	33 (10)	21 (9)	12 (1)	5 (4)	15 (10)
計	189 (50)	1 (0)	0 (0)	132 (22)	77 (16)	55 (6)	56 (28)	21 (12)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、公務員試験等準備中、未就職者等

研究科：専門職学位課程

区 分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
法学研究科	24 (6)	— —	— —	24 (6)	1 (1)	23 (5)	0 (0)
法学研究科(法科大学院)	50 (8)	— —	— —	1 (0)	0 (0)	1 (0)	49 (8)
経済学研究科	38 (7)	1 (0)	— —	20 (4)	1 (0)	19 (4)	17 (3)
計	112 (21)	1 (0)	0 (0)	45 (10)	2 (1)	43 (9)	66 (11)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、公務員試験等準備中、未就職者等

産業別就職者数

(平成25年4月1日現在)

学部

区分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部	農学部	計
農業・林業・漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設業	4	0	1	1	0	0	0	0	2	0	8
製造業	12	2	10	38	1	0	0	4	19	2	88
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	3	10	0	0	0	0	0	0	15
情報通信業	14	6	5	26	4	0	0	0	6	0	61
運輸業・郵便業	5	0	1	6	2	0	0	0	3	1	18
卸売業・小売業	14	4	3	6	1	0	0	2	0	3	33
金融業・保険業	20	9	15	63	5	0	0	0	3	4	119
不動産業・物品賃貸業	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	5
学術研究・専門・技術サービス業	1	0	0	4	4	0	0	3	7	0	19
宿泊業・飲食サービス業	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	5
生活関連サービス業・娯楽業	4	0	0	2	0	0	0	1	0	0	7
教育・学習支援業	20	10	0	2	11	0	0	0	2	0	45
医療・福祉	6	1	1	3	1	124	0	8	0	1	145
複合サービス事業	1	0	1	4	2	0	0	0	2	0	10
サービス業(他に分類されないもの)	4	1	5	4	0	0	0	0	2	1	17
公務(国家公務)	10	2	18	12	5	0	0	0	8	1	56
公務(地方公務)	41	12	35	37	4	0	0	1	4	3	137
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
計	158	50	100	220	42	124	0	19	60	20	793

大学院

区分	文学研究科	教育学研究科	法学研究科	経済学研究科	理学研究科	医学系研究科	歯学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	国際文化研究科	情報科学研究科	生命科学研究科	環境科学研究科	医工学研究科	教育情報学教育部	計
農業・林業・漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	6
建設業	0	0	0	0	4	0	0	0	40	3	1	2	0	5	0	1	56
製造業	1	0	3	10	83	11	0	42	442	57	1	44	33	64	23	1	815
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0	2	5	0	0	0	32	0	0	3	0	3	4	0	49
情報通信業	6	0	0	4	31	0	0	0	28	8	0	42	3	5	1	1	129
運輸業・郵便業	2	0	0	0	2	0	0	0	20	2	1	4	0	0	0	0	31
卸売業・小売業	3	0	0	1	4	0	0	0	4	4	0	0	5	4	0	0	25
金融業・保険業	0	0	6	6	8	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	26
不動産業・物品賃貸業	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
学術研究・専門・技術サービス業	2	2	5	12	13	4		10	55	19		5	6	6	2	1	142
宿泊業・飲食サービス業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
生活関連サービス業・娯楽業	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
教育・学習支援業	16	12	1	2	21	17	3	4	20	2	6	9	10	7		5	135
医療・福祉	0	3	0	0	0	107	31	3	1	3	0	0	1	0	0	0	149
複合サービス事業	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	5
サービス業(他に分類されないもの)	2	0	1	0	0	0	0	0	7	4	0	5	0	1	0	0	20
公務(国家公務)	3	3	6	3	7	0	0	1	4	2	0	1	1	3	1	0	35
公務(地方公務)	2	1	8	2	8	0	0	0	25	17	0	2	3	1	1	0	70
その他	0	0	0	0	4	0	1	0	5	1	2	1	0	2	0	0	16
計	37	21	30	44	196	140	35	60	689	134	12	120	63	106	32	9	1,728

学友会

大学の学間以外に、文化、体育などに関する自発的な活動のための全学的な組織が学友会です。

学友会は、本学の教職員・学生の全員で組織され、会員の会費により、その運営（大学祭、新入生歓迎会、海上運動会、サークル活動等の援助）が行われています。

中央各部

部名	部長名	部局	職名
総務部	東谷 篤志	生命科学研究科	総長特別補佐
文化部	末光 眞希	電気通信研究所	教 授
体育部	永富 良一	医工学研究科	教 授
報道部	尾崎 彰宏	文学研究科	教 授

文化部

部名	部長名	部局	職名
1 男声合唱部	境田 清隆	環境科学研究科	教 授
2 混声合唱部	宮本 美能	高度教養教育機構	准教授
3 交響楽部	川平 芳夫	国際文化研究科	教 授
4 文芸部			
5 美術部	芳賀 京子	文学研究科	准教授
6 映画部	佐野健太郎	情報科学研究科	准教授
7 演劇部	三浦 隆史	薬学研究科	准教授
8 写真部	長岡 龍作	文学研究科	教 授
9 茶道部	工藤 純一	東北アジア研究センター	教 授
10 能楽部	伏見 岳人	法学研究科	准教授
11 邦楽部	早川 美徳	教育情報基盤センター	教 授
12 放送研究部	村岡 裕明	電気通信研究所	教 授
13 アマチュア無線部	曾根 秀昭	サイバーサイエンスセンター	教 授
14 落語研究部	山崎 武	理学研究科	准教授
15 E. S. S. 部	木村 敏明	文学研究科	教 授
16 囲碁部	徳山 豪	情報科学研究科	教 授
17 奇術部	金子 俊郎	工学研究科	教 授
18 軽音楽部	亀田 卓	電気通信研究所	准教授
19 マンドリン楽部	川又 政征	工学研究科	教 授
20 化学部	飛田 博実	理学研究科	教 授
21 オーディオ研究部	金崎 芳輔	経済学研究科	教 授
22 吹奏楽部	木村 邦博	文学研究科	教 授
23 将棋部	高瀬 圭	病院	准教授
24 書道部	猪股 宏	工学研究科	教 授
25 生活部	井上 千弘	環境科学研究科	教 授



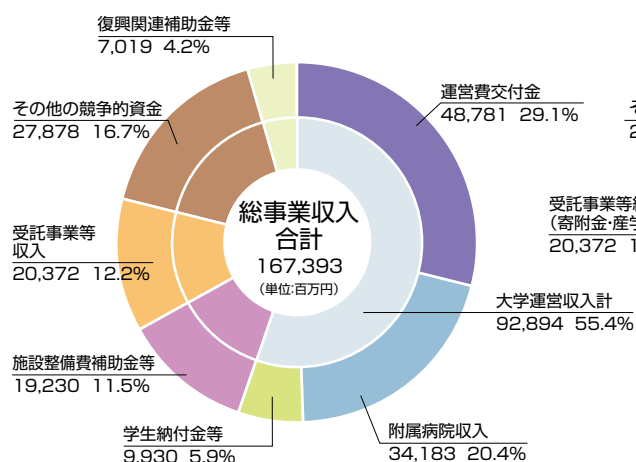
乗馬部七大戦

体育部

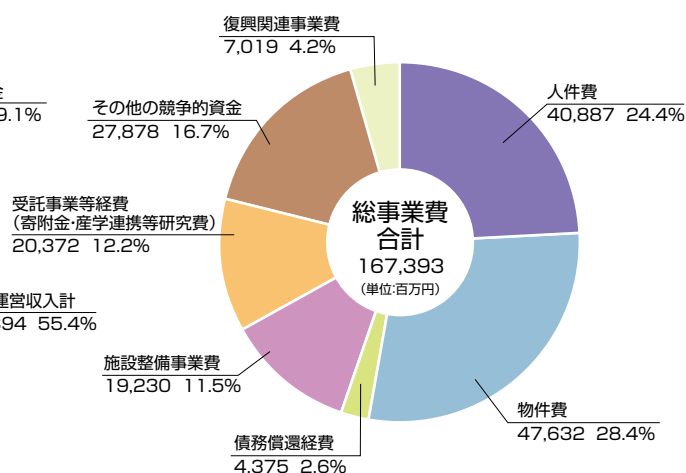
部名	部長名	部局	職名
1 陸上競技部	佐藤 源之	東北アジア研究センター	教 授
2 硬式野球部	長谷川史彦	未来科学技術共同研究センター	教 授
3 準硬式野球部	横堀 壽光	工学研究科	教 授
4 硬式庭球部	宮澤 陽夫	農学研究科	教 授
5 軟式庭球部	須藤 祐司	工学研究科	准教授
6 ラグビー部	荒井 陽一	医学系研究科	教 授
7 男子バレーボール部 女子バレーボール部	長坂 徹也	工学研究科	教 授
8 蹴球部	齋木 佳克	医学系研究科	教 授
9 男子バスケットボール部 女子バスケットボール部	須藤 彰三	理学研究科	教 授
10 卓球部	後藤 光亀	工学研究科	准教授
11 山岳部	押谷 仁	医学系研究科	教 授
12 水泳部	北村 勝朗	教育情報学研究部	教 授
13 漕艇部	石井 誠一	医学系研究科	准教授
14 ヨット部	田中 真美	医工学研究科	教 授
15 スケート部	永富 良一	医工学研究科	教 授
16 乗馬部	工藤 昭彦	高度教養教育機構	総長特命教授
17 バドミントン部	玉川 明朗	医学系研究科	准教授
18 柔道部	村本 光二	生命科学研究科	教 授
19 スキー部	日出間 純	生命科学研究科	准教授
20 ハンドボール部	風間 基樹	工学研究科	教 授
21 航空部	伊藤 高敏	流体科学研究所	教 授
22 剣道部	福土 審	医学系研究科	教 授
23 弓道部	笹野 泰之	歯学研究科	教 授
24 空手道部	大滝 精一	経済学研究科	教 授
25 自動車部	田中 秀治	工学研究科	教 授
26 ワンダーフォーゲル部	植松 康	工学研究科	教 授
27 ゴルフ部	西澤 松彦	工学研究科	教 授
28 合気道部	珠玖 仁	環境科学研究科	准教授
29 フェンシング部	佐藤 明	医学系研究科	准教授
30 応援団	八重樫伸生	医学系研究科	教 授
31 サイクリング部	中井 裕	農学研究科	教 授
32 ボディビル部	宮腰 英一	教育学研究科	教 授
33 少林寺拳法部	米山 裕	農学研究科	准教授
34 体操部	綿村 哲	理学研究科	准教授
35 アメリカンフットボール部	池尾 恭一	教育学研究科	准教授
36 オリエンテーリング部	窪 俊一	情報科学研究科	准教授
37 競技舞蹈部	福山 博之	多元物質科学研究所	教 授
38 アーチェリー部	中山 亨	工学研究科	教 授
39 トライアスロン部	宗政 昭弘	情報科学研究科	教 授
40 男子ラクロス部 女子ラクロス部	吉岡 敏明	環境科学研究科	教 授
41 アイススケート部	中里 信和	医学系研究科	教 授
42 レーシングカート部	中村 智樹	理学研究科	教 授
43 極真カラテ部	石井 圭一	農学研究科	准教授
44 相撲部	阿部 宏	文学研究科	教 授
45 ソフトボール部	徳山 豪	情報科学研究科	教 授
46 中国武術部	佐竹 保子	文学研究科	教 授
47 防具空手道部	佐藤 岳彦	流体科学研究所	教 授
48 人力飛行部	大林 茂	流体科学研究所	教 授
49 フットサル部	堀井 明	医学系研究科	教 授

■ 平成25年度収入・支出予算

収入予算総額



支出予算総額



■ 研究費等受入状況

(平成25年度)

科学研究費助成事業交付実績

研究種目	採択件数 (件)	交付額 (千円)		
		直接経費	間接経費	計
特別推進研究	8	649,900	190,350	840,250
新学術領域研究	145	1,279,660	368,745	1,648,405
基盤研究 (S・A・B・C) ※	1,248	4,548,330	1,364,145	5,912,475
挑戦的萌芽研究 ※	478	612,600	183,780	796,380
若手研究 (S・A・B) ※	594	1,052,800	315,840	1,368,640
研究活動スタート支援	63	65,500	19,650	85,150
奨励研究	12	7,000	—	7,000
研究成果公開促進費 (学術図書・データベース)	9	21,900	—	21,900
特別研究員奨励費	381	341,542	—	341,542
計	2,938	8,579,232	2,442,510	11,021,742

※基金、一部基金分を含む



加齢医学研究所



理学研究科

研究費等受入状況

寄附金・受託研究等契約実績

区分		件数 (件)	受入金額 (千円)
寄附金		3,240	3,707,109
受託研究等経費	民間等との共同研究	897	4,126,669
	一般	345	2,670,840
	競争的資金	316	6,545,495
	小計	661	9,216,335
	小計	1,558	13,343,004
学術指導		169	108,362
計		4,967	17,158,475

その他補助金交付実績

経 費	採択件数 (件)	交付額 (千円)		
		直接経費	間接経費	計
厚生労働科学研究費補助金	47	1,541,783	422,731	1,964,514
先端研究助成基金助成金 (最先端・次世代研究開発支援プログラム)	26	744,215	223,265	967,480
先端研究助成基金助成金 (最先端研究開発支援プログラム)	2	1,092,260	114,258	1,206,518
大学改革推進等補助金	8	423,319	0	423,319
環境研究総合推進費補助金	3	31,853	8,800	40,653
研究開発施設共用等促進費補助金	9	726,581	0	726,581
産業技術研究助成制度	3	7,530	2,259	9,789
先端技術実証・評価設備整備費等補助金	3	85,950	0	85,950
先導的創造科学技術開発費補助金	4	280,253	0	280,253
先導的産業技術創出事業費助成金	4	52,500	15,750	68,250
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	2	537,132	0	537,132
科学技術人材育成費補助金	3	160,490	0	160,490
環境技術等研究開発推進事業費補助金	2	990,018	0	990,018
東日本大震災復興地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	2	725,476	0	725,476
素材技術研究開発拠点形成事業費補助金	1	1,339,571	0	1,339,571
国際研究拠点形成促進事業費補助金	1	1,334,400	0	1,334,400
情報知能システム研究センター支援補助金	1	32,002	0	32,002
加速器科学総合支援事業	1	20,000	0	20,000
建設技術研究開発助成制度	1	9,700	2,910	12,610
研究大学強化促進費補助金	1	400,000	0	400,000
卓越した大学院拠点形成支援補助金	13	788,090	0	788,090
計	137	11,323,123	789,973	12,113,096

(平成26年4月1日現在)

(単位：㎡)

地区名／面積			土 地			建 物		
			所 有	借 入	計	所 有	借 入	計
宮城県	仙 台 市	片 平 地 区	229,582	31	229,613	186,158	—	186,158
		米ヶ袋地区	3,231	—	3,231	512	—	512
		川内・青葉山地区	2,582,709	15,890	2,598,599	433,849	360	434,209
		星 陵 地 区	179,155	59	179,214	307,176	—	307,176
		雨 宮 地 区	92,746	—	92,746	30,847	—	30,847
		三 条 地 区	52,911	—	52,911	26,107	—	26,107
		富 沢 地 区	113,877	—	113,877	8,552	—	8,552
		評定河原地区	18,668	—	18,668	781	—	781
		東仙台地区	3,464	—	3,464	2,026	—	2,026
		郷 六 地 区	—	399	399	26	—	26
		南吉成地区	—	3,287	3,287	2,509	—	2,509
		秋 保 地 区	—	4	4	—	20	20
		北中山地区	—	58	58	—	—	—
		芋 沢 地 区	—	30	30	—	—	—
		仙台市内各所 (地震観測点)	—	—	—	—	3	3
		学 生 寄 宿 舎	32,315	—	32,315	23,372	—	23,372
		職 員 宿 舎	80,834	—	80,834	42,708	—	42,708
		小 計	3,389,492	19,758	3,409,250	1,064,623	383	1,065,006
	仙台市外	蔵 王 地 区	—	30,330	30,330	399	9	408
		七ヶ浜地区	—	528	528	343	3	346
		女川・牡鹿地区	23,463	43,338	66,801	1,922	—	1,922
		鹿島台地区	10,077	—	10,077	270	1	271
		鳴子・川渡地区	18,541,862	1,578	18,543,440	18,661	—	18,661
		名 取 地 区	1,863	454	2,317	1,029	—	1,029
		岩 沼 地 区	—	812	812	—	533	533
		釜 房 地 区	—	3,444	3,444	691	763	1,454
		小牛田地区	—	1,038	1,038	19	—	19
		気仙沼地区	—	112	112	—	391	391
		米 山 地 区	—	1,600	1,600	101	—	101
		若 柳 地 区	—	100	100	12	—	12
		その他の地区	—	961	961	—	5,878	5,878
		職 員 宿 舎	5,411	3	5,414	602	—	602
		小 計	18,582,676	84,298	18,666,974	24,049	7,578	31,627
	計		21,972,168	104,056	22,076,224	1,088,672	7,961	1,096,633

(平成26年4月1日現在)

(単位: m²)

地区名／面積		土 地			建 物		
		所 有	借 入	計	所 有	借 入	計
宮城県外	青 森 県	28,506	77,010	105,516	2,658	441	3,099
	秋 田 県	1,049	6,830	7,879	627	—	627
	山 形 県	—	1,583	1,583	298	11	309
	岩 手 県	10,012	16,056	26,068	873	13	886
	福 島 県	990	25,879	26,869	154	15	169
	新 潟 県	—	315	315	6	4	10
	東 京 都	—	—	—	—	418	418
	埼 玉 県	660	1	661	739	—	739
	茨 城 県	4,541	12,161	16,702	5,787	—	5,787
	栃 木 県	—	695	695	70	—	70
	岐 阜 県	—	698	698	424	—	424
	福 井 県	—	107	107	—	—	—
	兵 庫 県	—	—	—	—	287	287
	宮 崎 県	—	—	—	20	—	20
	計	45,758	141,335	187,093	11,656	1,189	12,845
合計		22,017,926	245,391	22,263,317	1,100,328	9,150	1,109,478



環境科学研究科 エコラボ

災害復興新生研究機構

東北大学災害復興新生研究機構は、東日本大震災からの復興に寄与する研究・教育・社会貢献等に全学を挙げて取り組み、その成果を社会に発信・実践するため、震災直後の平成23年4月に設置された組織です。東北大学は、被災地域の中心にある総合大学として、復興に全力を傾けていく歴史的使命があります。行政・地域との連携をはかりながら、東北復興・日本新生の先導を目指して、8つのプロジェクトと復興アクション100⁺を展開しています。

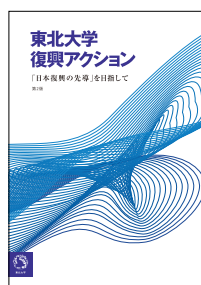
災害復興新生研究機構 8つのプロジェクト

プロジェクトリーダー	内 容
災害科学国際研究推進プロジェクト 今村 文彦 教授	世界的災害科学研究の拠点である災害科学国際研究所 (IRiDeS) は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、災害に強い社会を構築するための調査研究と社会貢献活動を展開しています。従来の災害研究を発展させた、巨大地震・津波の発生メカニズムの解明のほか、災害後の生活再建や災害教訓の語り継ぎなど、文系・理系の垣根を越えた「実践的防災学」研究に取り組んでいます。
地域医療再構築プロジェクト 張替 秀郎 教授 山本 雅之 教授	総合地域医療研修センターは、東日本大震災で被災した医療従事者を受け入れ、先端医療に携わる機会を提供することにより、地域医療を担う人材の育成と生涯教育に貢献しています。また、東北メディカル・メガバンク機構では、被災地住民の長期健康調査を行うとともに、同意のもとで収集された医療情報をデータベース化し、ゲノム医療や創薬研究に向けた基盤形成を目指しています。
環境エネルギープロジェクト 田路 和幸 教授	東日本大震災の被災地の復興と我が国のエネルギー問題克服のため、東北大学が中心となり、参画する大学と被災自治体がコンソーシアムを組んで、「東北復興次世代エネルギー研究開発プロジェクト」に取り組んでいます。地域の風土・特性に合った次世代エネルギー、エネルギー管理システムの構築を目指しています。
情報通信再構築プロジェクト 中沢 正隆 教授	東日本大震災では、通信回線の途絶、情報収集不能、発信情報の不足など情報通信 (ICT) の課題が明らかになりました。電気通信研究機構は、独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) と連携し、災害に強い情報通信ネットワークの開発・実証拠点を形成します。
東北マリンサイエンスプロジェクト 木島 明博 教授	地震・津波が東北沿岸域の海洋環境・海洋生態系に与えた影響と回復過程を科学的に明らかにし、東北の海の復興に貢献することを目指しています。東北大学、東京大学大気海洋研究所、独立行政法人海洋研究開発機構が中心となり、全国の研究者の参画と、漁業関係者等の協力を得て調査研究に取り組んでいます。
放射性物質汚染対策プロジェクト 石井 慶造 教授 福本 学 教授	生活環境早期復旧技術研究センターは、土壌の除染や汚染検査技術の開発など、放射性物質によって汚染された生活環境の復旧技術の開発を推進しています。また、被災動物の包括的線量評価事業では、原子力事故に関連して殺処分された家畜や野生動物における放射性物質の体内分布の調査とアーカイブの構築を行っています。
地域産業復興支援プロジェクト 藤本 雅彦 教授	復興の状況と課題を明らかにし、将来的な東北地方の社会・経済のあるべき姿を提言するための「地域産業復興調査研究プロジェクト」、および地元企業の経営人材の育成と革新的な事業化を支援するための「地域イノベーションプロデューサー塾」を通して、東北地方の産業・社会の復興を支援しています。
復興産学連携推進プロジェクト 進藤 秀夫 理事	被災地の経済復興の基本となる産業基盤の革新・強化のためには、産・学・官の連携が欠かせません。宮城県の産業界や自治体との連携をより強くし、文部科学省、経済産業省等の復興施策を十分に活用しながら、大学がもつ技術シーズを被災地企業において活用・実用化することにより、復興に貢献します。

復興アクション100⁺

復興アクション100⁺は、東北大学教職員が自発的に取り組む100以上の復興支援プロジェクトです。災害復興新生研究機構では、それらのプロジェクトの情報集約・活動支援を行っています。

災害復興新生研究機構は、パンフレットの発行やウェブサイトを通して、復興への東北大学の取り組み状況とその成果を学内外に発信しています。



パンフレット



災害復興新生研究機構ウェブサイト



平成26年3月 災害復興新生研究機構シンポジウムを開催しました

世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)

原子分子材料科学高等研究機構 (AIMR)

原子分子材料科学高等研究機構 (Advanced Institute for Materials Research = AIMR) は、文部科学省が平成19年度に開始した「世界トップレベル研究拠点プログラム (World Premier International Research Center Initiative = WPI)」に採択され設立された全国9拠点の1つです。東北大学の強みを活かし、材料科学、物理学、化学、工学、数学の第一線で活躍する研究者が世界中から集まり、最先端の科学技術に基づいた実験研究・理論研究によって、機能発現の機構を解明し、新物質・新材料の創製、デバイス開発を行います。4つの材料研究グループと数学ユニット、インターフェースユニットの連携により、従来の材料科学に数学的視点を導入し、予見に基づく材料創製を可能とする新学理構築を目指す、他に例を見ない、まったく新しいタイプの材料科学研究所となっています。世界の材料科学研究を先導する拠点として、材料科学の新たな学理と革新的機能材料を創出し、持続可能社会の形成に貢献します。

バルク金属ガラス (BMG)

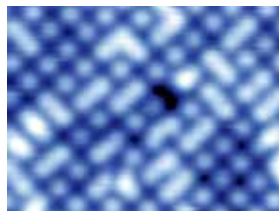
優れた物理的、化学的、機械的性質を示す先端非平衡金属材料、例えば、アモルファス、準結晶、ナノ結晶金属合金を研究対象としています。

材料物理

実際に役立つ電子デバイスや機能デバイスを創製するために有用な基礎物理を追究しています。



過冷却された合金をガスアトマイズ法で粉砕することによりアモルファス合金ナノファイバーの大量生産に成功



走査トンネル顕微鏡による金属酸化物薄膜(チタン酸ストロンチウム薄膜)の原子レベル構造観察

ソフトマテリアル

有機・無機電子デバイス、ジェル、高分子コンポジット、メソ細孔高分子フィルム、ナノ構造材料触媒のようなソフトマテリアルの作製、物性評価を行っています。

デバイス・システム

主にスピントロニクス、エレクトロニクス、マイクロ・エレクトロ・メカニカル・システムズ (MEMS) 材料およびバイオソフト材料を研究するグループから成り、各グループは革新的な材料の創製からデバイス化に至る研究を行っています。

数学ユニット

数学ユニットは、抽象化・普遍化の観点を与え、物理学、化学、材料科学、バイオ工学、電子・機械工学の研究者とともに、材料の階層構造を解き明かすことで、材料科学の新たな学理の創出を目指します。

インターフェースユニット

数学-材料科学連携を促進するために設置された理論物理学・化学、応用数学の若手独立研究者からなるグループです。数学と材料科学をつなぐインターフェースとしての役割を果たしつつ、新学理創出を目指した独自研究を展開しています。

卓越した大学院拠点形成支援補助金

卓越した大学院拠点形成支援補助金は、文部科学省の事業で、優れた研究基盤を活かし高度な教育と研究を融合する卓越した拠点を有する大学に対し、博士課程の学生が学修研究に専念する環境を整備するために必要な経費を支援し、もって優秀な学生を惹きつけ、世界で活躍できる研究者を輩出する環境づくりを推進することを目的としています。

平成25年度

拠点名	参画専攻
材料インテグレーション国際教育研究拠点	工学研究科材料システム工学専攻、工学研究科知能デバイス材料科学専攻、工学研究科金属フロンティア工学専攻、工学研究科応用物理学専攻、理学研究科物理学専攻、環境科学研究科環境科学専攻
分子系高次構造体化学国際教育研究拠点	理学研究科化学専攻、工学研究科応用化学専攻、工学研究科バイオ工学専攻、工学研究科化学工学専攻、工学研究科応用物理学専攻、薬学研究科分子薬科学専攻、農学研究科生物産業創成科学専攻、生命科学研究所分子生命科学専攻、環境科学研究科環境科学専攻
情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点	工学研究科通信工学専攻、工学研究科電子工学専攻、情報科学研究科情報基礎科学専攻、情報科学研究科システム情報科学専攻、情報科学研究科応用情報科学専攻
新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点	医工学研究科医工学専攻、工学研究科バイオロボティクス専攻、工学研究科電子工学専攻、医学系研究科医科学専攻
原子分子材料科学高等研究機構	理学研究科物理学専攻、理学研究科数学専攻、理学研究科化学専攻、工学研究科ナノメカニクス専攻、工学研究科電子工学専攻、工学研究科応用化学専攻、工学研究科化学工学専攻、工学研究科バイオ工学専攻、工学研究科知能デバイス材料科学専攻、環境科学研究科環境科学専攻
工学研究科知能デバイス材料科学専攻	工学研究科知能デバイス材料科学専攻
Network Medicine 創生拠点	医学系研究科医科学専攻
物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開	理学研究科数学専攻、理学研究科物理学専攻、理学研究科天文学専攻、文学研究科文化科学専攻
変動地球惑星学の統合教育研究拠点	理学研究科地学専攻、理学研究科地球物理学専攻、環境科学研究科環境科学専攻、工学研究科土木工学専攻
環境激変への生態系適応に向けた教育研究	生命科学研究所生態システム生命科学専攻、生命科学研究所生命機能科学専攻、農学研究科資源生物科学専攻、農学研究科応用生命科学専攻、工学研究科土木工学専攻、経済学研究科経済経営学専攻、薬学研究科生命薬学専攻
流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点	工学研究科機械システムデザイン工学専攻、工学研究科ナノメカニクス専攻、工学研究科航空宇宙工学専攻、工学研究科量子エネルギー工学専攻、工学研究科化学工学専攻、工学研究科バイオロボティクス専攻、情報科学研究科情報基礎科学専攻、情報科学研究科システム情報科学専攻、環境科学研究科環境科学専攻、医工学研究科医工学専攻
グローバル時代の男女共同参画と多文化共生	法学研究科法政理論研究専攻、文学研究科言語科学専攻、経済学研究科経済経営学専攻
生命科学研究所生命機能科学専攻	生命科学研究所生命機能科学専攻

● 事業の目的

本事業は、企業や大学だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現するとともに、革新的なイノベーションを創出するイノベーションプラットフォームを我が国に整備することを目的として、平成25年度から文部科学省及び独立行政法人科学技術振興機構からの支援により実施されている事業です。

今後国際的な競争の中で生き残り、経済再生を果たしていくためには、革新的なイノベーションを連続的に生み出していくことが必要であり、現在潜在している将来社会のニーズから導き出されるあるべき社会の姿、暮らしのあり方(以下「ビジョン」という。)を設定し、このビジョンを基に10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定した上で、既存分野・組織の壁を取り払い、基礎研究段階から実用化を目指した産学連携による研究開発を行います。

本学は、株式会社東芝様及び日本光電工業株式会社様と共同で拠点構想の提案を行い、サテライト拠点である新潟大学様、東北学院大学様、早稲田大学様と協同でビジョンの達成に向けた研究開発活動等を行います。

● 拠点の目的

本拠点では、超小型高性能で安全な、お米、箸、茶碗及び絆創膏タイプのセンサを開発し、日常生活の中から行動や心身の情報をさりげなく収集することによって、常に自分や家族の生活様や健康状態がわかり、周囲が見守り支援することにより「強い絆」を構築することを通じて、不安のない安寧な、生きがいにあふれた社会を創ります。

本学が世界で高く評価されるMEMS (Micro Electro Mechanical Systems)・エレクトロニクス・通信・エネルギー・素材・医療技術分野の先端研究を一つに結集して、新たなライフ分野での革新的な社会実装に向けて取り組みます。



● 実現の鍵となる研究開発テーマ

- 日常生活から常に体調や環境などのデータをさりげなく収集する先進的なセンサ技術(自立型超低電力・バイオスピントロニクス・MEMS)
- 個人の膨大な健康情報を一元管理して個人の健康に活用したり、セキュリティ下で二次利用することを通じ健康に限らず、広く社会の利便性向上や種々の課題解決に役立つ新産業創出を加速化する技術(プライベートクラウドPHR)
- 個人のゲノム情報による体質やセンサによって得られたデータから健康的なライフスタイルを「見える化」して提案したり、離れた家族を間近で見守る高度な手法(週刊元気予報)



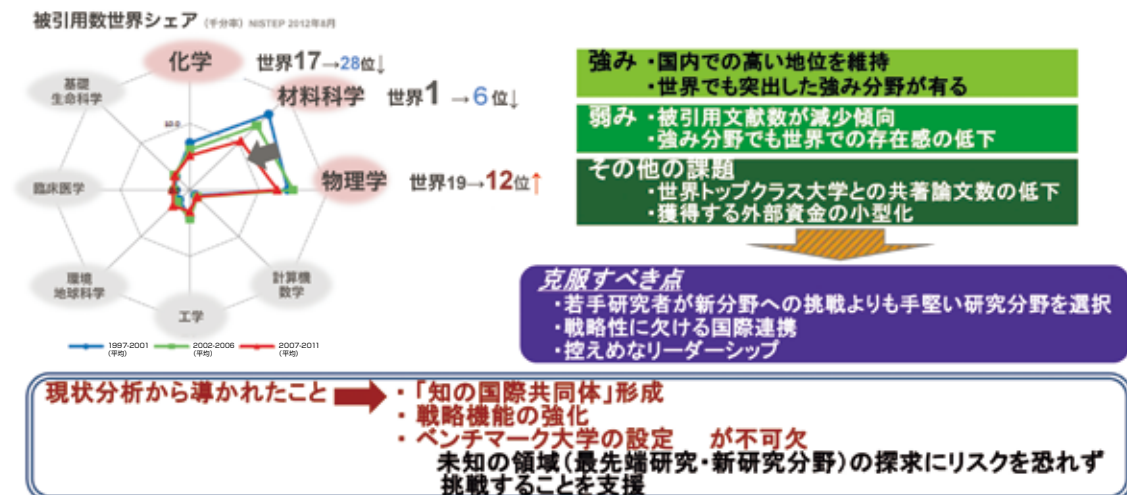
研究大学強化促進事業

● 事業の目的

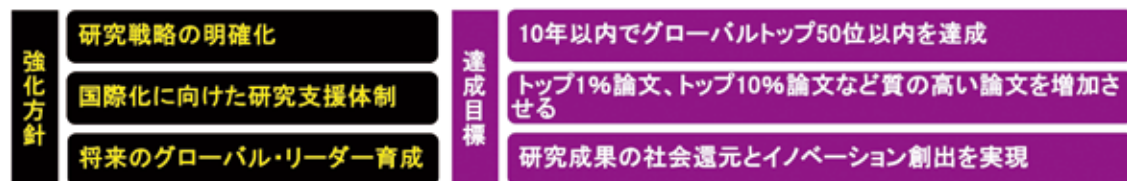
事業実施期間：平成25年度～平成34年度

本事業は、大学等全体の学術研究機能に着目し、大学等が、自らの研究活動の状況分析を踏まえ、研究戦略や知財管理等を担う研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーターを含む。）群の確保・活用や、競争力のある研究の加速化促進、先駆的な研究分野の創出、国際水準の研究環境の整備などの集中的な研究環境改革を効果的に組み合わせた取組を実施することを支援することにより、各大学等における研究力強化を促進し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強に資することを目的としています。

研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析



方針・目標



● 実現の鍵となる研究開発テーマ

- ◆研究推進本部に設置されているリサーチ・アドミニストレーションセンターを充実し、世界の研究・社会動向と本学の研究力を解析し、研究戦略を“見える化”によって立案支援し、ベンチマーク大学や研究機関・研究者を選定し、それらの大学等からの訪問・滞在研究者を増加させる。
- ◆人類社会の共通課題解決に貢献し、東北大学発の先駆的研究領域を開発するため、訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」を設置する。
- ◆「海外リサーチ・ステーション」を置き、将来のグローバル・リーダーとなる若手研究者を中長期海外の研究機関に滞在させ、そこで生まれたアイデアを熟成するための国際共同研究・国際共同プロジェクトを格段に増加させる。
- ◆訪問滞在研究者が円滑に定着するための支援を行う「リサーチ・レセプションセンター」や「国際対応事務部門」などの受入れ体制を整備し、リサーチ・レセプションセンターを核に東北大学の事務国際化を加速する。

本事業により取り組む研究環境改革の取組

戦略的国際頭脳連携の場「知のフォーラム」による研究力強化



大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

東北大学では、文部科学省「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」の補助を受け、大学国際化推進プログラム“Future Global Leadership (FGL) Program”を展開し、優秀な留学生の受け入れの拡充のために、新たなプログラムの開発や受入れ環境整備に取り組んでいます。英語による講義や研究指導等を通じて学位が取得できるコースを毎年増設しており、中でも学部レベルでは工学、理学及び農学の分野から3コースを展開し、様々な国籍の学生が勉学に励んでいます。平成24年には、FGL Program 構想時に予定していた16コースが全て開講しました。今後も国際的に活躍する人材の養成を目指し、開設した各コースの内容の発展及び受入れ体制の充実等、教育研究の国際化に向けた環境作りを遂行し続けます。

英語コース

M= 修士コース、D= 博士コース

	コース名	設置学部・研究科	開設年月
学部	先端物質科学コース	理学部	2011年10月
	国際機械工学コース	工学部	2011年10月
	国際海洋生物科学コース	農学部	2011年10月
大学院（開設順）	学際先端工学特別コース	工学研究科、情報科学研究科、環境科学研究科（後期）	2001年10月
	先端理学国際コース	理学研究科（前期・後期）	2004年10月
	ヒューマン・セキュリティ国際教育プログラム	医学系研究科、環境科学研究科、農学研究科、国際文化研究科（前期・後期）	2005年 4月
	サステナブル環境学国際コース	環境科学研究科（前期・後期）	2009年10月
	経済学・経営学国際コース／高度グローバル人材コース	経済学研究科（前期・後期）	2010年10月
	国際機械工学修士・博士コース	工学研究科（前期・後期）	2010年10月
	国際材料科学修士コース	工学研究科（前期）	2010年10月
	生命科学国際コース	生命科学研究科（前期・後期）	2011年 4月
	インフォメーションテクノロジーアンドサイエンスコース	情報科学研究科（前期）	2011年 4月
	インターフェイス口腔健康科学	歯学研究科（後期）	2011年10月
	言語総合科学コース	国際文化研究科（前期）	2011年10月
	基礎医学コース	医学系研究科（前期）	2012年10月
	ネットワークメディスンコース	医学系研究科（後期）	2012年10月



国際学士コース自然科学実験の様子



国際学士コース入学オリエンテーション

教育

文部科学省が行っている「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」の各プログラム等に、本学での以下の取組が採択されています。

博士課程教育リーディングプログラム

優秀な学生を広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成24年度～平成30年度	工学研究科、理学研究科、文学研究科、災害科学国際研究所等 12部局	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	東日本大震災に代表されるグローバルデザスターから人命・社会・産業を守ることに貢献できるグローバル安全学リーダーをアカデミアのみならず、世界的企業や国際機関などの多様な分野に輩出することを目指します。
平成25年度～平成31年度	工学研究科、理学研究科等 10部局	マルチディメンション物質理工学リーダー養成プログラム	多角的な視点や手法で物質・材料を理解し、新しい物質デザイン思想を現実化するだけの広く確かな基礎知識と幅の広い研究経験を有する物質リーダーとして、主に産業界で即戦力として活躍できる人材育成を目指します。

大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業

被災地域のコミュニティの再構築、地域産業の再生及び医療再生等を行いつつ、復興の担い手を養成することを目的として、大学等の地域復興センター的機能の整備を支援するものです。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成23年度～平成27年度	医学系研究科	総合地域医療研修センター支援プロジェクト	被災地の医療人の受入れと再教育、災害医療に対応できる学生・若手医療人の教育を行うことにより、被災地の地域医療の復興に貢献することを目的としています。

未来医療研究人材養成拠点形成事業

急速に進展する高齢化等に伴う医療課題の解決に貢献し、国内外の医学・医療の発展を強力に推進するため、新規性・独創性の高い特色ある取組を支援します。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成25年度～平成29年度	病院	コンダクター型総合診療医の養成	従来、大学病院と地域病院とでそれぞれ独立に行われてきた先端臨床医学教育、実践的総合診療トレーニング、医療マネジメント学習を大学病院と地域病院とが一体で実施し、地域医療に従事しながら医療スキル、医師・研究者キャリアアップを可能にします。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師等、がんに特化した医療人養成の取組を支援します。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成24年度～平成28年度	医学系研究科	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン	がん医療に必要な学識と技能や国際的レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、地域、多職種（医療チーム）、患者会が連携して在宅医療や緩和ケアを含めた地域のがん医療とがん研究を推進するための広域かつ包括的教育プログラムを提供します。

基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成

医学部及び医学系大学院において、魅力ある基礎研究医養成プログラムを構築する優れた取組を支援します。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成24年度～平成28年度	医学部	世界で競い合うMD研究者育成プログラム	研究教育の実績と学内ニーズ・アセスメントに基づいて、医学科学生の研究者へのキャリア形成を促進する実効性の高いコースを新設し、我が国の将来の医学・医療の発展を担い、世界で競い合うMD研究者を育成します。

理数学生育成支援プログラム（旧理数学生育成支援事業）

理数分野に関して高い学習意欲を持つ学生の意欲・能力をさらに伸ばすため、「各年次を通じた体系的な特別教育プログラムの実施」、「参加学生の選抜」、「大学院等の連携・接続の強化」のすべての要素を含む取組を支援します。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成24年度～平成27年度	工学部	Step-QI スクール	「基盤」「展開」「発展」の3コースを設定し、これを段階的に履修する制度を設け、個々の学生のレベルや授業履修状況にあわせた段階的な特別教育、先行履修、自主研修を実施します。

※平成25年度より文部科学省から独立行政法人科学技術振興機構へ移管して実施

本学でも独自に以下の取り組みを行っています。

特色ある教育への取り組み

実践的英語能力をさらに高めることを目的に、学部学生及び大学院学生を対象とした課外授業を実施しています。また、平成25年度より東北大学グローバルリーダー育成プログラムの一つとなり、このコースに参加し修了することでTGLポイントを取得できます。

実施年度	実施部局	プログラム名称	内 容
平成17年度～	高度教養教育・学生支援機構	プラクティカル・イングリッシュコース	ネイティブスピーカーを講師とし、ディスカッションやプレゼンテーションを中心に実践の場で必要とされる英語能力取得を目指します。

■ 寄附講座・寄附研究部門

寄附講座・寄附研究部門は、企業などからの寄附金によって、大学における教育・研究の豊富化、活性化を図ることを目的として、「寄附講座」(大学院研究科・専攻に置く場合)又は「寄附研究部門」(附置研究所などに置く場合)を設置し、運営する制度です。

(平成26年5月1日現在)

寄附講座

設置年度	部局名	名 称	設置期間
平成26年度(継続)	医学系研究科	先進感染症予防学	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(継続)	医学系研究科	宮城地域医療支援	平成26年4月1日～平成28年3月31日
平成26年度(継続)	医学系研究科	小児科医師育成	平成26年4月1日～平成28年3月31日
平成26年度(継続)	医学系研究科	先端画像・ナノ医科学	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(継続)	医学系研究科	上肢運動器学	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(継続)	環境科学研究科	環境物質制御学(DOWA ホールディングス)	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(設置部局変更)	歯学研究科	次世代歯科材料工学	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(設置部局変更)	工学研究科	糖尿病制御工学	平成26年4月1日～平成30年3月31日
平成25年度	医学系研究科	災害交通医療情報学	平成25年12月1日～平成28年3月31日
平成25年度(更新)	農学研究科	家畜福祉学	平成25年10月1日～平成27年3月31日
平成25年度	医学系研究科	乳癌画像診断学	平成25年7月1日～平成28年3月31日
平成25年度	環境科学研究科	廃棄物資源循環複合新領域研究(仙台環境開発)	平成25年7月1日～平成28年6月30日
平成25年度(継続)	医学系研究科	多発性硬化症治療学	平成25年5月1日～平成28年4月30日
平成25年度(継続)	医学系研究科	血液分子治療学	平成25年4月1日～平成28年3月31日
平成25年度(継続)	医学系研究科	大動脈疾患治療開発学	平成25年4月1日～平成28年3月31日
平成25年度(継続)	薬学研究科	医薬開発構想	平成25年4月1日～平成30年3月31日
平成24年度(継続)	医学系研究科	循環器先端医療開発学	平成24年10月1日～平成29年9月30日
平成24年度(継続)	医学系研究科	統合癌治療外科学	平成24年10月1日～平成27年9月30日
平成24年度(継続)	医学系研究科	循環器 EBM 開発学	平成24年10月1日～平成29年9月30日
平成24年度	文学研究科	実践宗教学	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度	医学系研究科	統合腎不全医療	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度	医学系研究科	網膜疾患制御学	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度(継続)	医学系研究科	視覚先端医療学	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度(継続)	医学系研究科	中心血圧研究	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度(継続)	医学系研究科	創薬科学(持田製薬)	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度(継続)	工学研究科	先端電力工学(東北電力)	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度(継続)	工学研究科	環境機能利用工学(三菱マテリアル)	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成23年度	医学系研究科	予防精神医学	平成23年10月1日～平成26年9月30日
平成23年度	歯学研究科	生体適合性計測工学	平成23年4月1日～平成28年3月31日

寄附研究部門

設置年度	部局名	名 称	設置期間
平成26年度(設置部局変更)	加齢医学研究所	ニューロ・イメージング研究(住友電工)	平成26年5月1日～平成29年3月31日
平成26年度(継続)	加齢医学研究所	抗感染症薬開発	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(継続)	加齢医学研究所	認知機能発達(公文教育研究会)	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成26年度(設置部局変更)	大学院病院	造血管病理学	平成26年4月1日～平成28年3月31日
平成26年度(設置部局変更)	サイクロンラジオアイソトープセンター	高齢者高次脳医学	平成26年4月1日～平成29年3月31日
平成25年度(継続)	加齢医学研究所	加齢ゲノム制御プロテオーム(DNA 修復)	平成25年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度	東北アジア研究センター	上廣歴史資料学	平成24年4月1日～平成29年3月31日
平成24年度	災害科学国際研究所	地震津波リスク評価(東京海上日動)	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成24年度(継続)	工学研究科	電力エネルギー未来技術(東北電力)	平成24年4月1日～平成27年3月31日
平成23年度	加齢医学研究所	高齢者薬物治療開発	平成23年7月1日～平成26年6月30日

■ 共同研究講座・共同研究部門

共同研究講座・共同研究部門は、企業などから資金の他に研究者などを受け入れて、大学教員と目的を共有し、研究成果の実用化などを見据えた共同研究を促進することを目的として、「共同研究講座」(大学院研究科・専攻に置く場合)又は「共同研究部門」(附置研究所などに置く場合)を設置し、運営する制度です。

(平成26年5月1日現在)

共同研究講座

設置年度	部局名	名 称	設置期間
平成26年度	工学研究科	先進鉄鋼材料組織制御(JFE スチール)	平成26年4月1日～平成29年3月31日

共同研究部門

設置年度	部局名	名 称	設置期間
平成26年度	多元物質科学研究所	ナノ流体エンジニアリング	平成26年4月1日～平成28年3月31日
平成26年度	原子分子材料科学高等研究機構	産学連携共同研究部門日立製作所次世代革新電池研究室	平成26年4月1日～平成28年3月31日
平成25年度	原子分子材料科学高等研究機構	産学連携共同研究部門 デンソー MEMS 研究室	平成25年10月1日～平成27年9月30日

産学連携

産学官連携ポリシー

東北大学は、建学以来、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」の理念を掲げ、世界トップレベルの研究・教育を創造してきました。また、研究成果は社会の直面する諸課題の解決に応えるとともに、社会の指導的人材を育成することで、人類社会の平和と繁栄に貢献してきました。東北大学は100年の歴史の中で継承してきた知の蓄積と、次の100年に向けて、絶えざる研究・教育の創造を通じ、人類社会に貢献する「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指しています。

また、東北大学は「世界と地域に開かれた大学」の方針の下、大学の人的・知的資源及び総合力と地域や国際社会との連携により、人類社会全体の発展に貢献します。その一つであります産学官連携は、教育・研究に次ぐ大学の第3の使命である社会貢献の中核を成し、知の成果の社会還元を果たす要素として重要であり、大学として、以下の産学官連携ポリシーに基づき、積極的に取り組みます。

1. 建学以来の「実学尊重」の伝統と実践を礎に、学術成果を広く社会に還元すべく、産業界への技術移転を推進し、本学における教育と研究の社会的付加価値を高めます。
2. 国際的な産学官連携においては、技術移転や共同研究等に止まらず、世界をリードする技術革新を導く研究を推進します。
3. 地域が抱える諸課題の解決に向けた持続的な産学官連携を進め、地域イノベーションの原動力となることを目指し、我が国の経済・社会の発展に貢献します。
4. 大学に産学官連携を推進するための組織をおき、学内リソースの結集と国内外関係機関との連携により、国際的な視点に立って産学官連携活動を進めます。
5. 産学官連携を推進するにあたり、透明性を確保し、国内外の法令や国際間の条約等を遵守するなどの社会的説明責任を果たすことを基本とします。

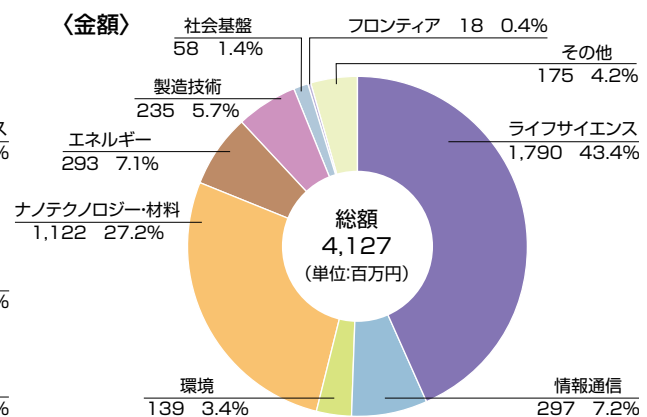
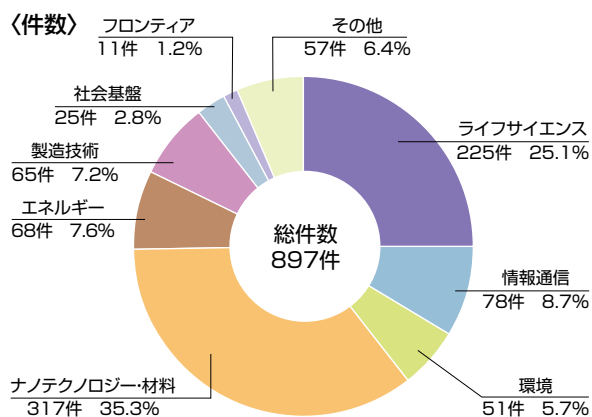
民間等との共同研究実施状況の推移

年度	受入件数(件)	受入金額(単位:百万円)
平成15年度	284	1,129
平成16年度	392	1,675
平成17年度	479	1,827
平成18年度	519	2,028
平成19年度	698	2,086
平成20年度	786	2,459
平成21年度	837	2,692
平成22年度	854	2,956
平成23年度	862	2,840
平成24年度	831	3,084
平成25年度	897	4,127

受託研究の受入状況の推移

年度	受入件数(件)	受入金額(単位:百万円)
平成15年度	373	3,450
平成16年度	456	6,149
平成17年度	483	7,358
平成18年度	591	7,927
平成19年度	554	9,101
平成20年度	596	9,131
平成21年度	611	9,563
平成22年度	589	10,008
平成23年度	742	11,397
平成24年度	666	9,587
平成25年度	661	9,216

平成25年度 民間等との共同研究実施状況



※文部科学省産学連携等実施状況調査による区分

産学連携

組織的連携

本学では、研究開発、人材育成、地域社会への責任、など相互の協力が可能な全ての分野において、大学全体として民間企業等と組織的連携を行い、具体的な協力を有機的に推進しています。

協定締結日	民間企業等名称	目 的
平成18年1月19日	(株)日立製作所	電気、情報、材料、機械分野における共同研究や相互交流を目指す。
平成18年1月31日 平成26年2月20日改訂	産業技術総合研究所	環境、材料、情報通信、エレクトロニクス分野等における共同研究を目指す。平成26年2月に東日本大震災からの復興・再生を目指した産学官連携・協力に関して、改訂及び下部協定を締結。
平成18年2月21日	放射線医学総合研究所	PET（陽電子断層撮像法）を利用した分子イメージング研究の高度専門人材育成を目指す。
平成18年7月27日	セイコーエプソン（株）	共同研究の推進、研究者の相互交流、教育及び人材の育成、留学生への奨学金支援業務及び国際交流助成を目指す。
平成18年12月26日 平成23年12月26日	(株)河北新報	共同研究・調査、イベント共催・協力、人材育成などの面での協力を軸に、教育・研究機能と、報道・情報発信機能を連携させることを目指す。
平成19年1月31日	(株)七十七銀行	東北大学発ベンチャー企業に関する情報交換・支援、東北大学シーズと地域企業とのマッチングコーディネート、技術相談、相互人材交流を目指す。
平成19年3月6日	DOWA ホールディングス（株）	共同研究の推進、研究者の相互交流、若手研究者の育成、研究施設、研究設備の相互利用を目指す。
平成19年8月3日	宇宙航空研究開発機構（JAXA）	宇宙及び航空科学分野を中心に、生命科学など他分野を含めた共同研究や教育・人材育成を目指す。
平成20年7月25日	実験動物中央研究所	ライフサイエンス分野、生命科学、材料科学並びに心理学、社会科学など相互協力が可能な全ての分野での共同研究、人材の教育・交流を目指す。
平成21年2月19日	高エネルギー加速器研究機構（KEK）	素粒子原子核物理、物質生命科学、加速器科学の研究領域における共同研究のさらなる深化、共同研究体制の強化、人材の教育・交流を目指す。
平成21年3月9日	核融合科学研究所	核融合炉に関する研究の更なる推進、人材の教育・交流を目指す。
平成21年4月14日	理化学研究所	理論と実験、計算科学と計算機科学の融合など、広範な学術領域の開拓を図り、計算科学によるイノベーションの創出、国際的に活躍できる人材の育成、人材交流を目指す。
平成22年2月12日	NTT、NTT 東日本	情報通信分野における連携協力の更なる拡大、教育・研究活動の拡充、活性化、異分野融合型の研究開発の推進を目指す。
平成22年6月4日	住友金属鉱山（株）	非鉄金属素材に関する研究推進を図るため、さらなる共同研究、相互交流、人材育成の推進を目指す。
平成23年7月26日	東京海上日動火災保険（株）	地震・津波のリスク評価に関連して、研究開発、人材育成等相互協力が可能な事項について、連携・協力を推進する。
平成23年11月10日	仙台市・筑波大学	生活排水を吸収して石油成分を生産する藻類バイオマスの研究・開発を推進する。燃料生産モデルと新しい循環型システムの実現を目指す。
平成23年11月22日	日本アイ・ビー・エム（株）	巨大地震・津波のリスク評価・減災技術に関連して、研究開発、人材育成等相互協力が可能な事項について、連携・協力を推進する。
平成24年1月19日	情報通信研究機構（NICT）	災害により強い社会の構築に向けて、情報通信ネットワーク及びその利活用の耐災害性強化のための情報通信技術の研究を効果的かつ効率的に推進する。
平成24年10月16日	海洋研究開発機構（JAMSTEC）	共同研究・プロジェクトの推進、人材交流、人材育成、学術資料・リサーチレポート等学術情報の交換、施設・設備等の利用等について、連携・協力を推進する。
平成25年8月1日	(株)東芝	「ヘルスケアビッグデータに関する研究開発」に関連する研究領域において、研究開発、人材育成等の相互協力が可能な事項について、連携・協力を実施する。
平成25年11月12日	物質・材料研究機構（NIMS）	物質・材料分野において、両機関で連携・協力して研究開発や研究設備の相互利用・共同運営、人材交流等を行い、我が国の学術及び科学技術の振興と、社会の発展に寄与することを目指す。
平成25年12月18日	国土交通省東北地方整備局	双方が長年にわたり培ってきた信頼関係を基盤に、防災機能の向上及び地域社会の持続的発展に寄与することを目的に連携・協力の推進・強化を図る。

社会との連携協力

サイエンスカフェ・リベラルアーツサロン

サイエンスカフェとは、高校生など一般の方々と科学者が、コーヒーカップを片手にサイエンスについて気軽に話し合い、社会の広い範囲の方々にサイエンスの楽しさに触れてもらう場です。リベラルアーツサロンとは、文系の幅広い分野から、身近なテーマ・知識欲をかき立てるテーマを取り上げ、気軽に会話に興じるサロンの雰囲気です。

東北大学イノベーションフェア2014

開催日	内容	開催地
2014年1月28日	ものづくり、医療機器、アグリ、ナノテク・材料、環境、エネルギー、情報通信などの各分野における最先端の研究及び若手研究者による萌芽的研究の紹介とプレゼンテーション。震災復興関連特別展示も実施。	仙台国際センター



サイエンスカフェ

社会との連携協力

公開講座

区分	講座の名称	実施部局【講師派遣先高校】
部局主催	第48回東北大学教育指導者講座	教育学研究科
	地球環境計測学特論	環境科学研究科
	東北大学大学院法学研究科公開講座「租税判例の研究」	法学研究科
	第20回公開講座「国際文化基礎講座」アジア経済発展の功罪	国際文化研究科
みやぎ県民大学 大学開放講座	人間理解の方法論	文学研究科
	デザイン思考と事業創造	経済学研究科
	口の働きー食を楽しむためにー	歯学研究科
	私たちの食糧と健康と環境	農学研究科
	循環型社会の実現を目指して	環境科学研究科
	地球にやさしいエネルギーと環境・省エネルギー技術～太陽電池・半導体・超伝導～	金属材料研究所
	ながれ	流体科学研究所
	物質・材料研究への誘い	多元物質科学研究所
	東北アジアの人間と環境	東北アジア研究センター
	光を放つ半導体のおはなし	多元物質科学研究所
「学都仙台コンソーシアム」 サテライトキャンパス 公開講座	どんな社会に住みたいですか？（適正技術と社会関係資本）	環境科学研究科
	あなたの血管の「加齢」を考えましょう＝世界の中の日本人の血管	加齢医学研究所
	薬理学者から市民への伝言 パート3 薬物治療について	医学系研究科
	文明史観から「地球環境」を読み解く～映画を見て考える地球環境問題	工学研究科
	日本語教育は面白い	文学部
	ナノ空間にある水分子のふるまいー身近な物質の不思議を考えるー	理学部
	匠の手を目指してー触覚・触感に基づく QOL テクノロジーの創出ー	工学部
	鉄の不思議～ナノ・ミクロ組織の世界～	工学部
	首刈と食人	文学部
	「発達」とは何か	教育学研究科
高校生のための公開講座	表現の自由をめぐる諸問題	法学部
	財政赤字問題について	経済学部
	制度設計と経済学	経済学部
	光で操るミクロの世界～化学反応から細胞まで～	理学研究科
	音を使ったエンジン、音で冷やすクーラー	工学部
	植食性昆虫はどうやって自分の餌植物を探しているのか？	農学部
	経済データから見る格差問題	経済学部
	光を使って伝える・測る	工学部
	生物生産と生態系	農学部
	経済学入門：需要と供給の価格理論	経済学部
	深部がんや骨疾患の治療に貢献する医用材料	工学部
	動物はなぜ体に脂肪を貯めるのか？	農学部
	地学（天文学）の世界	理学研究科
	6億年の地球生命史	理学部
	文学部の学問・言語学を例として	文学部
	曲線と曲面の幾何学について	理学部
	環境に優しいバイオマスエネルギーについて	工学部
	東日本大震災をもたらした地震と津波の発生のメカニズムについて	理学部
	宇宙の構造と進化	理学部
	私はなぜプラズマロケットを研究しているのか？～大学で学ぶこと、理学と工学の違い	工学研究科
	天然資源と薬	薬学研究科
	大学で学ぶヨーロッパ史	文学部
	東北大学農学部概要紹介と発酵微生物の分子生物学研究	農学研究科
	ビッグバン以前を観る	理学部
	生体・環境に調和する柔らかくてバイオなマシンづくり	工学部
	脳科学研究について	医学部
	社会現象にも法則がある（ニュートンのりんごと経済学）	経済学部
	生命の豊かさの慶り方	生命科学研究科
	民法の考え方について	法学部
	化学・バイオ工学科の教育カリキュラムと超臨界流体の研究開発事例	工学研究科
	東北経済の歴史と現状ー3.11を踏まえてー	経済学部
	最先端構造材料モデリング	工学部
	大学とは？学問とは？野茂とイチローはどちらがえらいか？	理学部
	東北大学医学部保健学科の紹介	医学部
	再生医療～歯の再生を目指して～	歯学部
	薬学における環境汚染物質研究	薬学部
	匠の手を目指してー触覚・触感に基づく QOL テクノロジーの創出ー	工学部
	農学研究科の魅力とフィールド研究の面白さ	農学部
	日本の地盤災害	災害科学国際研究所
	陶淵明の詩のことば	文学部
	表現の自由をめぐる諸問題	法学部
	経済成長と環境問題	経済学部
	音を使ったエンジン、音で冷やすクーラー	工学部
	プラズマ推進ロケットで宇宙を旅する	工学部
	医師の人生設計	医学部
	細胞内をものが動く仕組み～メラニンの輸送から日焼けまでのプロセスを探る～	理学部
	間違えだらけの学力向上～今、教育はどこへ向かうのか？～	教育学部
	政治学から見た震災後の課題	法学部
	最適性の科学	経済学部
	スマートマテリアルシステムの飛躍に向けて	工学部
	“快適でエコな建物”を創る建築環境工学	工学部
	分子レベルで薬をつくる	薬学部
	地球の歴史と生物圏進化	理学部
	農学部における有機化学研究ー昆虫フェロモンの化学合成を中心としてー	農学部
	建築・社会環境工学演習（グループD）	工学部
高校生のための公開授業	公共政策入門	
	からだの生物学	
	東北の「みらい」を拓く新聞論	
	英語で異文化コミュニケーションー国際共修ゼミー	
	西洋近代史への誘い	
	急成長する中国の科学技術と経済	
	教育と科学技術	東北大学全学教育
	言語としての手話入門	
	日本の歴史と伝統文化ー国際共修ゼミー	
	「ことば」の世界を探検してみませんか	
高校生のための公開授業	オーロラから探る宇宙環境	
	コンピュータが創る世界	

■ 東北大学萩友会

東北大学萩友会は、創立100周年を迎えた平成19年に次の100年の大学づくりの礎として発足しました。本会は15万人に及ぶ同窓生に加えて、約1万8千人の在校生、約6千人の教職員、そして在校生の家族等を会員とし、会員相互の親睦と交流、発展に資するとともに、大学と会員とのコミュニケーションを密にして「東北大学コミュニティ」の連帯意識の醸成、強化などを目指しています。



東北大学萩友会の会員（同窓生・在校生・現職の教職員・在校生の家族等）が親睦・交流を図るイベントとして、東北大学ホームカミングデー及び各地区での交流会を開催しております。

東北大学106周年ホームカミングデー

東北大学ホームカミングデーとは、同窓生が旧友や恩師と再会し、在校生と親睦・交流を深めていただくため、そして何より「母校にかえってきていただきたい」という思いを込めた企画であり、平成19年から毎年10月に開催しております。

今回は本学卒業生のシンガーソングライター小田和正さんよりプレゼントいただいた、校友歌「緑の丘」が記念コンサートでサプライズ発表され、初演が行われました。

日時：平成25年10月12日（土）

会場：百周年記念会館 川内萩ホール

○仙台セミナー「荒木飛呂彦の世界に科学とユーモアはどこまで迫れるのか？
ー東北大学は扉を開き、道を切り拓くッ！ー」

○在校生と卒業生との親睦会 ○秋の文化フェスティバル ○ロビー・パフォーマンス

○東北大学106周年ホームカミングデー 記念コンサート



仙台セミナー



記念コンサートでの校友歌「緑の丘」初演

各地区での交流会

同窓生や在校生の保護者等を対象に平成21年から各地区で交流会を開催し、本学の現況や最先端の研究成果等を紹介しながら親睦・交流を深めることで、本学及び萩友会の活動への理解と関心を深めていただくことにより、当該地区における大規模な「東北大学コミュニティ」の醸成を図っております。

○東北大学106周年萩友会関東交流会

日時：平成25年7月15日（月・祝）15:00～19:00

会場：サピアタワー（東京ステーションコンファレンス5階）

○東北大学107周年萩友会関西交流会

日時：平成26年3月1日（土）15:30～19:30

会場：新大阪江坂東急イン



講演会



懇親会

第4回萩友会プレミアム会員懇談会

今回のプレミアム会員懇談会では主に在校生の保護者を対象とし、教育の取り組みや学生生活の支援制度などを紹介しながら懇談を行いました。また、キャンパスライフの体験として川内キャンパスの自由見学、学食体験等を行いました。保護者を中心に約400名の参加がありました。

日時：平成26年6月7日（土）

会場：東北大学川内キャンパス



大学の取組紹介

「片平キャンパス散策マップ」と「新入生向け広報誌」の発行

○片平キャンパス散策マップ「散歩ロジーのおススメ」

東北大学発祥の地として知られる片平キャンパスには、本学の奥深い歴史とともに歩んできた建造物や記念碑の数々がそこかしこに息づいています。このマップを片手に、歴史息づく建物や記念碑を見て本学の歴史に触れていただくため制作しました。

○新入生向け広報誌

里見総長をはじめとした15名の本学卒業生および現役学生に現在の関心事、入学当時のエピソードを語っていただくことで、新入生が将来の自分自身を思い描ききっかけとし、また、15名の“先輩方”の母校を思う姿を通じて、新入生の中に「母校への愛着の芽」を育てることを目的として制作しました。



片平キャンパス散策マップ



新入生向け広報誌

■ 東北大学基金

創設・概要

東北大学は、多くの皆様からご協力をいただいた「東北大学創立100周年記念事業募金」を原資として、平成20年4月に「東北大学基金」を創設し、平成22年度より事業を開始しました。寄せられた寄附金は、大切に効率よく運用しながら、本学の教育研究活動に活用しています。

○一般基金（大学全体の活動を広く支援する基金）



教育・研究支援

教育・研究に対する助成やキャンパス・施設等の環境整備を行います。



学生支援

奨学金や就学環境の充実、学生の課外活動支援を行います。



国際交流・留学生支援

学生の海外留学など、国際交流活動の支援を行います。



産学官連携・社会貢献活動

産学官連携の充実や卒業生との連携、社会貢献活動の支援を行います。

○特定基金（使途を特定して支援する基金）



震災復興支援基金

東日本大震災によって被災した学生の支援等を行います。



青葉山新キャンパス整備基金

青葉山新キャンパスの整備に活用します。

主要な事業

東北大学基金

グローバル萩海外留学奨励賞

学術交流協定を締結している海外の大学等に留学する、学業成績が優秀な学生に授与しています。



東北大学基金

課外活動奨励賞

課外活動で優秀な成績を収めた学生団体や、本学や地域社会に多大なる貢献をした学生団体に授与しています。



学生団体の

企画事業等に対する助成

学友会サークルの垣根を越えた企画事業や、社会・地域への貢献を目指す企画事業に対して助成を行っています。



東北大学短期海外研修

スタディアブロードプログラムを支援

夏休みや春休みの2～5週間を利用して行う研修プログラムの参加学生に対し奨学金を支給しています。



東北大学入学前海外研修を支援

入学予定者を対象に、米国カリフォルニア大学リバーサイド校で行う2週間の研修プログラムの費用の一部を支援しています。



卒業生の活動を支援

東北大学萩友会との共催で、同窓生や在校生の保護者等との連携、交流を図る事業を支援しています。



学術交流協定締結等

大学間協定

32ヶ国・地域 190機関

オーストリア

- * The Global Education for European Engineers and Entrepreneurs (GE4) (2002.11.14)
- * ウィーン大学 (2010.2.24)

ベルギー

- ベルギー原子力研究センター (2005.6.16)

フィンランド

- * アアルト大学 (2001.11.5)
- * オウル大学 (2004.8.9)
- * タンペレ工科大学 (2006.1.31)

フランス

- * ピエール・マリー・キュリー大学 (1999.8.19)
- * レンヌ第2大学 (1999.12.3)
- * グルノーブル大学 (2000.3.31)
- * ストラスブール大学 (2000.3.31)
- * レンヌ第1大学 (2000.12.20)
- * 国立応用科学院リヨン校 (2004.7.13)
- * ボルドー第1大学 (2005.7.28)
- * 国立中央理工科学校 (2006.2.13)
- リール校
- リヨン校
- マルセイユ校
- ナント校
- パリ校
- * アルピ鉱山大学 (2006.9.12)
- * リオン政治学院 (2008.6.6)
- * リオン高等師範学校 (2008.8.11)
- * エコール・ポリテクニク (2009.9.9)
- * リオン第2大学 (2009.10.20)
- * コンピエンヌ工科大学 (2010.3.15)
- * サンティエヌ国立高等鉱山学校 (2012.4.5)
- * ボルドー工科大学 (2013.7.5)
- リオン大学 (2013.9.9)

ドイツ

- * アーヘン工科大学 (1998.5.19)
- * ドルトムント大学 (1999.3.2)
- * ザールラント大学 (1999.10.5)
- * ダルムシュタット工科大学 (2003.4.30)
- * ゲッティンゲン大学 (2003.10.23)
- * ドレスデン工科大学 (2006.6.26)
- * ベルリン工科大学 (2009.8.26)
- * ミュンヘン工科大学 (2010.8.3)
- * カールスルーエ工科大学 (2011.1.18)
- * カイザースラウテルン工科大学 (2012.2.1)
- * ハイデルベルク大学 (2012.2.2)
- * ヨハネスグーテンベルク大学 (2012.2.6)
- ドイツ航空宇宙センター (2013.3.1)
- * パダボーン大学 (2013.8.21)
- * ケムニッツ工科大学 (2013.10.31)

イタリア

- ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 (1990.9.27)
- * フィレンツェ大学 (2009.8.21)
- * トリノ工科大学 (2010.11.24)
- * ナポリ大学 (2012.3.28)
- * ペローナ大学 (2013.5.13)
- * ミラノ工科大学 (2013.5.14)

オランダ

- * グローニンゲン大学 (2011.11.17)

ポーランド

- ポーランド科学アカデミー・触媒表面化学研究所 (1999.8.4)

ロシア

- ロシア科学アカデミー・シベリア支部 (1992.8.10)
- * モスクワ国立大学 (1998.2.19)
- * ノボシビルスク国立大学 (2003.7.4)
- ロシア科学アカデミー・極東支部 (2012.1.23)
- * ニジェゴロド国立大学 (2012.3.19)
- * 極東連邦大学 (2012.3.19)

スペイン

- * グラナダ大学 (2012.9.27)
- * バリャドリッド大学 (2014.6.11)

スイス

- * スイス連邦工科大学ローザンヌ校 (2000.11.20)
- * スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (2010.7.21)

スウェーデン

- * ウーメオ大学 (1997.8.18)
- * 王立工科大学 (2000.9.20)
- * ウプサラ大学 (2002.3.20)
- * ストックホルム大学 (2003.1.14)
- * チャルマース工科大学 (2006.4.19)

イギリス

- インペリアル・カレッジ・ロンドン "Imperial College London" (1988.5.4)
- ロンドン大学 "The London School of Economics and Political Science" (1989.1.3)
- ロンドン大学 "The School of Oriental and African Studies" (1989.4.10)
- ノッティンガム大学 (2001.5.15)
- ヨーク大学 (2004.06.07)
- * シェフィールド大学 (2009.8.21)
- ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (2013.11.21)

ウクライナ

- * ウクライナ国立工業大学 (キエフ工科大学) (2004.6.2)

モロッコ

- * ムハンマド5世大学 - アグダル (2001.4.30)

南アフリカ

- * クワズールー・ナタール大学 (2010.12.20)

イラン

- * テヘラン大学 (1999.8.25)

トルコ

- * イスタンブール工科大学 (2011.10.3)

中国

- * 東北大学 (1983.8.5)
- * 中国科学技術大学 (1998.6.15)
- * 清華大学 (1998.8.31)
- * 南京大学 (1999.9.1)
- * 北京大学 (1999.11.10)
- * 吉林大学 (2001.3.1)
- * 浙江大學 (2001.4.9)
- * 復旦大学 (2001.4.19)
- * 武漢理工大學 (2001.4.30)
- * 重慶大学 (2001.7.4)
- * 同済大学 (2002.8.13)
- * 中国海洋大学 (2002.10.21)
- * 北京科技大学 (2002.10.25)
- * 南京航空航天大学 (2003.3.10)
- * 厦門大学 (2005.6.29)
- * 華中科技大学 (2005.10.12)
- * 西安交通大学 (2006.8.31)
- * 華東師範大学 (2006.9.20)
- * 北京航空航天大学 (2006.12.16)
- * 蘭州大学 (2007.4.17)
- * 天津大学 (2007.6.8)
- * 大連理工大学 (2007.6.16)
- * 揚州大学 (2008.6.20)
- 中国社会科学院 (2008.10.15)
- * 東南大学 (2009.6.29)
- * 上海交通大学 (2009.10.15)
- * 北京工業大学 (2010.10.16)
- * 北京郵電大学 (2010.10.17)
- * 香港科技大学 (2011.2.1)
- * 上海海洋大学 (2011.12.5)
- * 中国地質大学 (武漢) (2012.2.6)
- * 香港城市大学 (2012.3.17)
- * 東北財経大学 (2013.3.19)
- * 上海大学 (2014.5.7)

インド

- * インド工科大学ボンベイ校 (2000.8.21)
- * インド科学大学 (2008.12.18)

インドネシア

- * インドネシア大学 (2004.3.19)
- * ガジャマダ大学 (2006.12.16)
- * バンドン工科大学 (2008.6.4)
- * ボゴール農科大学 (2010.3.23)

モンゴル

- モンゴル科学アカデミー (2000.8.21)
- * モンゴル科学技術大学 (2001.11.16)

(平成26年8月現在)

シンガポール

*シンガポール国立大学(2000.9.16)

韓国

*全北大学校(1991.11.12)
 *ソウル大学校(1998.7.8)
 *光州科学技術院(2000.8.21)
 *釜慶大学校(2000.8.21)
 *浦項工科大学校(2000.9.22)
 *韓国科学技術院(2001.4.24)
 *忠南大学校(2001.7.9)
 *慶北大学校(2002.9.2)
 *嶺南大学校(2003.12.3)
 *東義大学校(2003.12.19)
 *朝鮮大学校(2004.3.18)
 *高麗大学校(2004.3.31)
 *国立昌原大学校(2005.10.2)
 *西江大学校(2007.2.2)
 *延世大学校(2007.5.29)
 *釜山大学校(2007.7.26)
 *国立公州大学校(2007.7.29)
 *中央大学校(2008.3.27)
 *慶熙大学校(2010.3.5)
 *成均館大学校(2012.3.15)
 *国民大学校(2012.4.10)

台湾

*国立台湾大学(2000.11.18)
 *国立台湾海洋大学(2002.3.8)
 *国立中正大学(2003.11.14)
 *国立成功大学(2005.8.9)
 *国立交通大学(2005.12.15)
 *国立中興大学(2009.3.30)
 *国立清華大学(2009.12.2)
 *国立政治大学(2011.4.22)
 *東吳大学(2014.8.8)

タイ

*アジア工科大学院(1998.11.9)
 *スラナリー工科大学(2001.3.1)
 *キングモンクット工科大学ラカバン校(2004.4.15)
 *チュロンコン大学(2011.2.3)
 *タマサート大学(2012.4.5)
 *チェンマイ大学(2012.4.10)
 *キングモンクット工科大学トンブリ校(2012.11.26)

ベトナム

*ベトナム国立大学ハノイ校(2009.7.6)
 *貿易大学(2013.8.15)

オーストラリア

*シドニー大学(1993.1.8)
 *ニューサウスウェールズ大学(2001.4.7)
 *オーストラリア国立大学(2002.7.16)

ニュージーランド

*オークランド大学(2002.11.15)

カナダ

*ウォータールー大学(2006.10.30)
 *オタワ大学(2009.6.26)

アメリカ

*ペンシルベニア州立大学(1988.11.29)
 *カリフォルニア大学(1990.3.15)
 パークレー校
 デービス校
 アーヴィン校
 ロサンゼルス校
 マーセド校
 リバーサイド校
 サンディエゴ校
 サンフランシスコ校
 サンタバーバラ校
 サンタクルス校
 ワシントン大学(シアトル)(1996.7.3)
 *バーデュー大学(1997.9.23)
 *アラスカ大学(1999.1.12)
 *コロラド鉱山大学(2004.1.7)
 *シラキュース大学(2008.11.19)
 *国際教育協会(2009.1.27)
 *デンプル大学(2010.6.7)
 ハーバード大学(2010.7.22)
 *テキサス A&M 大学(2011.9.13)
 *ハワイ大学マノア校(2012.3.11)
 保健社会福祉省国立衛生研究所(2013.5.9)
 *ニューヨーク州立大学オールバニー校(2014.5.1)

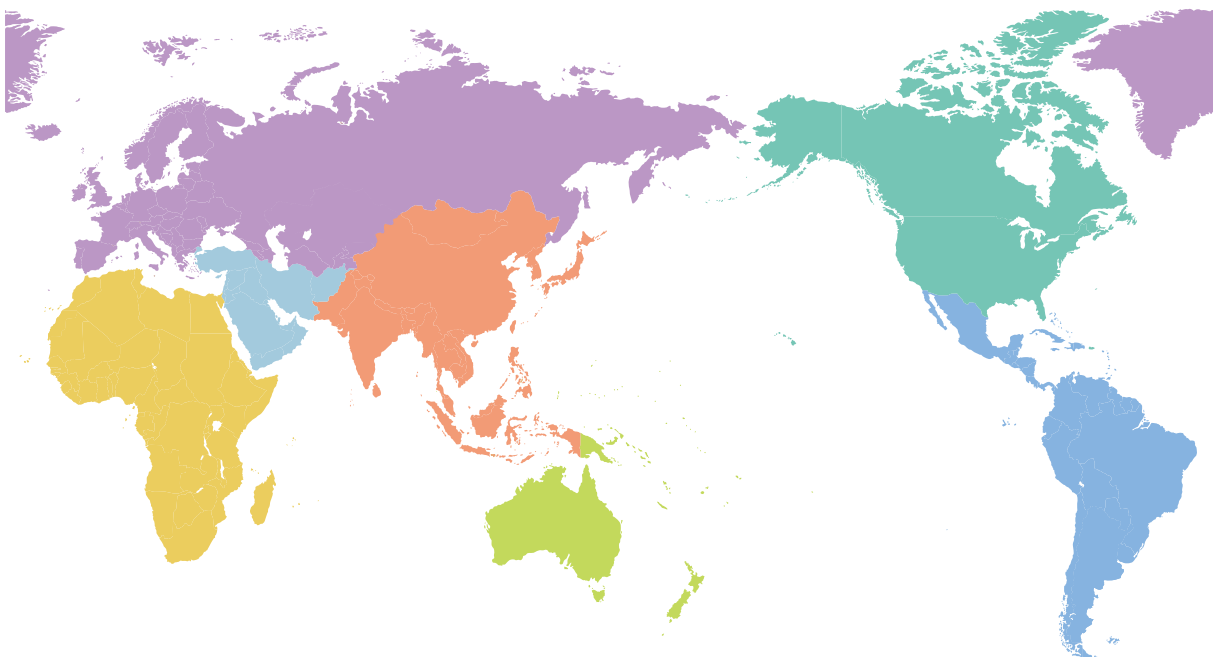
ベネズエラ

*シモン・ボリバル大学(2008.1.8)

国際機関

ITER 国際核融合エネルギー機構(2013.12.24)

注1) *印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す。
 注2) 協定大学名の後の括弧は協定締結年月日。



学術交流協定締結等

部局間協定

47ヶ国・地域 359機関

エリア	国・地域	機 関	部 局	締結年月日
アジア	パングラティシュ (1) 中国 (66)	タツカ大学生物科学部	農学部・農学研究科	2014/04/27
		北京航空航天大学材料学院	金属材料研究所	2005/11/25
		北京师范大学教育学部	教育学部・教育学研究科	2013/05/08
		衛生部北京医院	医学部・医学系研究科	1994/11/16
		中国医科大学	医学部・医学系研究科	1982/09/29
		* 中国地質大学 (武漢) 地球科学学院	理学部・理学研究科	2011/04/29
		中国地質大学 (武漢) 材料科学与化学工程学院	金属材料研究所	2010/07/07
		中国科学院長春光学精密機械物理研究所	多元物質科学研究所	2000/12/26
		* 中国科学院化学研究所	工学部・工学研究科	2006/11/06
		中国科学院化学研究所	原子分子材料科学高等研究機構	2010/04/12
		中国科学院金属研究所	金属材料研究所	1997/11/26
		* 中国科学院物理研究所	金属材料研究所	1993/02/17
		中国科学院物理研究所	流体科学研究所	2001/05/21
		中国科学院半導体研究所	電気通信研究所	2007/04/12
		中国科学院固体物理研究所	金属材料研究所	1985/01/01
		中国科学院上海硅酸塩研究所	金属材料研究所	1998/12/03
		中国科学院上海有機化学研究所	農学部・農学研究科	2005/06/07
		中国社会科学院法学研究所	法学部・法学研究科	2003/07/03
		* 重慶理工大学重慶自動車学部	流体科学研究所	2012/07/09
		大連市口腔医院	歯学部・歯学研究科	2013/04/01
		* 大連理工大学研究生院	工学部・工学研究科	2000/06/12
		大連理工大学材料科学・工程学院	金属材料研究所	2005/10/07
		東北財経大学会計学院	経済学部・経済学研究科	2005/05/01
		* 華東師範大学教育科学学院	教育学部・教育学研究科	2013/11/29
		* 華東師範大学与認知科学院	教育学部・教育学研究科	2013/11/29
		* 華東理工大学機械・動力工学部	工学部・工学研究科	2010/07/25
		福建医科大学口腔医学院	歯学部・歯学研究科	2013/04/01
		広東省民族宗教研究院	東北アジア研究センター	2001/06/25
		杭州師範大学教育科学学院	教育学部・教育学研究科	2013/03/29
		* ハルビン工業大学	工学部・工学研究科	1996/08/03
		ハルビン工業大学計算機科学・技術学院	情報科学研究科	2010/07/05
		* ハルビン医科大学	医学部・医学系研究科	2000/06/21
		* 河北連合大学	工学部・工学研究科	2009/02/20
		華僑大学材料科学工程学院	多元物質科学研究所	2001/06/05
		* 湖南大学金融学院	経済学部・経済学研究科	2009/04/26
		内蒙古師範大学蒙古学院	東北アジア研究センター	2008/04/01
		内蒙古大学蒙古学学院	東北アジア研究センター	2008/09/22
		遼寧省腫瘤病院・遼寧省腫瘤研究所	加齢医学研究所	1998/12/07
		中央民族大学蒙古語文学系	東北アジア研究センター	2014/02/25
		* 南京師範大学教育科学学院	教育学部・教育学研究科	2010/11/25
		* 南京大学化学・化学工学科	理学部・理学研究科	2014/03/28
		東北大学	工学部・工学研究科	1981/11/23
		東北大学	多元物質科学研究所	1981/11/23
		* 中国海洋大学	農学部・農学研究科	2001/12/25
		北京大学ナノ科学技術研究センター	多元物質科学研究所	1998/11/05
		北京大学日本研究センター	教育学部・教育学研究科	1999/05/18
		中国人民大学商学院	経済学部・経済学研究科	2004/10/14
		* 中国人民大学公共管理学院	情報科学研究科	2008/10/27
		* 上海交通大学	環境科学研究科	2013/11/12
		* 上海海洋大学	農学部・農学研究科	2002/10/31
		四川大学華西口腔医学院	歯学部・歯学研究科	2006/09/28
		四川大学華西薬学院	薬学部・薬学研究科	2010/02/17
		* 東南大学経済管理学院	経済学部・経済学研究科	2010/07/27
		西南大学心理学部	加齢医学研究所	2012/11/05
		香港科技大学	金属材料研究所	1996/10/01
		香港科技大学科学部	原子分子材料科学高等研究機構	2010/04/01
		* 香港大学 LI KA SHING 医学部	医学部・医学系研究科	2013/11/01
		天津医科大学口腔医学院	歯学部・歯学研究科	2010/07/08
		天津大学材料学院	金属材料研究所	2006/07/21
		内蒙古師範大学旅游学院	東北アジア研究センター	2011/09/28
		清華大学近代物理研究所及び応用物理系	金属材料研究所	1994/08/10
		清華大学水利水電工程系	流体科学研究所	1993/09/20
		* 電子科技大学	工学部・工学研究科	2009/06/22
		武漢理工大学	金属材料研究所	1994/05/13
		* 西安建築科技大学 環境・市政工程学院	環境科学研究科	2013/12/19
		* 西安電子科技大学	工学部・工学研究科	1999/08/12
		鄭州大学材料工程学院	多元物質科学研究所	2003/06/16
	インド (2)	ブネ国立化学研究所	工学部・工学研究科	1999/04/28
		* インド工科大学マドラス校	工学部・工学研究科	2013/12/16
	インドネシア (9)	ガジャマダ大学農学部	環境科学研究科	2014/06/11
		* インドネシア科学院	工学部・工学研究科	2006/03/14
		* バンボン工科大学	工学部・工学研究科	2000/03/24
		バンボン工科大学	環境科学研究科	2008/01/17
		* バジャジャラン大学数学・自然科学部	工学部・工学研究科	2011/01/31
		バジャジャラン大学医学部	医学部・医学系研究科	2012/02/03
		* バジャジャラン大学大学院	農学部・農学研究科	2010/03/18
		* セブル・ノーベンバー工科大学	工学部・工学研究科	2006/12/21
		* ブラウィジャヤ大学 数学・自然科学部	理学部・理学研究科	2013/11/17
		モナシ大学サンウエイ校	医工学研究科	2014/01/06
	マレーシア (1)			
	モンゴル (3)	* モンゴル医学アカデミー	医学部・医学系研究科	2010/03/24
		* モンゴル農業大学	農学部・農学研究科	2013/02/28
		モンゴル科学技術大学ジョサイエンスセンター	東北アジア研究センター	2000/10/02
	フィリピン (3)	* ミンダナオ州立大学イリガン工技校	工学部・工学研究科	1999/09/09
		国立熱帯医学研究所	医学部・医学系研究科	2013/01/25
		サンラザロ病院	医学部・医学系研究科	2003/09/17
	シンガポール (4)	* ナンヤン工科大学工学部	工学部・工学研究科	2010/10/12
		ナンヤン工科大学機械・航空宇宙工学部	流体科学研究所	2000/04/14
		シンガポール生産技術研究所	金属材料研究所	2005/05/06
		デマセック・ポリテクニク	加齢医学研究所	2013/07/15
	韓国 (40)	国立昌原大学校基礎科学研究所	金属材料研究所	2004/04/09

(平成26年6月現在)

エリア	国・地域	機 関	部 局	締結年月日
アジア	韓国	全南大学校歯科大学	歯学部・歯学研究科	1991/08/30
		* 全南大学校工科大学	工学部・工学研究科	2007/11/12
		忠北大学校薬学大学	薬学部・薬学研究科	1998/11/23
		* 忠南大学校工科大学	工学部・工学研究科	2000/07/20
		東義大学校電子セラミックス研究センター	金属材料研究所	2002/05/31
		* 東国大学校文科大学	文学部・文学研究科	2012/07/04
		韓南大学校ハイブリッド材料研究所	多元物質科学研究所	2003/01/17
		漢陽大学校セラミックス工程研究センター	金属材料研究所	1999/05/13
		* 漢陽大学校工科大学及び大学院	工学部・工学研究科	2007/01/09
		* 漢陽大学校工学部	流体科学研究所	2012/04/03
		仁荷大学校工科大学	金属材料研究所	2000/06/21
		済州大学校農科大学	農学部・農学研究科	1984/08/07
		* 建国大学校大学院、工学部、建築学部、情報通信学部、生命環境科学部	工学部・工学研究科	2010/07/22
		* 国民大学校社会科学大学	法学部・法学研究科	2004/07/22
		韓国科学技術院電子部品・材料設計人力教育センター	金属材料研究所	2000/05/11
		韓国科学技術研究院	金属材料研究所	1989/11/15
		韓国国立海洋大学校工科大学	金属材料研究所	2009/04/15
		高麗大学校日本学研究センター	東北アジア研究センター	2008/04/25
		高麗大学校中国学研究所	東北アジア研究センター	2008/04/25
		高麗大学校師範大学	教育学部・教育学研究科	2011/12/10
		高麗大学校・工科大学・材料工学科	金属材料研究所	2005/11/26
		韓国生産技術研究院光州研究センター	環境科学研究所	2006/02/24
		明知大学校社会教育大学院	教育学部・教育学研究科	2000/03/17
		浦項工科大学校先端材料科学機構	原子分子材料科学高等研究機構	2010/03/27
		* 釜慶大学校	工学部・工学研究科	1995/02/13
		釜山大学校素材技術研究所	金属材料研究所	2007/02/26
		釜山大学校生産技術研究所	金属材料研究所	1996/10/28
		産業科学技術研究所	金属材料研究所	1996/04/21
		* ソウル大学校師範大学	教育学部・教育学研究科	2014/03/28
		ソウル大学校自然科学大学	金属材料研究所	1993/07/14
		ソウル大学校機械・航空宇宙工学部	流体科学研究所	2013/06/20
		順天大学校農生命科学大学	生命科学研究所	2002/08/07
		* 成均館大学校工学部	流体科学研究所	2008/04/17
		成均館大学校技術革新センター	金属材料研究所	2000/06/20
		成均館大学校情報通信新機能性素材及び工程研究センター	多元物質科学研究所	2003/06/09
		* 又松大学校保健福祉学部	教育学部・教育学研究科	2010/04/23
		* 又松大学校保健福祉大学	医学部・医学系研究科	2007/08/06
		延世大学校原子スケール表面研究所	金属材料研究所	1996/11/14
		* 延世大学校工科大学	工学部・工学研究科	1999/08/24
	台湾 (30)	中央研究院中国文哲研究所	文学部・文学研究科	2004/09/24
		中央研究院地球科学研究所	理学部・理学研究科	2008/12/04
		中央研究院歴史語言研究所	文学部・文学研究科	2003/08/05
		中央研究院物理研究所	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	2008/02/27
		中央研究院社会学研究所	文学部・文学研究科	2013/04/15
		* 長庚大学工学部	流体科学研究所	2011/07/20
		* 天主教輔仁大学外語学院	文学部・文学研究科	2008/12/24
		工業技術研究院情報通信研究所	電気通信研究機構	2013/11/22
		工業技術研究院材料異化工研究所	金属材料研究所	2002/10/29
		工業技術研究院南分院	工学部・工学研究科	2010/01/25
		工業技術研究院南分院	多元物質科学研究所	2009/11/27
		* 開南大学資訊学院	情報科学研究所	2009/05/05
		* 国立高雄大学人文社会科学学院	文学部・文学研究科	2012/04/01
		国立応用研究所ナノデバイス研究所	流体科学研究所	2004/07/21
		国立応用研究所ナノデバイス研究所	学際科学フロンティア研究所	2010/01/18
		国立中央大学物理研究所	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	2011/02/15
		* 国立彰化師範大学理学院	工学部・工学研究科	2008/03/28
		国立政治大学教育学院	教育学部・教育学研究科	2012/09/03
		* 国立政治大学社会科学学院	経済学部・経済学研究科	2010/06/10
		* 国立中山大学文学院中国文学系	文学部・文学研究科	1999/04/03
		* 国立中山大学物理系	電気通信研究所	2013/05/08
		国立台北大学社会科学学院	情報科学研究所	2007/10/08
		* 国立台北大学商学院	経済学部・経済学研究科	2010/07/26
		* 台東大学師範学院	教育学部・教育学研究科	2008/12/05
		国立台湾師範大学教育学院	教育学部・教育学研究科	2011/03/04
		国立台湾大学工学部	金属材料研究所	1998/03/23
		* 東興大学商学院	経済学部・経済学研究科	2007/09/27
		* 台北医学大学薬学科	薬学部・薬学研究科	2013/11/15
		* 台北医学大学医学科	医学部・医学系研究科	2013/05/17
		台北医学大学公衆衛生栄養学院	農学部・農学研究科	2006/04/28
	タイ (9)	* チェンマイ大学理学部	多元物質科学研究所	2008/06/09
		* カセサート大学工学部	工学部・工学研究科	2013/11/11
		* カセサート大学水産学部	農学部・農学研究科	2002/02/24
		* コーンケン大学管理科学学部	経済学部・経済学研究科	2010/08/02
		* マヒドン大学医学部 Ramathibodi 病院	医学部・医学系研究科	2013/11/01
		* プリンソ・オブ・ソクラー大学工学部	工学部・工学研究科	2001/01/16
		泰日工業大学	経済学部・経済学研究科	2007/10/23
		泰日工業大学	工学部・工学研究科	2008/07/21
		* タマサート大学シリントン国際工学部	情報科学研究所	2008/01/21
		* 貿易大学国際経済学部	経済学部・経済学研究科	2010/01/14
	ベトナム (5)	* ハノイ工科大学	工学部・工学研究科	2009/03/27
		* ベトナム国家大学ホーチミン市・理科大学	工学部・工学研究科	2009/07/20
		* ベトナム科学技術アカデミー・材料科学研究所	工学部・工学研究科	2008/02/14
		* 水資源大学	工学部・工学研究科	2007/01/30
		* シラズ大学工学部	工学部・工学研究科	2002/03/01
		クウェート科学研究所	多元物質科学研究所	2013/02/18
		トルコ (1)	金属材料研究所	2007/07/19
		イスตันบูล工科大学材料科学生産技術応用研究所	金属材料研究所	1996/01/02
		エジプト (2)	工学部・工学研究科	2013/05/12
		* エジプト日本科学技術大学	理学部・理学研究科	2013/09/16
	南アフリカ (1)	* ロース大学理学部	工学部・工学研究科	2006/01/10
		オーストラリア (4)	工学部・工学研究科	2006/01/10
		* グリフィス大学工学・情報学部	工学部・工学研究科	2006/01/10

注) *印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す。

学術交流協定締結等

部局間協定

エリア	国・地域	機 関	部 局	締結年月日
オセアニア	オーストラリア	マッコーリー大学・オーストラリアン・スクール・オブ・アドバンスト・メディシン クイーンズランド工科大学衛生保健学部看護学科 メルボルン大学微粒子流体プロセスセンター	加齢医学研究所 医学部・医学系研究科 原子分子材料科学高等研究機構	2014/04/15 2006/04/10 2011/10/26
	ニュージーランド (1)	ニュージーランド地質・核科学研究所	理学部・理学研究科	2008/03/19
北米	カナダ (6)	マギル大学モントリオール神経研究所 マギル大学金属プロセス研究センター ブリティッシュコロンビア大学歯学部 トロント大学航空宇宙研究所 トロント大学金属・材料科学科 * ビクトリア大学工学部	加齢医学研究所 多元物質科学研究所 歯学部・歯学研究科 流体科学研究所 多元物質科学研究所 情報科学研究科	2010/06/08 1998/11/30 2001/04/23 1994/06/20 1998/12/01 2009/12/21
	アメリカ (24)	カーネギー研究機構地球物理学研究所 コロムビア大学化学科 コロムビア大学理工学部地球・環境工学科 ハーバード大学理工学部 ノースイースタン大学 ライス大学工学部 ライス大学工学部 ラトガース大学ワイヤレスネットワーク研究所 (WINLAB) ニューヨーク州立大学ナノスケール科学技術カレッジ * ニューヨーク州立大学オルバーニー校 シラキュース大学工学部 * ニューヨーク市立大学シテカレッジ工学部 フォーサイス研究所 アリゾナ大学 カリフォルニア大学ロサンゼルス校純粋応用数学研究所 カリフォルニア大学サンタバーバラ校工学部 イリノイ大学シカゴ校 * イリノイ大学アーバナ・シャンペン校工学部電気・コンピューター工学科 イリノイ大学工学部・バイオアクステクス研究所 イリノイ大学工学部・バイオアクステクス研究所 ケンタッキー大学工学部 ペンシルベニア大学工学部 ユタ大学金属工学科 * ワイオミング大学工学部	理学部・理学研究科 多元物質科学研究所 多元物質科学研究所 金属材料研究所 流体科学研究所 金属材料研究所 流体科学研究所 電気通信研究所 電気通信研究所 経済学部・経済学研究科 流体科学研究所 工学部・工学研究科 歯学部・歯学研究科 未来科学技術共同研究センター 原子分子材料科学高等研究機構 金属材料研究所 理学部・理学研究科 医学研究科 工学部・工学研究科 加齢医学研究所 流体科学研究所 金属材料研究所 多元物質科学研究所 工学部・工学研究科	2008/12/01 1995/11/22 1998/10/15 2002/05/31 2013/09/19 2012/01/30 2009/02/18 2009/12/09 2011/09/30 2012/08/06 2001/06/15 2010/12/13 2005/12/09 2009/12/16 2012/08/02 2004/03/12 2000/05/01 2013/07/29 1988/08/29 1988/08/29 2008/11/17 1997/04/25 1998/11/15 2005/06/22
中南米	ブラジル (1)	リオ・グランジ・スル州立大学法学部及び法学修士課程	法学部・法学研究科	2002/09/02
	チリ (2)	* アタカマ大学 * コンセプシオン大学	工学部・工学研究科 工学部・工学研究科	2006/03/22 2009/04/07
ヨーロッパ	キューバ (1)	キューバ・ニューロサイエンス・センター	加齢医学研究所	2008/03/11
	メキシコ (1)	* メキシコ国立工科大学	工学部・工学研究科	2000/03/30
ヨーロッパ	ベルギー (3)	ベルギー原子力研究センター材料研究部 * ブリュッセル自由大学建築学部 * ルーバンカトリック大学理学研究科	金属材料研究所 工学部・工学研究科 理学部・理学研究科	2004/04/15 2010/09/02 2007/08/29
	チェコ (5)	チェコ科学アカデミー・プラズマ物理研究所 * マサリク大学医学部 マサリク大学医学部 マサリク大学理学部 * VSB - オーストラバ工科大学	流体科学研究所 医学部・医学系研究科 加齢医学研究所 生命科学研究所 工学部・工学研究科	2000/01/25 2008/05/28 2008/05/28 2002/10/22 1997/11/10
ヨーロッパ	デンマーク (5)	* オールボー大学通信基盤研究センター * デンマーク工科大学 * コペンハーゲン大学 コペンハーゲン大学ヘルシーエイジング研究センター * コペンハーゲン大学経済学部	工学部・工学研究科 工学部・工学研究科 理学部・理学研究科 加齢医学研究所 経済学部・経済学研究科	2010/11/26 2000/04/13 1999/09/20 2012/09/26 2014/06/12
	フィンランド (5)	* アアルト大学経済学研究科 * トゥルク応用科学大学電気通信・e ビジネス学部 ユヴァスキュラ大学 オウル大学歯学部 * トゥルク大学社会科学部	経済学部・経済学研究科 工学部・工学研究科 加齢医学研究所 歯学部・歯学研究科 文学部・文学研究科	2011/07/07 2010/02/22 2012/04/12 2007/04/13 2011/11/01
ヨーロッパ	フランス (20)	アルピュン山大学 * 国立ポルドー高等電気情報通信大学 サンティエヌ・アルピュン山大学材料構造センター * 国立高等産業・企業情報科学大学 * 高等師範学校リヨン校 グルノーブル国立理工科大学熱力学物理化学冶金研究所 * 国立応用科学院トゥールーズ校 * 航空宇宙高等学院 * 国立モンペリエ高等建築大学 国立科学研究所マルセイユ・ナノサイエンス学際センター 国立応用科学院リヨン校 ロレーヌ国立総合工科大学 オレンジ 放射光施設ソレイユ * 国立パリ高等情報通信大学 * リヨン第一大学理工学部 * メッス大学 リヨンクラウドベルナル大学発光材料物理化学研究所 * トロイ工科大学 * ベルサイユ大学	多元物質科学研究所 工学部・工学研究科 金属材料研究所 工学部・工学研究科 理学部・理学研究科 金属材料研究所 工学部・工学研究科 工学部・工学研究科 工学部・工学研究科 電気通信研究所 流体科学研究所 金属材料研究所 電気通信研究機構 多元物質科学研究所 情報科学研究科 理学部・理学研究科 工学部・工学研究科 金属材料研究所 工学部・工学研究科 工学部・工学研究科	1999/10/04 2008/04/23 1997/04/29 2013/05/29 2006/12/08 2001/02/05 2006/06/13 2013/12/18 2007/07/12 2005/10/24 2004/01/23 1980/09/09 2013/01/09 2013/06/27 2010/03/16 2011/09/09 2002/12/05 1999/11/25 2008/06/13 2011/05/26
	ドイツ (27)	ビーレフェルト大学共同研究センター 701 ブラウンホーファーアルゴリズム・科学計算研究所 (SCAI)、材料メカニズム研究所 (IWM) * ブラウンホーファー研究機構破壊検査研究所 ブラウンホーファー研究機構エレクトロ・ナノシステム研究所 ベルリン自由大学物理学科 イエナ・フリードリッヒ・シラー大学固体物理研究所 ドイツ航空宇宙センター アイエイチビー (IHP-Innovations for High Performance Microelectronics) 結晶成長研究所 * カールスルーエ工科大学 カールスルーエ工科大学微細加工技術研究所 ライプニッツ応用地球科学研究所 * マインツ大学物理学・数学・計算機科学部	理学部・理学研究科 原子分子材料科学高等研究機構 流体科学研究所 原子分子材料科学高等研究機構 多元物質科学研究所 多元物質科学研究所 災害科学国際研究所 電気通信研究所 多元物質科学研究所 情報科学研究科 金属材料研究所 環境科学研究科 理学部・理学研究科	2010/07/23 2013/08/06 2012/09/26 2011/11/08 1997/11/03 1999/07/27 2012/07/17 2001/01/22 2006/10/17 2009/10/26 2008/03/24 2006/09/01 2012/05/03

(平成26年6月現在)

エリア	国・地域	機 関	部 局	締結年月日
ヨーロッパ	ドイツ	マックスプランク核物理研究所	多元物質科学研究所	2009/12/24
		マックスプランク金属研究所	金属材料研究所	1997/04/28
		アーヘン工科大学機械工学部・鉱山冶金・地球科学部	工学部・工学研究科	1992/12/15
		* ハンブルグ・ハールブルグ工科大学	工学部・工学研究科	1997/05/15
		* ボン大学人文学部	経済学部・経済学研究科	2013/06/26
		* エルランゲン大学工学部	工学部・工学研究科	2004/10/05
		* フライブルグ大学マイクロシステム技術研究所	工学部・工学研究科	1999/06/08
		ゲッティンゲン大学法学部	法学部・法学研究科	2000/11/27
		ゲッティンゲン大学材料物理学研究所	金属材料研究所	1996/12/03
		ハイデルベルグ大学法学部	法学部・法学研究科	2003/09/16
		* パダーボーン大学経済学部	経済学部・経済学研究科	2011/01/20
		* レーゲンスブルク大学物理学部	工学部・工学研究科	2009/09/22
		* シュトゥットガルト大学エネルギー技術・プロセス工学・生物工学部	工学部・工学研究科	2011/04/26
		* ヴッパータール大学数学自然科学部	理学部・理学研究科	2012/01/23
	ギリシア (1)	アテネ工科大学機械工学部	流体科学研究所	2004/02/10
		ハンガリー科学アカデミー・物理材料技術研究所	流体科学研究所	1999/04/26
	ハンガリー (3)	センメルweis大学薬学部	流体科学研究所	2009/02/23
		セントイストヴァン大学農学部及び食品学部	農学部・農学研究科	1990/07/02
	アイスランド (1)	* レイキャビク大学計算機科学部	情報科学研究科	2010/06/26
		イタリア (18)	多元物質科学研究所	2007/08/29
		トリエステ放射光研究所	理学部・理学研究科	2013/06/25
		* ビサ高等師範学校エリオ・デジョルジ数学研究センター	情報科学研究科	2005/07/01
		パシリカータ大学工学部	理学部・理学研究科	2012/06/27
		* フェラーラ大学	サイクロロン・ラジオアイソトープセンター	2011/02/15
		フェラーラ大学理学研究科	農学部・農学研究科	2004/02/09
		* ラキア大学実験医学部	法学部・法学研究科	2003/06/12
		ミラノ大学法学部	薬学部・薬学研究科	2003/07/16
		ミラノ大学薬学部	情報科学研究科	2013/03/19
		* モデナ・レッジョ・エミリア大学物理・コンピューターサイエンス・数学科	金属材料研究所	1999/08/31
		ピサ大学物理学部	工学部・工学研究科	2012/04/05
		* ローマ大学「ラ・サピエンツァ」建築学部	工学部・工学研究科	2010/07/26
		* ローマ大学「ラ・サピエンツァ」情報工学、情報科学および統計学部	情報科学研究科	2010/07/28
		* ローマ大学「ラ・サピエンツァ」情報工学、情報科学および統計学部	文学部・文学研究科	2010/03/15
		* ローマ大学「ラ・サピエンツァ」文学・哲学学部	文学部・文学研究科	2008/02/28
		* ローマ大学「ラ・サピエンツァ」東洋学部	理学部・理学研究科	2013/08/01
		* シエナ大学理学研究科	流体科学研究所	2002/06/28
		トリエステ大学建築工学部	加齢医学研究所	2011/07/21
		トリノ大学	国際文化研究科	1998/02/20
	キルギス (1)	キルギスタン国際大学	医工学研究科	2010/03/23
		オランダ (5)	文学部・文学研究科	2011/02/15
		* エラスムス大学メディカルセンター	医学部・医学系研究科	2014/05/30
		* ライデン大学人文学部	理学部・理学研究科	2013/07/11
		* マーストリヒト大学健康医学生命科学部	経済学部・経済学研究科	2012/09/20
		* アムステルダム大学理学部	金属材料研究所	2002/03/01
		* グローニンゲン大学経済学研究科	金属材料研究所	2000/06/09
		ポーランド (7)	法学部・法学研究科	2003/09/19
		ポーランド電子材料技術研究所	金属材料研究所	2000/12/08
		ポーランド真空工学研究所	電気通信研究所	1976/08/03
		マリア・キュリー・スクロッドスカ大学法学部	情報科学研究科	2009/09/21
		ポーランド科学アカデミー・物理研究所	工学部・工学研究科	2013/02/27
		ポーランド科学アカデミー・物理研究所	多元物質科学研究所	2006/08/04
		ヴロツワフ大学数学・計算科学研究科	東北アジア研究センター	2005/09/01
		* ヴロツワフ工科大学	多元物質科学研究所	2005/12/01
		ルーマニア (1)	多元物質科学研究所	2013/09/02
		レーザ・プラスマ・放射物理国立研究所	文学部・文学研究科	2013/10/09
		ロシア (13)	金属材料研究所	1993/01/27
		ロシア科学アカデミー・極東支部経済研究所	多元物質科学研究所	1993/10/01
		ロシア科学アカデミー・極東支部自動制御プロセス研究所	流体科学研究所	1990/01/01
		モスクワ国立大学化学部／ロシア科学アカデミー地球化学・分析化学研究所	多元物質科学研究所	2000/07/21
		* モスクワ国立大学心理学部	東北アジア研究センター	2009/09/30
		ロシア科学アカデミー・総合物理学研究所	東北アジア研究センター	2002/10/01
		ロシア科学アカデミー・固体物理学研究所	理学部・理学研究科	2008/11/07
		ロシア科学アカデミー・理論及び応用力学研究所	加齢医学研究所	2003/07/18
		ロシア科学アカデミー・レベデフ物理研究所	多元物質科学研究所	1997/12/01
		ロシア科学アカデミー・シベリア支部人文学・北方民族問題研究所	金属材料研究所	2000/10/05
		ロシア科学アカデミー・シベリア支部 V.N. スカチョフ森林研究所	工学部・工学研究科	1998/06/03
		ロシア科学アカデミー・シベリア支部ソボレフ地質学鉱物学研究所	多元物質科学研究所	2014/02/21
		スモレンスクステートメディカルアカデミー	多元物質科学研究所	2013/06/26
		トムスク工科大学原子核物理研究所	電気通信研究所	2011/02/25
		スロベニア (2)	農学部・農学研究科	1996/11/26
		ジョセフ・ステファン研究所	工学部・工学研究科	1990/05/22
		* リュブリャナ大学工学系4学部	工学部・工学研究科	1998/04/02
		アリカンテ大学材料研究所	農学部・農学研究科	2002/05/22
		マドリッド・アウトノマ大学化学部	工学部・工学研究科	1994/07/29
		ピゴ大学	理学部・理学研究科	2012/12/01
		ピゴ大学理学部	歯学部・歯学研究科	2006/08/01
	スウェーデン (3)	* 王立工科大学	多元物質科学研究所	2008/02/28
		* リンショーピン大学工学部	原子分子材料科学高等研究機構	2010/03/15
		* スウェーデン農科大学農業・景観計画・園芸学部及び獣医学部	原子分子材料科学高等研究機構	2003/06/12
		スイス (1)	原子分子材料科学高等研究機構	2012/06/27
		スイス連邦工科大学ローザンヌ校	原子分子材料科学高等研究機構	2013/04/08
		イギリス (12)	経済学部・経済学研究科	2001/02/12
		* キングスカレッジロンドン自然科学・数学科	教育学部・教育学研究科	1999/04/26
		キングスカレッジロンドンデンタルインスティテュート	工学部・工学研究科	2007/03/26
		科学技術設備会議タースベリ研究所	教育学部・教育学研究科	2005/02/04
		ユニバーシティカレッジロンドン (UCL)・数物科学部 (MAPS)	金属材料研究所	2004/05/18
		ケンブリッジ大学材料科学・金属学部	多元物質科学研究所	2006/09/20
		ケンブリッジ大学化学部	国際文化研究科	1998/03/04
		ケンブリッジ大学数学部	環境科学研究科	2005/03/08
		ケンブリッジ大学社会学部		
		レスター大学社会学部		
		ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション		
		* マンチェスター大学物理学工学部機械・航空・土木工学科		
		ヨーク大学教育学部		
		ヨーク大学電子工学部		
		ウクライナ (1)		
		材料科学基礎国立研究所		
	ウズベキスタン (2)	タシケント国立経済大学		
		タシケント国立経済大学		

注) *印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す。

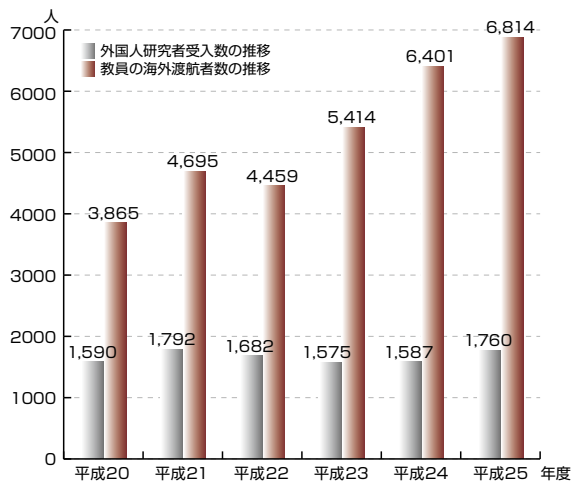
(平成25年度実績)

外国人研究者等受入状況

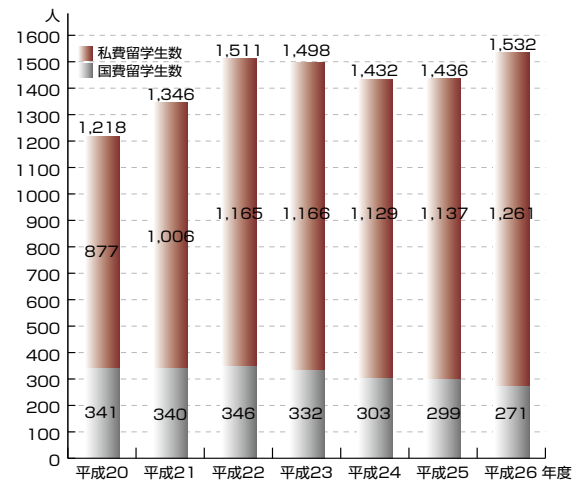
[illegible]

研究者受入等状況

教職員の海外渡航者数及び外国人研究者等受入数の推移



外国人留学生受入数の推移



海外拠点

海外事務所

	設立
① 中国代表事務所 Tohoku University China office	2007年 4月20日
② ロシア代表事務所 Tohoku University Russia Office	2010年 9月11日
③ ロシア代表事務所シベリア支部 Tohoku University Russia Office Siberia Branch	2010年 9月11日



リエゾンオフィス

締結機関(設置場所)	国名(締結日)	オフィス名	世話部局
④ ニューサウスウェールズ大学 (国際交流センター)	オーストラリア(2002年5月17日)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 法学研究科
⑤ モスクワ国立大学 (物理学部)	ロシア(2002年6月21日)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科
⑥ シラキュース大学 (計算機科学・工学部)	アメリカ(2003年11月19日)	流体科学研究所リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑦ 韓国科学技術院 (機械工学部)	韓国(2003年12月18日)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑧ 国立応用科学院リヨン校 (金属材料物理研究所)	フランス(2004年1月23日)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 加齢医学研究所
⑨ 大連理工大学 (材料科学工程学院)	中国(2005年10月7日)	大連理工大学材料科学工程学院・ 東北大学金属材料研究所共同研究センター	金属材料研究所
⑩ 国立熱帯医学研究所	フィリピン(2007年5月1日)	新興・再興感染症共同研究センター	医学系研究科
⑪ 東部ビザヤ地域医療センター	フィリピン(2008年1月11日)	新興・再興感染症共同研究センター・タクロバンオフィス	医学系研究科
⑫ バギオ市総合病院・医療センター	フィリピン(2008年12月)	新興・再興感染症共同研究センター・バギオオフィス	医学系研究科
⑬ バンボン工科大学	インドネシア(2011年8月2日)	環境科学研究科 環境リーダーリエゾンオフィス	環境科学研究科
⑭ ソウル大学校 (工科大学)	韓国(2011年12月1日)	日本国4大学(北海道大学、東北大学、東京大学、 名古屋大学)工学部等と大韓民国ソウル大学校工科大学の 間における連絡オフィス	工学研究科
⑮ スウェーデン王立工科大学 (機械学科)	スウェーデン(2012年6月28日)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科
⑯ カリフォルニア大学 リバーサイド校	アメリカ(2013年2月1日)	東北大学センター	高度教養教育・学生支援機構

外国人留学生数

外国人留学生数(国・地域別、費用、学籍別)

地域	国・地域	費用別人数						計	学籍別人数												
		国費		私費					大学院生				研究生			その他					
				政府派遣		その他			学部生	博士・前期	博士・後期	博士・四年	学部	大学院	研究所等	研修コース	日本語 (学部)	特別聴講学生 (大学院)	特別聴講学生	特別研究学生	科目等履修生
		男	女	男	女	男	女														
アジア(18ヵ国・地域) 1,275人 83.2%	インド	4	3			4	3	14	2	4	7					1					
	インドネシア	19	5	8	1	29	18	80	17	30	21	2	2			2	5		1		
	韓国	16	6	14	1	72	28	137	45	21	59	3					9				
	カンボジア	1				1		2		2											
	シンガポール		1			2	1	4	2								2				
	スリランカ	2					1	3	1	1	1										
	タイ	7	3	1		27	17	55	13	10	13	2	2	1			5		9		
	台湾					21	21	42	2	8	12		2		2		9		7		
	中国	30	19	16	19	365	368	817	45	329	256	25	90	9	10		35		18		
	ネパール	3	1			1		5	2	2	1										
	パキスタン	5				3	1	9	2	1	3			1		2					
	バングラデシュ	18	1			4		23	1	2	16	3				1					
	フィリピン	4	3			3		10		1	5		1			2	1				
	ブルネイ		1					1				1									
	ベトナム	9	2			7	6	24	1	13	8						2				
	マレーシア	2	1	17	14	4	5	43	29	5	7	1		1							
	モンゴル	1	1		1		2	5	2	1	2										
	ラオス	1						1								1					
中近東(7ヵ国・地域) 30人 2.0%	イエメン	1						1			1										
	イラン	3	2			4	5	14		2	8	4									
	オマーン	1						1		1											
	サウジアラビア			1				1				1									
	トルコ	4	1	1		3	1	10	2	1	7										
	バーレーン	1						1			1										
	ヨルダン	2						2		1	1										
アフリカ(14ヵ国・地域) 25人 1.6%	アルジェリア		1			2		3			2					1					
	ウガンダ					1		1			1										
	エジプト	2				1		3			1	1								1	
	エチオピア	1	1					2		1	1										
	エリトリア	1						1		1											
	カメルーン	1				1	1	3		1		1	1								
	コートジボアール		1					1		1											
	コンゴ民主共和国		1				1	2		1		1									
	スーダン	1						1			1										
	ボツワナ	1						1								1					
	マリ	1						1		1											
	モザンビーク					1		1			1										
	モロッコ					1	1	2		1	1										
	リビア	2	1					3		1		2									
オセアニア(3ヵ国・地域) 4人 0.1%	ソロモン	1						1			1										
	ニュージーランド		1				1	2								1	1				
	フィジー	1						1								1					

(平成26年5月1日現在)

地域	国・地域	費用別人数						計	学籍別人数											
		国費		私費					大学院生				研究生			その他				
				政府派遣		その他			学部生	博士・前期	博士・後期	博士・四年	学部	大学院	研究所等	研修コース	日本語 (学部)	特別聴講学生 (大学院)	特別研究学生	科目等履修生
		男	女	男	女	男	女													
北米(2カ国・地域) 31人 2.0%	アメリカ合衆国	4	2			17	5	28	3	5	4			1		1	14			
	カナダ	2	1					3		1	1		1							
中南米(13カ国・地域) 62人 4.0%	エクアドル	1						1			1									
	キューバ	1						1		1										
	グアテマラ		1					1					1							
	コスタリカ	1						1	1											
	コロンビア	1				1		2		2										
	ニカラグア	1				1		2				1		1						
	パナマ	1						1		1										
	ブラジル	10		13	3	2		28	1	3	3	2	1			1	17			
	ベネズエラ	5	1			1	1	8		2	3		1				2			
	ペルー	5						5	1	1	3									
	ボリビア	1	1			2	2	6		2	3					1				
	ホンジュラス	1						1			1									
	メキシコ	2				2	1	5		1	3	1								
ヨーロッパ(26カ国・地域) 105人 6.8%	アイスランド	2						2			2									
	アルメニア		1					1		1										
	イギリス	1				3	1	5		2	1						2			
	イタリア					2		2										1	1	
	エストニア		1					1			1									
	オーストリア					1		1									1			
	オランダ					1		1		1										
	キプロス					1		1			1									
	ギリシャ					1	1	2											2	
	キルギス		1					1			1									
	スウェーデン					8	4	12									10		2	
	スペイン					2	1	3									1		2	
	スロバキア		1					1		1										
	ドイツ	2	1			15	6	24	1	1	4			1			9		8	
	トルクメニスタン	1						1			1									
	ノルウェー					1		1							1					
	ハンガリー	1					1	2			2									
	フィンランド	1				4	1	6		1							4		1	
	フランス	1			1	14	6	22		5	3	1			1		2		10	
	ブルガリア	1						1			1									
	ベルギー					1		1											1	
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1						1		1										
	ポーランド	2	2					4			3						1			
	ラトビア		1					1		1										
	リトアニア	2	1					3	1							1	1			
	ロシア	1	2			2		5		1	2								2	
計(83カ国・地域)		198	73	71	40	639	511	1,532	174	477	482	52	102	15	14	17	133	1	65	

外国人留学生数

外国人留学生数(国・地域別、部局別)

地域	国・地域	在籍者数	部局別在籍者数																			
			文学部・文学研究科	教育学部教育学研究科	法学部・法学研究科	経済学部経済学研究科	会計大学院	理学部・理学研究科	医学部・医学系研究科	歯学部・歯学研究科	薬学部・薬学研究科	工学部・工学研究科	農学部・農学研究科	国際文化研究科	情報科学研究科	生命科学研究科	環境科学研究科	医学研究科	教育情報学教育部	金属材料研究所	加齢医学研究所	流体科学研究所
アジア (18カ国・地域)	インド	14						3	1			7				1	1					
	インドネシア	80	5	2		1	24	5				16	11	4	7	1	2					
	韓国	137	21	2	4	8	13	9				63	3	5	3	2	2	1	1			
	カンボジア	2				1						1										
	シンガポール	4					1					1	2									
	スリランカ	3					1						1				1					
	タイ	55	2			6	7	3				25	2	4	4	1	1					
	台湾	42	11	1	1	2	1	4	5			5	1	4	2		2	1			2	
	中国	817	109	21	23	117	8	57	31	13	15	180	34	73	54	14	37	6	15	3	1	2
	ネパール	5					3					2										
	パキスタン	9				3	1					2	1									
	バングラデシュ	23				2	5	4			1	4	2		1	2	1					
	フィリピン	10					1					2	1		1	1	2					
	ブルネイ	1						1														
	ベトナム	24				3	7				1	9		1	3							
	マレーシア	43				3	1	1			2	29	3		1	2		1				
	モンゴル	5		1		1	1					1	1									
	ラオス	1																				
中近東 (7カ国・地域)	イエメン	1										1										
	イラン	14					5	4	1			3				1						
	オマーン	1					1				1											
	サウジアラビア	1								1												
	トルコ	10					2					5	1		1	1						
	バーレーン	1													1							
	ヨルダン	2				1						1										
アフリカ (14カ国・地域)	アルジェリア	3										1					1					
	ウガンダ	1										1										
	エジプト	3					2	1														
	エチオピア	2					2															
	エリトリア	1						1														
	カメルーン	3						2				1										
	コートジボアール	1				1																
	コンゴ民主共和国	2						2														
	スーダン	1													1							
	ボツワナ	1																				
	マリ	1						1														
	モザンビーク	1												1								
	モロッコ	2										2										
	リビア	3						2				1										
オセアニア (3カ国・地域)	ソロモン	1											1									
	ニュージーランド	2				1																
	フィジー	1																				

(平成26年5月1日現在)

地域	国・地域	在籍者数	部局別在籍者数																												
			文学部・文学研究科	教育学部教育学研究科	法学部・法学研究科	経済学部経済学研究科	会計大学院	理学部・理学研究科	医学部・医学系研究科	歯学部・歯学研究科	薬学部・薬学研究科	工学部・工学研究科	農学部・農学研究科	国際文化研究科	情報科学研究科	生命科学研究科	環境科学研究科	医工学研究科	教育情報学教育部	金属材料研究所	加齢医学研究所	流体力学研究所	電気通信研究所	多元物質科学研究所	災害科学国際研究所	東北アジア研究センター	高度教養教育学生支援機構	未来科学技術共同研究センター	学際科学フロンティア研究所	原子分子材料科学高等研究機構	
北米 (2ヵ国・地域)	アメリカ合衆国	28	3			1		4			14	3		1			1										1				
	カナダ	3						1			1		1																		
中南米 (13ヵ国・地域)	エクアドル	1															1														
	キューバ	1															1														
	グアテマラ	1									1																				
	コスタリカ	1						1																							
	コロンビア	2									2																				
	ニカラグア	2							1	1																					
	パナマ	1				1																									
	ブラジル	28						5	2			17		1	1		1											1			
	ベネズエラ	8				1		1				5			1																
	ペルー	5										4			1																
	ボリビア	6										5																1			
	ホンジュラス	1										1																			
	メキシコ	5	1						1		1	1					1														
ヨーロッパ (26ヵ国・地域)	アイスランド	2	1								1																				
	アルメニア	1												1																	
	イギリス	5	1	1		2								1																	
	イタリア	2	1									1																			
	エストニア	1			1																										
	オーストリア	1				1																									
	オランダ	1				1																									
	キプロス	1															1														
	ギリシャ	2										2																			
	キルギス	1	1																												
	スウェーデン	12	4			2		1				3	1		1																
	スペイン	3						1				2																			
	スロバキア	1						1																							
	ドイツ	24	1			2	3		5			9	1		2	1															
	トルクメニスタン	1										1																			
	ノルウェー	1																		1											
	ハンガリー	2													1		1														
	フィンランド	6				1		1				3			1																
	フランス	22				1	1		2	1		11			4	1						1									
	ブルガリア	1					1																								
	ベルギー	1							1																						
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1										1																			
	ポーランド	4	1						1			1				1															
	ラトビア	1	1																												
	リトアニア	3	1						1																				1		
	ロシア	5	2									2		1																	
計(83ヵ国・地域)		1532	166	28	32	165	9	168	77	17	20	450	69	97	91	31	55	10	16	4	1	3	3	3			17				

国際交流戦略の基本指針

2005年3月8日 東北大学

東北大学は、真理を探究して、新たな知識の創造とその普及に努め、それによって、人類が尊厳を保ちながら平和のうちに共生する社会の実現に貢献することを使命にしている。より具体的には、本学は、多様な分野の学術が集い相互に協力・刺激し合いながら研鑽を積み総合大学として、世界と歴史の知の成果に学び、現在と未来の学問的課題を見極め、新たな知識の発見・創出と社会における公開・応用に取り組むと共に、知を以て人類社会に貢献する意欲と能力を備えた人材を育成することを目指すものである。

本学は、既にこれまで1世紀の間、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」を精神的支柱として掲げてきた。このことは、本学構成員が、開学以来一貫して、研究・教育の国際化が本学の使命・目標を達成するための不可欠の条件をなすと明確に意識してきたことを示している。

近年に目を向けると、本学は、2000年8月に国際交流を通じて世界最高水準の研究・教育拠点作りを目指すことを世界に向けて宣言した。また、2004年4月の法人化に当たり、本学は、「国際競争力のある研究・教育拠点」として発展することを主要目標に挙げた。さらに2004年11月には、本学が今後、「Tohoku University, Creating Global Excellence」（東北大学は世界最高水準の研究・教育を創造します）を標榜することを表明した。

このような宣言・表明からも明らかなように、今日、国際交流の推進は、本学の使命・目標の達成にとってますます重要な位置を占めるものとなっている。また、それ故に、今後の国際交流の立案・実施に当たっては、それを本学の使命・目標の実現に可能な限り役立てるという戦略性が強く求められるに至っている。

したがって、本学は、今後、以下の主要目的を最大限に果たすことを基本指針にして国際交流戦略を立案・実行していかなければならない。

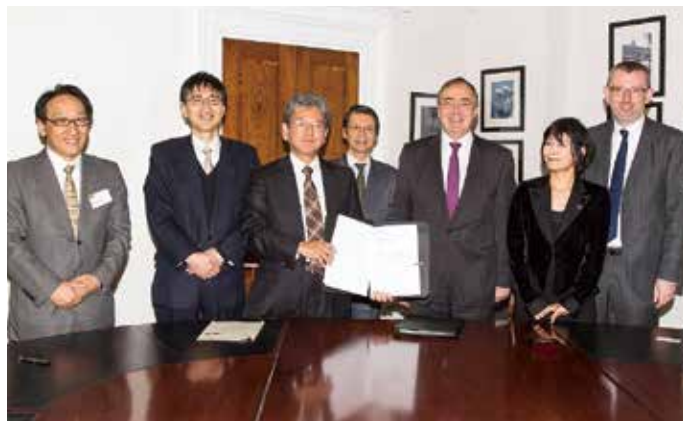
- (1) 国際学術ネットワークを通じた世界最高水準の研究を推進する。
- (2) 広く世界から意欲と能力を備えた俊秀を受け入れて世界の発展に役立つ指導的人材を育成する。
- (3) 研究教育を国際社会に発信するとともに、国際貢献に活用する。
- (4) 上記を達成するために研究・教育基盤を強化し、本学の国際的知名度・信頼性を向上させる。



スイス・シュナイダー・アマン経済・教育・研究大臣来訪



ロシア・モスクワ大学100人派遣プログラム



イギリス・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの大学間学術交流協定を締結



タイ・チュラロンコーン大学でのスタディアブロードプログラム

(平成26年5月1日現在)

国際的な大学連合への加盟

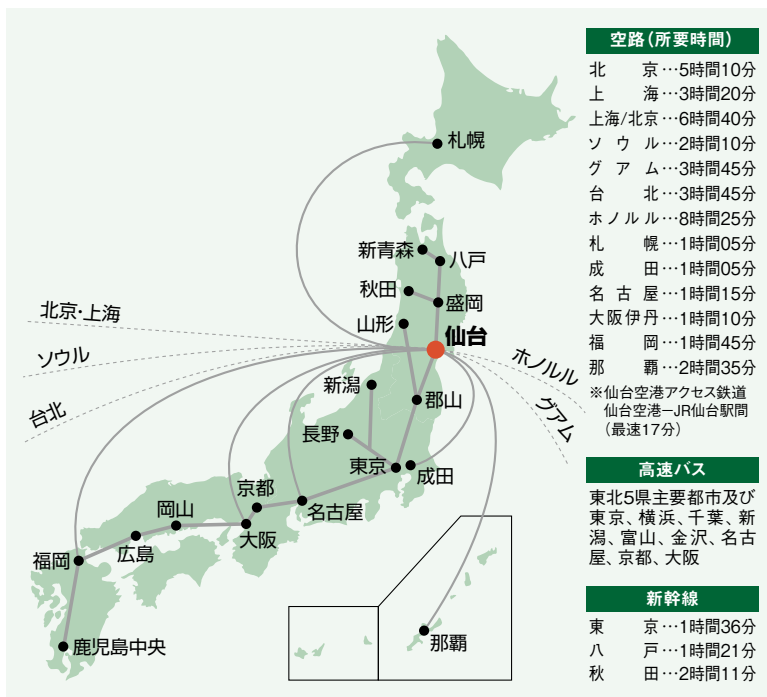
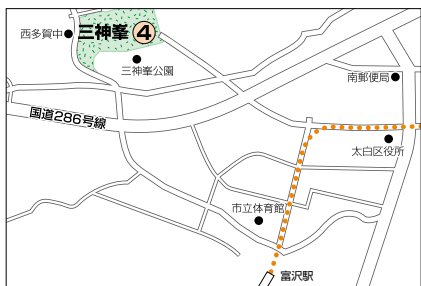
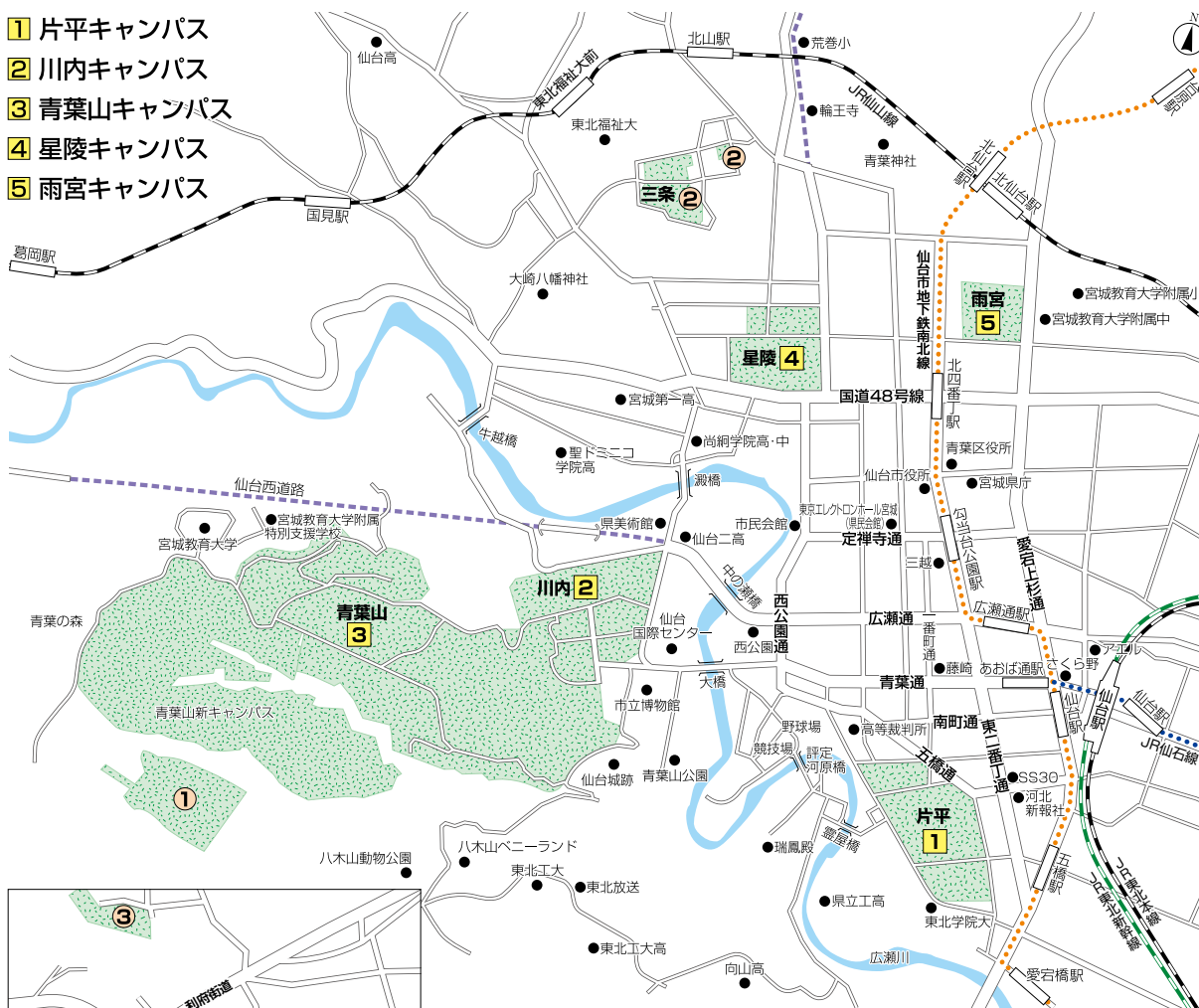
	設立年月	設立の経緯	加盟国・地域 (加盟大学)	本学の 加盟年
環太平洋大学協会 (APRU) (Association of Pacific Rim Universities)	1997.6	環太平洋圏の主要大学間の相互交流を深めることにより、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として設立された。 日本からは、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、慶應義塾大学、早稲田大学が加盟。	16 (45)	2008年
東アジア研究型大学協会 (AEARU) (The Association of East Asian Research Universities)	1996.1	東アジアにおける有力な研究指向型の大学学長間の交流の場を持つこと、および教員・学生の交流など加盟大学間の密接な交流を行うことを目的として設立された。 日本からは、東北大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学が加盟。	4 (17)	1998年
T.I.M.E. (Top Industrial Managers for Europe)	1989.10	ヨーロッパの理工系大学間において、修士課程レベルでのダブル・ディグリープログラムによる交流を通じてトップレベルのエンジニアを養成することを視野に入れて設立された。 ヨーロッパ以外では、日本の東北大学及び慶應義塾大学、ブラジルのサンパウロ大学、中国の西安交通大学、北京航空航天大学、オーストラリアのクイーンズランド大学が加盟。	20 (53)	2007年
日独6大学コンソーシアム (HeKKSaGOn) (A network of six leading universities from Japan and Germany: Heidelberg, Kyoto, Karlsruhe, Tohoku (in Sendai), Göttingen, Osaka)	2010.7	日本とドイツの主要大学の研究者、教職員及び学生の交流、共同研究の推進、サマースクール等の開催など、日独大学間の交流を推進することを目的として設立された。日本からは、東北大学、京都大学、大阪大学が加盟。	2 (6)	2010年
日英産学連携スキーム (RENKEI) Japan-UK Research and Education Network for Knowledge Economy Initiatives	2012	日本と英国の主要大学の連携を基盤とし、共同研究、知識移転、人材育成の分野において、産業界との連携を強化することを目的として設立された。日本からは、東北大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、立命館大学が加盟。	2 (12)	2012年

第32回 AEARU 理事会
(東北大学)第1回 APRU-IRIDeS
マルチハザードサマースクール (東北大学)RENKEI サマースクール
(イギリス・ブリストル大学)

施設所在地一覧

主要地区

- 1 片平キャンパス
- 2 川内キャンパス
- 3 青葉山キャンパス
- 4 星陵キャンパス
- 5 雨宮キャンパス



その他の地区

施設名	住所・郵便番号 (県名のないものは宮城県)	代表電話番号
① 西澤潤一記念研究センター(マイクロシステム融合研究開発センター)	〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉519-1176	022(229)4113
国際交流会館三条第一会館	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022(275)9901
② ユニバーシティ・ハウス三条	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022(274)7305
国際交流会館三条第二会館	〒981-0935 仙台市青葉区三条町10-15	022(718)7850
③ 国際交流会館東仙台会館	〒983-0833 仙台市宮城野区東仙台6-14-15	022(293)5591
④ 電子光物理学研究センター	〒982-0826 仙台市太白区三神峯1-2-1	022(743)3400
⑤ 東北大学けんこうプラザ	〒989-3204 仙台市青葉区南吉成6-6-5	022(341)2453
⑥ 理学研究科附属惑星プラズマ・大気研究センター 惑星圏女川観測所	〒986-2204 牡鹿郡女川町桐ヶ崎字桐ヶ崎	0225(53)3374
⑦ 農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	〒986-2242 牡鹿郡女川町小乗浜字向15	0225(53)2436
⑧ 農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター(教育関係共同利用拠点)	〒989-6711 大崎市鳴子温泉字蓬田232-3	0229(84)7312
⑨ 川渡共同セミナーセンター	〒989-6711 大崎市鳴子温泉字原75	0229(84)7309
⑩ 生命科学研究科潜水生態系野外実験施設	〒989-4104 大崎市鹿島台町広長字内ノ浦134-2	0229(56)2020
⑪ 理学研究科附属惑星プラズマ・大気研究センター 惑星圏蔵王観測所	〒989-0916 刈田郡蔵王町遠刈田温泉七日原	0224(34)2743
⑫ 生命科学研究科附属浅海海洋生物学教育研究センター	〒039-3501 青森県青森市大字浅虫字坂本9	017(752)3388
⑬ 学術資源研究公開センター植物園八甲田山分園	〒030-0111 青森県青森市大字荒川字南荒川山1-1	017(738)0621
⑭ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター(秋田県地震観測所)	〒011-0936 秋田県秋田市將軍野南1-14-46	018(845)8716
⑮ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター(本荘地震観測所)	〒015-0091 秋田県由利本荘市大築	0184(29)2124
⑯ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター(三陸地震観測所)	〒022-0101 岩手県大船渡市三陸町越喜来字小泊114	0192(44)2107
⑰ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター(遠野地震観測所)	〒028-0545 岩手県遠野市松崎町駒木4-120-74	0198(62)2800
⑱ 金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター	〒311-1313 茨城県茨城郡大洗町成田町2145-2	029(267)3181
金属材料研究所附属研究施設関西センター(大阪オフィス)	〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町1-2 大阪府立大学内 地域連携研究機構8階	072(254)6372
金属材料研究所附属研究施設関西センター(兵庫オフィス)	〒671-2280 兵庫県姫路市書写2167 兵庫県立大学内 インキュベーションセンター2階	079(260)7209
⑳ 理学研究科附属惑星プラズマ・大気研究センター 惑星圏飯館観測所	〒960-1636 福島県相馬郡飯館村前田	0244(42)0530
㉑ ニュートリノ科学研究センター 液体シンチレータ反ニュートリノ観測施設	〒506-1205 岐阜県飛騨市神岡町東茂住上町408	0578(85)0030
㉒ 東北大学東京分室	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10階	03(3218)9612
㉓ 東京サイト	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2	03(3273)3602
㉔ 東北大学中国代表事務所(Tohoku University China Office)	北京市中关村北四环西路33号 中国科学院文献情报中心616号室 日本学術振興会北京研究連絡センター内	+86-158-1128-2681
㉕ 東北大学ロシア代表事務所(Tohoku University Russia Office)	Department of Low Temperature Physics and Super conductivity, Faculty of Physics, M.V.Lomonosov Moscow State University, Leninskie gory, 1, Moscow 119899, Russia	+7-916-490-8380
㉖ 東北大学ロシア代表事務所シベリア支部 (Tohoku University Russia Office Siberia Branch)	Exhibition Center, Zolotodolinskaya Street, 11, Novosibirsk, 630090, Russia	

学寮、国際交流会館、ユニバーシティ・ハウス、応急学生寄宿舍

施設名称	収容定員	所在地	電話番号
日就寮(男子)	103名	〒982-0832 仙台市太白区八木山緑町16-3	022-229-1858
以文寮(男子)	96名	〒982-0832 //	022-229-5392
舞風寮(男子)	81名	〒982-0832 //	022-229-4954
如春寮(女子)	64名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022-272-9857
明善寮(男子)	160名	〒980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目3-2	022-234-0134
松風寮(男子)	150名	〒980-0011 //	022-275-1221
ユニバーシティ・ハウス三条(男子、女子、留学生)	416名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022-274-7305
ユニバーシティ・ハウス三条Ⅱ(男子、女子、留学生)	216名	〒981-0935 //	022-718-2021
ユニバーシティ・ハウス片平(男子、女子、留学生、外国人研究者)	81名	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-14-15	022-797-9301
国際交流会館三条第一会館(留学生、外国人研究者)	254名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022-275-9901
国際交流会館三条第二会館(留学生)	108名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町10-15	022-718-7850
国際交流会館東仙台会館(留学生)	70名	〒983-0833 仙台市宮城野区東仙台6-14-15	022-293-5591
応急学生寄宿舍(川内地区)(男子、女子、留学生)	64名	〒980-8576 仙台市青葉区川内41	(問合せ先) 学生支援課 生活支援係 022-795-3943
応急学生寄宿舍(三条地区)(男子、女子、留学生)	208名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	
応急学生寄宿舍(上杉地区)(男子、女子、留学生)	32名	〒980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目3-2	
応急学生寄宿舍(長町地区)(男子、女子、留学生)	48名	〒982-0011 仙台市太白区長町八丁目2	

課外活動施設

施設名称	住所
評定河原運動場・合宿所	〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1
名取ボート艇庫・合宿所	〒981-1201 名取市下増田字屋敷10-1
釜房ボート艇庫	〒989-1505 柴田郡川崎町大字小野字西田10-8
戸田ボート艇庫・合宿所	〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園5-50
七ヶ浜ヨット艇庫	〒985-0802 宮城県七ヶ浜町吉田浜字浜屋敷61-5
萩雪ヒュッテ	〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉荒敷820-1 電話 023-694-9094
清溪小屋	〒980-0800 刈田郡蔵王町字倉石岳国有林305口林小班
片平中央体育館	〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
片平応急課外活動施設	//
片平(2・5・6)ホール	//
富沢野球場	〒982-0826 仙台市太白区三神峯1-5
富沢自動車練習場	〒982-0826 仙台市太白区三神峯1-6
青葉山馬場	〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
川内ホール	〒980-8576 仙台市青葉区川内41
川内サークル会館	//
課外活動室A	//
サークル部室E・F・G	//
川内サブアリーナ棟	//



ユニバーシティ・ハウス片平

建物配置図

1 片平キャンパス

大学本部、研究所



エクステンション教育研究棟

本部事務機構

- 総長室経営企画スタッフ室 26
- 総務企画部総務課 26
- 総務企画部広報課 28
- 人事企画部人事企画課 29
- 人事企画部人事給与課 29
- 人事企画部環境安全推進課 40
- 総務企画部・コンプライアンス推進課 27
- 総務企画部・法務課 29
- 財務部 29
- 研究推進部 29
- 施設部 34
- 情報部情報推進課 27
- 国際交流課 30
- 監査室 27

経済学研究科

- 地域イノベーション研究センター 41

工学研究科

- 人間・環境系都市・建築学専攻仮設校舎 68

生命科学研究科

- 事務室 36
- 生命科学研究科本館 37
- 生命科学プロジェクト総合研究棟 36
- 環境制御実験棟 38

医工学研究科

- 研究室 61
- 法科大学院、公共政策大学院
- 事務室 41

会計大学院

- 事務室、研究室 35
- 講義室 41

金属材料研究所

- 本多記念館(事務室) 9
- 1号館、2号館、3号館、4号館 10 11 12 17
- 10号館(放送大学宮城学習センター) 1
- 共同研究プロジェクト棟 4
- スーパーコンピュータ棟 5
- アルファ放射体実験室 6
- 技術棟I、技術棟II 7 8
- 共通ラボ棟 15
- 国際教育研究棟 16
- 附属新素材共同研究開発センター 13
- 附属強磁場超伝導材料研究センター 14
- 低温物質科学実験室 3

流体科学研究所

- 事務室 42
- 流体研1号館、2号館、3号館 42 44 45
- 高速流実験棟 46
- 衝撃波学際応用実験棟 47
- 環境流体研究棟 70
- GCOE棟 43
- ジョイントラボ棟 48
- 附属未到エネルギー研究センター 44

電気通信研究所

- 事務室 62
- 通研1号館、2号館 61 62 63
- 研究基盤技術センター 65 66
- 共同研究棟 67
- 附属ナノスピコン実験施設 59
- 附属ブレイクウェア研究開発施設 64
- 附属21世紀情報通信研究開発センター 71 72

多元物質科学研究所

- 事務部棟 51
- 多元研東1号館(反応化学研究棟1号館) 19
- 多元研東2号館(反応化学研究棟2号館) 22
- 多元研東3号館(反応化学研究棟旧館) 21
- 多元研西1号館(科学計測研究棟S棟) 24
- 多元研西2号館(科学計測研究棟N棟) 23
- 多元研西工場(工場棟) 25
- 多元研南1号館(素材工学研究棟1号館) 52
- 多元研南2号館(素材工学研究棟2号館) 53

- 多元研南3号館(素材工学研究棟3号館) 54
- 南総合研究棟1(材料・物性総合研究棟II) 57
- 南総合研究棟2(材料・物性総合研究棟I) 58
- 多元研共同研究棟 55
- 多元研図書室 31
- 原子分子材料科学高等研究機構(AIMR)
- 事務室 30
- AIMR本館 30
- AIMRラボ棟 17
- AIMR別館 20
- 史料館 33
- 研究教育基盤技術センター片平分室 36
- 極低温科学センター 3
- 先端電子顕微鏡センター 32
- 産学連携推進本部 29
- 埋蔵文化財調査室 34 39
- キャンパスデザイン室 34

- 省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター 59
- 情報公開室 27
- 産学連携先端材料研究開発センター 73
- インテグレーション教育研究棟 30
- エクステンション教育研究棟 41
- 文化財収蔵庫 49
- 片平北門会館
- ユニバーシティハウス片平、エスパス、セリシール、北門ラウンジ 50
- 厚生施設(さくらショップ) 50
- 厚生施設(さくらキッチン・レストラン) 18
- 片平会館 2
- 片平さくらホール 56
- 厚生施設(学生ホール) 60
- 体育館 69
- 情報通信研究機構耐災害ICT研究センター棟 74



〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

電話番号案内 022(717)7800

0 50 100m

2 川内キャンパス

人文社会科学学部、全学教育

●土地:817,771㎡ ●建物:131,839㎡(平成26年4月1日現在)

川内北キャンパス 〒980-8576 仙台市青葉区川内41
川内南キャンパス 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
電話番号案内 022(717)7800



本部事務機構

教育・学生支援部(管理棟) 7
教育・学生支援部入試課 19
教育・学生支援部留学生課 1

文学部・文学研究科

事務室 22
文学研究科・法学研究科合同研究棟 24
教育学部・教育学研究科
事務室 25

法学部・法学研究科

事務室 23
文学研究科・法学研究科合同研究棟 24
経済学部・経済学研究科
事務室 28

国際文化研究科

事務室 6
仮設校舎A棟 33
仮設校舎B棟 35
附属言語脳認知総合科学研究センター 6

教育情報学研究所・教育情報学教育部

事務室 25
附属図書館 本館 20
東北アジア研究センター
事務室・研究室 3
分室 19

高度教養教育・学生支援機構

事務室 3
保健管理センター、
学生相談・特別支援センター、
ハラスメント全学学生相談窓口 4
入試センター 19
キャリア支援センター 7
大学教育支援センター 3
学習支援センター(SLAサポート) 11
グローバルラーニングセンター 1
教養教育院 35

植物園

本館 30
記念館 31
教育情報基盤センター 11

学生実験棟

川北合同研究棟 3
講義棟A棟、B棟、C棟 8 9 10
マルチメディア教育研究棟 11
中講義棟 26
文科系総合研究棟 25
文科系合同研究棟 27
サークル部室 5 12
厚生施設(川内北キャンパス厚生会館) 13
川内サブアリーナ棟 14
川内体育館 15
川内ホール 16

課外活動室A棟 17

川内サークル会館 18
百周年記念会館(川内萩ホール) 21
厚生施設(文系食堂) 32
応急学生寄宿舍(川内地区) 34



川内キャンパス

青葉山キャンパス

理工学学部



本部事務機構

情報部情報基盤課 29

理学部・理学研究科

事務室(事務棟) 12

理学研究科合同A棟・B棟 24

理学研究科合同A棟別館 25

理学研究科大講義棟 5

数学系研究棟 7

物理系研究棟 2

物理系講義棟 3

物理・化学合同棟 4

化学系研究棟 8

地球科学系研究棟 11

生物学系研究棟 10

超伝導核磁気共鳴装置棟 13

数理科学記念館 6

附属巨大分子解析センター 9

附属大気海洋変動観測研究センター 2

附属惑星プラズマ・大気研究センター 2

附属地震・噴火予知研究観測センター 68

衛星データ解析風洞実験室 77

薬学部・薬学研究科

事務室 15

薬学研究科A棟 15

薬学研究科B棟 16

薬学研究科C棟 17

薬学研究科D棟 18

附属薬用植物園 19

工学部・工学研究科

事務室(中央棟) 46

事務室(管理棟) 41

機械系講義棟(機械・知能系事務室) 57

電子情報システム・応物系1号館(事務室) 39

電子情報システム・応物系2号館 100

電子情報システム・応物系仮設校舎

33 50 51 52 53 54 55

化学・バイオ系事務室 37

マテリアル・開発系事務室 63

マテリアル・開発系共同研究棟 60

マテリアル・開発系仮設研究棟 61 62 63 74 76

マテリアル・開発系 革新材料研究棟 73

マテリアル・開発系実験・工場棟 79

人間・環境系事務室 40

土木工学専攻仮設校舎 48

社会環境工学実験棟 49

工学系総合研究棟 40

創造工学センター 43

応用物理実験棟 31

建築実験所 27

建築実験棟 38

高圧実験室 75

附属エネルギー安全科学国際研究センター 40

附属エネルギー安全科学国際研究センター実験室 72

附属超臨界溶媒工学研究センター 40

附属マイクロ・ナノマシニング研究教育センター 64

技術社会システム専攻事務室 40

機械系1号館 80

機械系実験棟I 81

機械系実験棟J 82

機械系実験研究棟 83

機械・知能系教育実験棟 84

附属エネルギー安全科学国際研究センター破壊物理科学研究棟 85

機械系2号館 86

機械・知能系共同棟 87

量子エネルギー工学専攻本館 88

量子エネルギー工学専攻講義棟 89

RI実験棟 90

生活環境早期復旧技術研究センター研究棟 91

生活環境早期復旧技術研究センター実験棟 92

先進融合炉工学総合実験棟 93

高速中性子実験室 94

臨界未満装置実験室(量子エネルギー科学館) 95

ナノ医工学実験棟 96

ナノ医工学研究棟 97

●土地:784,605㎡ ●建物:284,095㎡(平成26年4月1日現在)

工学研究科・工学部・環境科学研究科・医工学研究科・災害科学国際研究所・未来科学技術共同研究センター 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
上 記 以 外 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
電話番号案内 022(717)7800

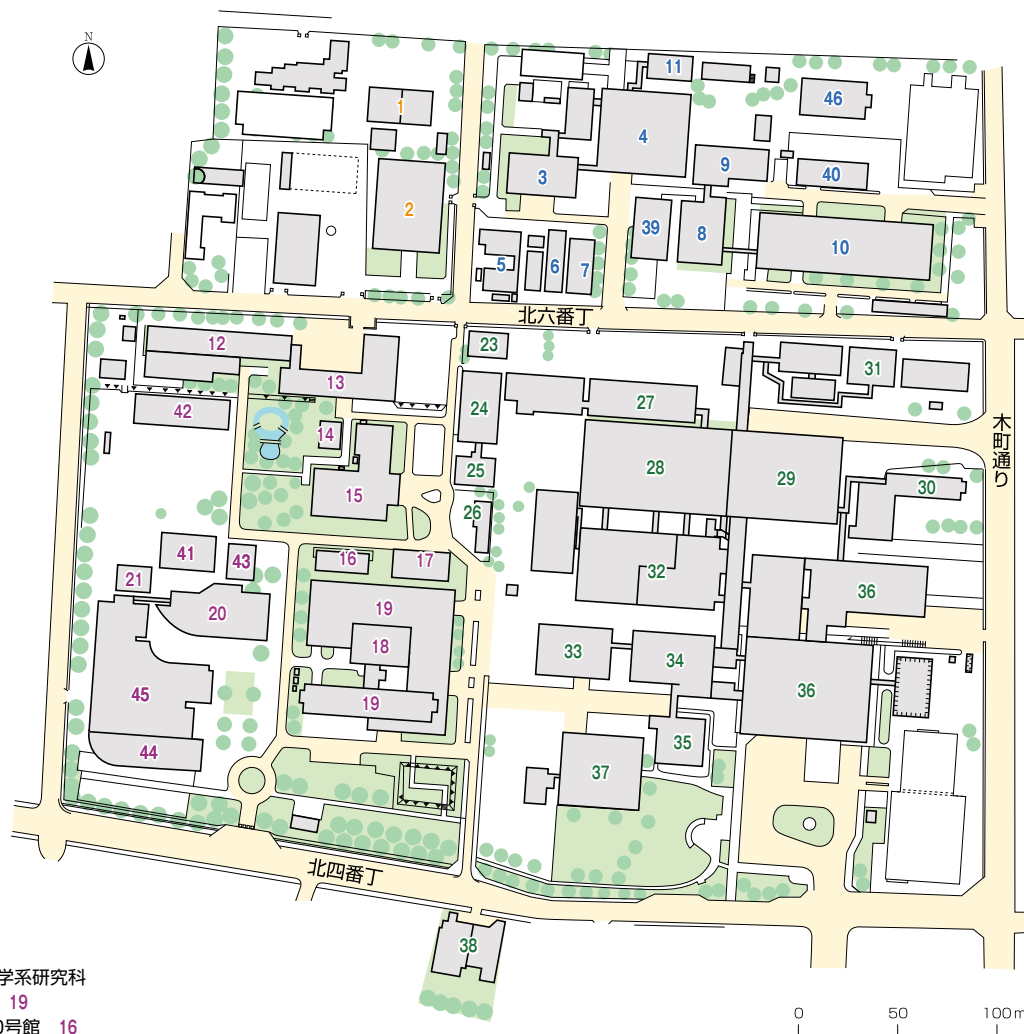


4 星陵キャンパス

医・歯学部、病院

●土地:179,214㎡ ●建物:307,176㎡(平成26年4月1日現在)

病院 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
 医学部・医学系研究科 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
 東北メディカル・メガバンク機構 〒980-8573 仙台市青葉区星陵町2-1
 歯学部・歯学研究科/加齢医学研究所 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1
 電話番号案内 022(717)7000



医学部・医学系研究科

- 事務室 19
- 医学部0号館 16
- 医学部1号館 19
- 医学部2号館 33
- 医学部3号館 34
- 医学部4号館 17
- 医学部5号館 20
- 医学部6号館 44
- 医学部(臨床系)仮設研究棟 42
- 保健学科 12 13
- フロンティア研究棟 14
- プリオン研究実験棟 23
- 動物実験施設 24
- 実習講義棟 18
- 臨床講義棟 35
- 創生応用医学研究センター 20
- オートプシー・イメージングセンター 12
- 環境遺伝医学総合研究センター 19
- 総合地域医療研修センター 38
- 東北大学クリニカル・スキルスラボ 38

歯学部・歯学研究科

- 事務室 10
- 基礎研究棟 8
- 実習講義棟 9
- 臨床研究棟 10
- 第2臨床研究棟 40

薬学研究科

- 研究室 41

医工学研究科

- 研究室 3 10 17 19 20 21 33 34
- 医工学実験棟 21
- 加齢医学研究所
- 事務室 4
- 加齢研実験研究棟 3
- プロジェクト総合研究棟 4
- スマートエイジング国際共同研究センター棟 39
- ブレインイメージング研究棟 6
- ブレインダイナミクス研究棟 7
- 腫瘍動物実験棟 5
- 先進フロンティア研究棟 11

附属図書館 医学分館 37

病院

- 事務室(管理棟) 31
- 外来診療棟 36
- 中央診療棟 32
- 西病棟 28
- 東病棟 29
- 南病棟 30
- 臨床研究推進センター 27
- 先端医療技術トレーニングセンター 43
- 星陵レジデンス 46

動物実験センター 26

- 遺伝子実験センター 3
- 東北メディカル・メガバンク機構棟 45
- RI星陵サブセンター 25
- 星陵学生サークル棟 1
- 星陵体育館 2
- 星陵会館(厚生施設) 15
- 医学部良陵会館 38



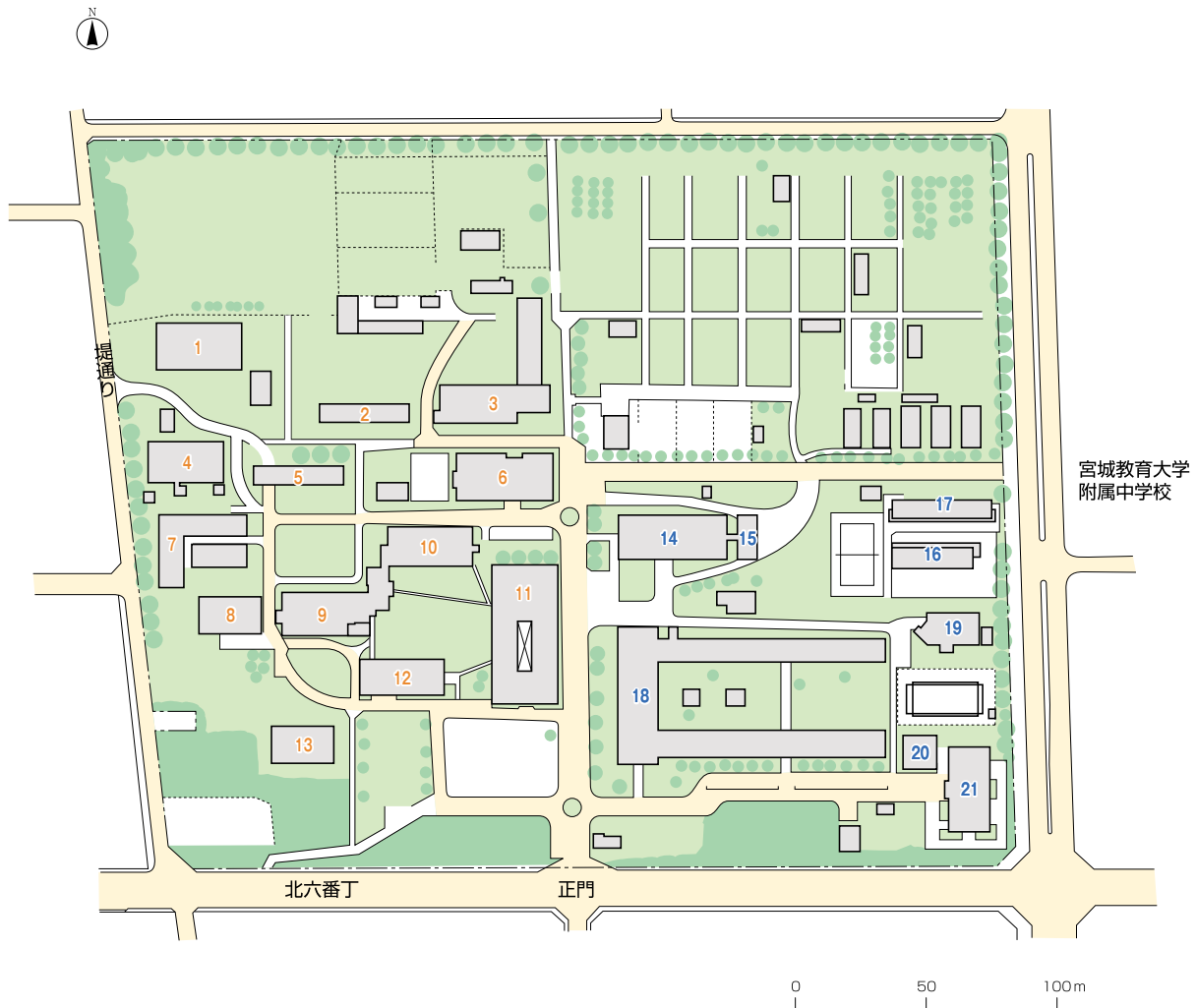
星陵キャンパス

5 雨宮キャンパス

●土地:92,746㎡ ●建物:30,847㎡(平成26年4月1日現在)

〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 電話番号案内 022(717)8603

農学部



農学部・農学研究科
 事務室(管理棟) 12
 農学研究科本館 18
 第一研究棟 9
 第二研究棟 10
 研究実験棟第一 16
 研究実験棟第二 17
 研究実験棟第三 5
 研究実験棟第四 2
 研究実験棟第五 21
 動物飼育実験棟 3
 食品加工実験棟 4
 水産生物飼育実験棟 7
 植物環境応答実験施設 20

附属図書館 農学分館 6

講義棟 11
 講堂 1
 RI実験施設 19
 パワーセンター 8
 事務倉庫 13
 厚生施設 14
 学生談話室 15



雨宮キャンパス

東北大学概要 2014

●
【編集・発行】

平成26年8月

東北大学総務企画部広報課

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

Tel.022-217-4977

●
<http://www.tohoku.ac.jp/>

